Supported by:

Federal Ministry
for Economic Affairs
and Energy

on the basis of a decision
by the German Bundestag

ドイツ
観光の国

www.germany.travel

ドイツ
セールスガイド
2020/21

ドイツ観光局
旅行業界用プランニングマニュアル

ドイツセールスガイド 2020/21

Contents

音楽の国ドイツ
ベートーヴェン生誕250年 …… 3-8

街道の国ドイツ
テーマのある旅 / ドイツメルヘン街道 …… 9-17

美味しいドイツ …… 18-25

祭り
伝統、風習、ふれあい …… 26-31

CITY BREAK
滞在型プランで都市を楽しむ …… 32-39

ドイツの絶景 …… 40-45

環境の国ドイツ
サステイナブルな体験 …… 46-47

ジェネラル インフォメーション

基本情報 …… 51

旅行業・メディア向けオンラインサービス …… 52

ドイツ観光局 オンライン画像データバンク …… 53

主要都市間の距離とドライビングタイム …… 54

ドイツ旅行商品のトレンド …… 55-56

ゲーテ街道セールスガイド …… 57-67

Advertisers

Semperoper Dresden 7
Leipzig Tourismus und Marketing 8
Stiftung Preußische Schlösser und Gärten Berlin Brandenburg 14
Deutsche Märchenstraße 15-17
Franconian Tourist Board 22
Burg Hohenzollern 25
Staatliche Porzellan-Manufaktur Meissen 30
Wendt & Kühn 31
Aschaffenburg Tourism Information 33
Düsseldorf Airport DUS 37
ANA 37
Düsseldorf Tourismus 38
Köln-Düsseldorf Deutsche Rheinschiffahrt 38
Living-Hotels 39
Excelsior Hotel Ernst 39
Deutsche Lufthansa 48
Rail Europe Japan 49-50
Goethe Straße 57-67

旅行業界の皆様へ

ドイツは、バリエーション豊かな旅のテーマを提供できるマルチな魅力を持つ観光国です。
個性化重視の商品作りが重視される中、ドイツは欠かせないデスティネーションになっています。
ドイツ観光局では、毎年グローバルキャンペーンテーマに基づき活動を行っています。
本誌では、2020年のイヤーテーマ「ベートーヴェン生誕250年」と付属テーマ「音楽の国」のほか、日本市場で重視する基幹テーマ「都市と文化」「観光街道と古城」「食文化」においてお勧めの素材を紹介してまいります。
また、弊局の長期テーマ「サステイナブルツーリズム」に関連し、環境視察についても継続的に素材紹介を行っております。
画一的な商品からの脱却と、リピーター獲得のための個性的な商品造成の一助となれば幸いです。

ドイツ観光局
アジア･オーストラリア地区統括局長
西山 晃

ドイツ観光局

〒107-0052　東京都港区赤坂7-5-56
ドイツ文化会館（OAG-Haus）4階
Tel：03-3586-0705（旅行業界用）　Fax：03-3586-5079
Email：office-japan@germany.travel
URL：www.germany.travel
アクセス：地下鉄銀座線・半蔵門線・大江戸線
「青山一丁目」駅下車、４番出口徒歩約７分

ドイツ観光局は世界11カ国に支局、19カ国に代理店を持ち、ワールドワイドに情報を提供しています。

ドイツセールスガイド 2020/21
発 行 日：2019年12月10日
発　　行：ドイツ観光局
編集制作：㈱航空新聞社
編集協力：坂田史男
デザイン：Bax

＊本誌からの記事、写真などの無断転載を禁じます。

Supported by:
Federal Ministry for Economic Affairs and Energy
on the basis of a decision by the German Bundestag

2020年ドイツ観光局イヤーテーマ

音楽の国ドイツ ベートーヴェン生誕250年

バッハ、ベートーヴェン、ブラームスのドイツ三大Bを輩出し、ヘンデル、ワーグナー、シューマン、メンデルスゾーンなど世界的な作曲家の故郷「音楽の国ドイツ」を旅行中に少なくとも一度は音楽に触れる機会を設けたい。ベートーヴェンの生誕250年に当たる2020年は音楽を旅程に組みこむ絶好の年。

Web

© Beethoven-Haus Bonn_Beethoven Jubiläums Gesellschaft mbH

© Beethovenfest Bonn_Sonja Werner

2020記念年の中心はボン

Beethoven Anniversary Year in Bonn

世界でも日本でも最も多く演奏されるベートーヴェン。楽聖は1770年にライン河畔の町ボンで生まれ、生誕250年に当たる2020年はボンが記念年行事の中心舞台となる。記念年期間は2019年12月16日～2020年12月17日。

2020年の記念年行事 BTHVN2020

記念年期間中は国を挙げて多数の行事がボンを中心に開催され、その実施には創設された組織BTHVN2020が当たる。毎日のように行われるコンサート、展示会や各種イベントに関する会場やプログラム等詳細はBTHVN2020ウェブサイトで得ることができる。

© Beethoven Jubiläums Gesellschaft gGmbH

ロゴの５つのアルファベットは中心となる次の５つのテーマを意味している。Bonner Weltbürger（ボン市民）、Tonkünstler（作曲家）、Humanist（ヒューマニスト）、Visionär（夢想家）、Naturfreund（自然愛好家）

BTHVN2020 Web
ボン Web

音楽の国ドイツ

ベートーヴェン生誕250年を機にドイツ観光局は音楽の国ドイツに焦点を当てたB2Cキャンペーンを次々に打ち出し、大きな反響を得ている。今後の展開にも注目。

演奏会と展示会 Concerts & exhibitions

演奏会はボン歌劇場をメイン会場にベートーヴェン・ハウスや大学、教会など様々な場所で行われる。ベートーヴェン・ボン・オーケストラを中心に、国際的演奏家も多数参加し、サイモン・ラトル、クルレンツィス、ケント・ナガノ、バレンボイムによる特別演奏会もある。ベートーヴェン・ハウスでは頻繁に室内楽演奏会が開かれる。演目、日時、予約等は上記実行組織のウェブサイトを参照。数多く開催される展示会の中で、特に注目されるのは下記２件。

ボン連邦美術館
2019/12/17～2020/4/26「ベートーヴェン　世界、市民、音楽」

ベートーヴェン・ハウス
ボンガッセ20番地の生家は2019年12月16日に正式にリニューアルオープンし、オリジナル楽譜、肖像画、グラーフ製作フォルテピアノ、弦楽器、デスマスクなど常設展示、さらに各種特別展が企画される。

BTHVN2020 Web
ベートヴェン・ハウスとボン美術館 Web

ボン ベートーヴェン音楽祭と観光

Beethovenfest & Bonn

かつての西ドイツ首都ボンは、観光ではベートーヴェンの生家とベートーヴェン音楽祭で知られ、
ライン川観光の拠点となる町。記念年に開かれるベートーヴェン音楽祭とボンからのエクスカーションを紹介する。

ベートーヴェン音楽祭
Beethovenfest 2020

2020/3/13〜3/22
2020/9/4〜9/27

世界から注目されているベートーヴェン音楽祭は毎年9月開催が恒例だが、記念年の2020年は3月にも追加開催される。

3月： クルレンツィス指揮ムジカエテルナによるベートーヴェンの全交響曲のチクルス、および伊仏露墺独５ヵ国演奏家によるコンサート。
会場：歌劇場、聖十字架教会

9月： 20余の会場で国際的演奏家による60の演奏会が開かれる。バイロイト音楽祭オーケストラと合唱による第九で開幕。

ベートーヴェン音楽祭 Web
イベントスケジュール Web

ボン観光とエクスカーション
Sightseeing & excursions

ボン市内観光

ベートーヴェン・ハウス、市庁舎、大聖堂の中心部観光は徒歩で約30分。博物館美術館地区、旧首都官邸街やヴィラの多いバート・ゴーデスベルクを巡る定期バス観光は所要２時間。

ボン Web

© DZT_Francesco Carovillano

エクスカーション

I　竜の岩と城
ロマンチックなライン川のハイライト

ライン対岸ジーベンゲビルゲの丘の景勝地ケーニヒスヴィンターから高さ321mの竜の岩（ドラッヘンフェルス山）へ登山電車で1.5kmを８分で登る。頂には11世紀の城址があり、言い伝えによればニーベルンゲンの宝のジークフリートが竜退治をした場所。駅横には展望台とレストラン施設があり、世界遺産ライン川のパノラマ絶景が広がる。中腹の駅には、19世紀のロマンチックなドラッヘンブルク城が聳える（見学可）。

ジーベンゲビルゲ自然公園 Web

© Deutsches Weininstitut

II　3つの世界遺産を巡る

ボンの北35kmにあるケルンからライン川を上るルート。世界遺産ケルン大聖堂と市内観光の後、上流へ20km走り、ブリュールの世界遺産ロココ様式アウグストゥスブルク宮殿とファルケンルスト別邸を観光。その後、ボンに戻る。

ユネスコ世界遺産 Web

III　世界遺産とロマンティック・ライン

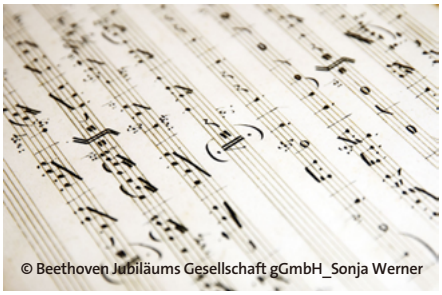
ライン河畔デュッセルドルフと支流マイン河畔フランクフルトがゲートウェイ。二都市間360kmのほぼ中間にあるベートーヴェン生誕記念年を祝うボンを組み入れれば特別な世界遺産ラインルートの旅を提供できる。ロマンティック・ラインのハイライト（65km）、ケルン大聖堂、さらにアーヘン大聖堂、ブリュールの宮殿と4つの世界遺産を組み込める。デュッセルドルフから40kmにあるエッセンの世界遺産ツォルフェライン炭鉱を５つ目の世界遺産として加えることも可能。

ロマンティック・ライン Web

ボン音楽名所

ベートーヴェン・ハウス
Beethoven-Haus

1770年12月16日（洗礼日17日）にこの家で生を受け、21歳までボンに住む。ベートーヴェンに関する世界で最も重要かつ多数の収集を常設展示する博物館（入場料６€、団体割引あり）。


© Beethoven Jubiläums Gesellschaft gGmbH_Sonja Werner

室内楽ホール： 1889年に建てられた音楽ホール。ベートーヴェンホールに隣接。演奏プログラム等は下記ウェブサイト参照。
毎年1月末恒例のベートーヴェン音楽週間は2020年1月17日〜2月9日開催。プログラム等はウェブサイト参照。

ベートーヴェン音楽週間 Web
ベートーヴェン・ハウス Web

© Beethoven Haus Bonn

ベートーヴェン史跡
Beethovens footsteps

生家から始まり聖レミギウス教会や記念像など市内14のベートーヴェンのボン時代のゆかりの史跡を徒歩で回る。

ベートーベン所縁の史跡めぐり Web

ロベルト・シューマン・ハウス
Schumann-Haus

シューマンが晩年を過ごした家が、現在博物館と音楽図書館として公開されている（休館：月曜、入場無料）。通年、室内楽演奏会が開かれ、毎年５月末には若い芸術家のためのボン・シューマン音楽祭が開催される。ボン旧墓地にはロベルトとクララ・シューマンの墓地がある。

シューマンハウス Web

桜の花見はボンで

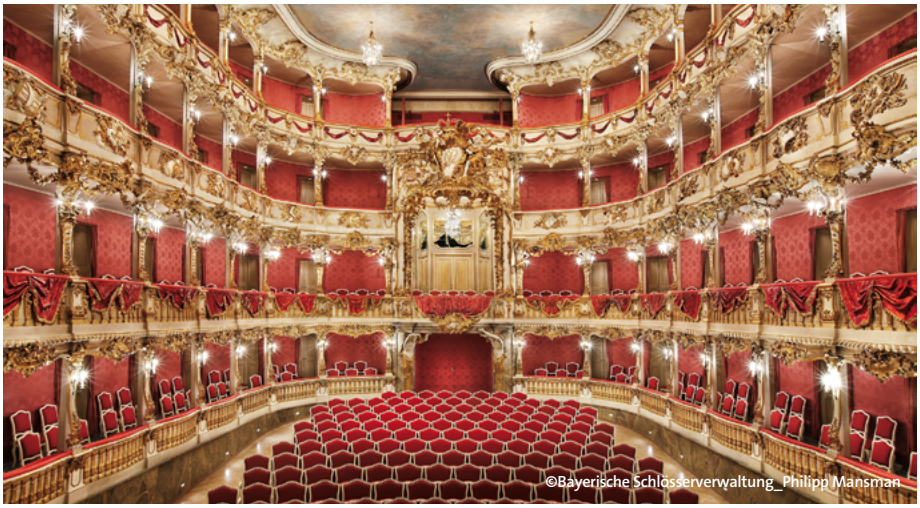
ボン旧市街は4月中旬になるとピンク色の桜のトンネルとなり、世界中の旅行者を惹きつけている。とくにヘーア通り、ブライテ通りの桜並木はフォトスポットとして人気がある。 Web

宮殿コンサートはいかが

「音楽」に触れるプランを組み入れるとドイツ旅行の魅力はより一層膨らむ。
作曲家ゆかりの場所、由緒ある宮殿や教会で触れる音楽は日本では味わえないものであり、旅を忘れがたいものにする。

ミュンヘン　王宮・宮殿コンサート
Residenzkonzerte in München

王宮のロココ調クヴィリエ劇場、大広間や王宮チャペル、ニンフェンブルク宮殿、シュライスハイム宮殿など華麗でロマンチックな雰囲気の中でクラシック音楽に浸ろう。演奏は、ミュンヘン・フィルやバイエルン放送交響楽団の奏者で編成されるレジデンツ・ゾリステン。 Web

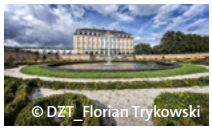

©Bayerische Schlösserverwaltung_Philipp Mansman

世界遺産ブリュール宮殿コンサート
Brühler Schlosskonzerte

2019/5/20〜2020/2/16
ハイドン音楽祭：8月中旬より10日間
世界遺産アウグストゥスブルク宮殿の美しいバロック様式の階段広間と庭園等で、毎年計33余りのコンサートが行われる。プログラムは主にバロック音楽から19世紀クラシックまで。

ブリュール宮殿コンサート Web
アウグストゥスブルク宮殿 Web

© DZT_Florian Trykowski


© DZT_Florian Trykowski

© DZT_Florian Trykowski

©Günther Bayerl
Lookphotos / LOOK
Bildagentur der Fotografen

ヴァイルブルク宮殿コンサート
Weilburger Schlosskonzerte

ライン川の支流ラーン川に囲まれた城郭都市に聳える居城ヴァイルブルクで毎年６・７月に50余りのコンサートが行われる。会場は宮殿中庭、宮廷教会、オランジェリーなど。ルネサンス・バロック様式の宮殿と歴史的旧市街は見応えがある。宮殿内にはホテル施設もある。
アクセス：フランクフルトおよびコブレンツから70km　ヴァイルブルク宮殿コンサート Web

ポツダム・サンスーシー音楽祭
Musikfestspiele Potsdam Sanssouci

６月の3週間に80余りのコンサートが世界遺産ポツダム・ベルリンの宮殿庭園およびポツダムの歴史の舞台となった会場で行われる。

ポツダム・サンスーシー音楽祭 Web
世界遺産ポツダム・ベルリンの宮殿庭園 Web

© DZT_Jens Wegener

北の白鳥城で夏の野外オペラ
Schlossfestspiele Schwerin

北のノイシュヴァンシュタイン城と呼ばれるシュヴェリーン宮殿と湖を背景に、野外オペラと演劇が上演される。演目は毎年変わり、2020年はベートーヴェンのオペラ「フィデリオ」が上演される。
2020/6/12〜7/11
問合せ：service@theater-schwerin.de
アクセス：ハンブルクより110km

シュヴェリン城音楽祭 Web
シュヴェリーン宮殿 Web

© DZT_Francesco Carovillano

世界遺産ヴァルトブルク城

千年の歴史を秘めた名城ヴァルトブルクの祝祭の広間でワーグナーのオペラのタンホイザーが演じられ、バッハなどの作品が演奏される。日程は不定期で城のURLの行事予定からチェックのこと。

世界遺産ヴァルトブルク城 Web
ヴァルトブルク城行事予定 Web

© DZT_Florian Trykowski

© Matthias Creutziger

音楽の都ドレスデンで最高の文化体験

ゼンパーオペラ・ドレスデン（ドレスデン国立歌劇場）は世界的な名声を博す専属のアンサンブルを持ち、国際的な客演者が演奏する歌劇場です。演奏を担当するザクセン国立ドレスデン・シュターツカペレ（ドレスデン国立歌劇場管弦楽団）はザクセン選帝侯モーリッツにより1548年に宮廷楽団として創設され、世界で最も古く伝統あるオーケストラのひとつです。創設以来カール・マリア・フォン・ウェーバーやリヒャルト・ワーグナーといった偉大な楽長と国際的な演奏家によりかつての宮廷楽団の歴史は創られてきました。国際的に人気の高い管弦楽団であるドレスデン・シュターツカペレは、世界の音楽中心都市で定期的に公演しています。本拠地のゼンパーオペラではドレスデン・シュターツカペレは毎シーズン約260回のオペラとバレエの公演を演奏し、約50回のオーケストラと室内楽コンサートを定期的に行っています。2012/2013シーズンからクリスティアン・ティーレマンがドレスデン・シューツカペレの首席指揮者となり、2013年よりザルツブルク・イースター音楽祭の芸術監督も務め、同楽団は音楽祭のレジデンツオーケストラとなっています。

2020年の公演プログラムでは当然ながらベートーヴェン記念年が重要な意味を持ちます。生誕250年を記念して2019年12月から2020年1月までゼンパーオペラでドレスデン・シュターツカペレはクリスティアン・ティーレマン指揮で交響曲１番から５番までを演奏します。さらにヘルベルト・ブロムシュテット、オメール・メイア・ヴェルバーやソル・ガベッタを迎えた特別コンサートがあり、ドレスデン・シュターツカペレのベートーヴェン生誕記念プログラムは一層充実したものになります。

歌劇場建築の外観と内装からホールの卓越した音響効果、そして音楽的に最高の舞台演出まで、ゼンパーオペラで得られる印象と芸術体験は格別なものです。クラシックからモダンな演出の作品まで豊富なレパートリーを持ち、2019/2020の新シーズンでは９つのオペラと２つのバレエの演出をお楽しみいただけます。2020年の最初のプレミア公演のハイライトはワーグナーのオペラニュルンベルクのマイスタージンガーです。新演出はザルツブルク・イースター音楽祭、東京文化会館、東京新国立劇場との国際的協力でおこなわれます。2020年のゴールデンウィークには宮本亜門による新演出、高田賢三の衣装でプッチーニのオペラ蝶々夫人をゼンパーオペラ・ドレスデンで体験できます。

公演プログラム、日時、チケット等詳細についてウェブサイトをご覧ください。
ゼンパーオペラ・ドレスデン（英）https://www.semperoper.de/en
ドレスデン・シュターツカペレ（日）http://www.staatskapelle-dresden.de/jp/

© Matthias Creutziger

© Matthias Creutziger

© Klaus Gigga

ライプツィヒの リヒャルト・ワーグナー

© Tom Schulze

音楽の町ライプツィヒ
オペラの天才リヒャルト・ワーグナーのふるさと

ライプツィヒと音楽、それは何百年という音楽の伝統です。ヨハン・セバスティアン・バッハ、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ、クララとロベルト・シューマン、そしてリヒャルト・ワーグナーといった多くの音楽家がこの町に住み、活動しました。ライプツィヒ歌劇場とゲヴァントハウス管弦楽団は世界的な名声を享受。バッハ音楽祭やワーグナー音楽祭といった国際フェスティバルへ訪れる人は毎年増加しています。一年を通じて作曲家たちのゆかりの場所は、ライプツィヒ音楽軌道を辿って訪れることができます。中心街を通る楽譜の周遊ルートにはサウンドクリップとディスプレイが設けられ、作曲家に関する活き活きとした情報が得られます。もちろん、この町が生んだ有名な人物、リヒャルト・ワーグナーについても。

ライプツィヒ歌劇場
ヨーロッパの真ん中　伝統ある歌劇場

1693年に創立したライプツィヒ歌劇場。ヨーロッパで３番目に古い市民が創ったオペラハウスで、325年の長い伝統を誇ります。約１世紀半、世界的名声を博すゲヴァントハウス管弦楽団が常時ライプツィヒ歌劇場の演奏を受け持っています。ちなみに管弦楽団は現在国際比較で第４位にランクされています。歌劇場・音楽総監督にウルフ・シルマーが就任して以来、リヒャルト・ワーグナーのオペラ作品がレパートリーの中心的柱となっています。毎シーズンのハイライトは「ニーベルングの指環」です。2019/2020シーズンでは、そのワーグナーの大作を２回（2020年1月15日～19日と2020年5月20日～24日）上演します。

オペラ祭W22　3週間であふれる音楽を

2022年ライプツィヒでは、世界の音楽ファンが耳をそばだてる世界的に類のない企画が立てられており、ワーグナーファンは心待ちにしています。ライプツィヒ歌劇場では、2022年までワーグナー全代表オペラ作品を公開。その集大成として2022年6～7月、その名作13演目を３週間におよぶオペラ祭「W22」で上演する、野心的な目標を掲げています。2019/2020シーズンにおける初演「トリスタンとイゾルデ」は、その目標に向かうひとつの道標となります。

© PK Fotografie

詳細は
www.oper-leipzig.de 及び www.leipzig.travel/wagner

LEIPZIG REGION
SAXONY. STATE OF THE ARTS.

Gewandhaus Orchester

WAGNER 22 / OPER LEIPZIG

街道の国ドイツ
テーマのある旅

市城門をくぐると数百年前の時代に戻ったように感じる中世都市が連なるロマンチック街道、グリム童話と伝説があちこちに生きているメルヘン街道、文豪ゲーテだけでなくバッハゆかりの地とドイツの歴史文化を辿るゲーテ街道は、旅行ルートとして定着している。ドイツの観光街道は、国内外の旅行者を惹きつけ、持続的な広域デスティネーション・マーケティングの成功例としても注目を集めている。

Web

©Füssen Tourismus und Marketing_Günter Standl

© Romantische Straße Touristik-Arbeitsgemeinschaft GbR

ロマンを実感できる観光街道

ドイツには多数の観光街道があり、各ルートの観光内容は豊富でインフラは整っている。各街道名は、そのルートの特色や文化、歴史、自然、名産などにより付けられ、テーマ合った体験ができる。観光街道は、グループにも個人旅行にも適したテーマである。

ドイツの観光街道
Scenic routes

観光街道は、高速道路アウトバーンを使わず一般道路をじっくり旅する“スロートラベル”のルートで、名称は街道の特色を表す。例えばドイツ古城街道には、古城、宮殿、宮廷、中世城郭都市が連なり、古城ホテルでの宿泊もできる。観光街道は組織化され、長期的マーケティング活動を行い、品質管理に余念がない。全国的に観光街道には街道のロゴを付けた茶色の標識が立ち、目的地に入ると茶色看板に名所案内、観光案内所が示され分かりやすい。最も有名なロマンチック街道は70年前に創設されたが、現在では100以上の観光街道がある。サイクリングやハイキングなど様々なニーズに応えてくれる信頼ある休暇ルートである。

© Romantische Straße Touristik-Arbeitsgemeinschaft GbR

中世のロマン
ロマンチック街道
Romantische Strasse

世界遺産の宮殿とフランケンワインで知られるマイン川のバロックの古都ヴュルツブルクから、ノイシュヴァンシュタイン城のあるアルプスのフュッセンまで470kmに及ぶドイツで最も有名な街道。キーワードは中世のロマン。約30の街道市町村のなかでも城壁に囲まれた中世の宝石ローテンブルクがよく知られる。ディンケルスビュール、ネルトリンゲン、ランツベルクも遜色ない。欧州有数の中世大都市であった活気ある都会アウクスブルクも見逃せない。南下するにつれ、次第に山の景観が増え、アルプスに近くなる。フィナーレを飾るのはバイエルン王ルートヴィッヒ二世と白鳥城である。ロマンチック街道のリピーターには中世の小さな都市、大きな町、アルプスの山の景観とルートヴィッヒのロマンの４要素を入れた旅程が望ましい。
サイクリストとハイカー向けに、安全に考慮したルートが敷かれ、標識やパンフレットも整っている。全行程を走破することも可能だ。
個人旅行者が多く利用するロマンチック街道定期バスは、2019年春に大幅に時刻表が改定されたので要注意。
日系旅行社の現地出発バスツアーやプライベートツアー（マイバス、みゅう、HIS等）も各種用意されている。

ロマンチック街道 Web
ロマンチック街道協会 Web
ロマンチック街道定期バス2020 Web

騎士のロマン

古城街道

Castle Road

マンハイムを出発した後、ハイデルベルクを通り、ネッカー川、城の多い地方を抜けるとロマンチック街道と交差するローテンブルクに着く。さらに中世の大都市ニュルンベルクから世界遺産の町バンベルクを経てバイロイトまで770km。ルート上に約60の古城や宮殿があり、多数の領邦国家からなるドイツの歴史を垣間見ることができる。ぶどう畑、森や川、点在する中世都市により、古城街道の旅もまたロマンチックで絵になるデスティネーションである。

見どころ

- ハイデルベルクからネッカー川に沿って小さな中世都市と古城が点在。とくにヒルシュホルン（古城ホテル、都市景観）、モスバッハ（木組み家屋の街並み）、ホルンベルク城（古城ホテル）、バート・ヴィンプフェン（中世都市景観）はおすすめ。
- ワインの町ハイルブロンから街道を東に進むと、昔、塩で栄えた美しいシュヴェービッシュ・ハルに到る。さらにローテンブルク、ロココの町アンスバッハを経て、皇帝城が聳えるニュルンベルクへ。
- 旧市街全体が世界遺産のドイツ屈指の美しいバンベルク、欧州王家のゆりかごと呼ばれるコーブルク、ビールのメッカであるクルムバッハからワーグナーゆかりの宮廷都市バイロイトへ。

1994年にチェコのプラハが新たに加盟し、古城街道の総長は1000kmとなった。

古城街道 Web
古城街道協会 Web

© Walkins Image _Tomas Hajek

ゲーテ街道＝音楽街道
Goethestrasse

ゲーテ街道はクラシック愛好家にとって宝の山だ。音楽家ゆかりの名所が多数あり、著名な劇場で世界的アンサンブルの演奏を味わえる。アイゼナッハで生まれのバッハはライプツィヒで亡くなるまでほぼこの地方で一生を送った。他にも、メンデルスゾーン、ロベルトとクララ・シューマン、ワーグナー、マーラー、グリーク、ウェーバー、Rシュトラウス、リストなど、ゲーテ街道はたくさんの音楽家に出会えるルートだ。世界遺産のヴァルトブルク城はワーグナーのオペラ、タンホイザーの世界そのものだ。ドレスデンのゼンパー歌劇場やライプツィヒのゲヴァントハウスで最高峰の演奏を、そして世界最古のトーマス教会少年合唱団や聖十字架合唱団の声をその教会で体験できる。ゲーテ街道はまさに音楽街道といえるルートである。詳細は特集頁「ゲーテ街道」を参照。

絵になる木組みの家

木組みの家街道

German Half-Timbered House Road

木組みの家は古城と並んで旅行者に人気のドイツを代表する観光素材のひとつである。北海のシュターデからボーデン湖のメーアスブルクまで約3000kmという広範囲に木組みの家街道が広がっている。同じ木組みの家といっても、時代や地方ごとに様式、色彩、装飾が異なり、その数は10万軒。ロマンチックな木組みの家や格好の撮影ポイントだ。大抵、旅の目的地の近くにこの街道の町が一つは存在するので、「木組みの家街道」という魅力で集客をしてみてはいかがだろうか。フランクフルトであればヘキスト地区、リンブルク、ヴェッツラー、あるいはシュタナウが近い。

木組みの家街道 Web
ドイツ木組みの家街道協会 Web

© DZT_Manfred Ruthner

雄大な山岳パノラマと伝統文化

ドイツ・アルペン街道

German Alpine Road

南ドイツ国境のアルプスに沿って広がるドイツ・アルペン街道は、ボーデン湖のリンダウとベルヒテスガーデンのケーニッヒ湖の東西450kmを結ぶ。中間ではロマンチック街道の終着点フュッセンが合流する。雄大なパノラマとバイエルン地方の色濃い伝統文化、歴史的景観、25余りある古城・宮殿が魅力の休暇を過ごすのに好まれる地方だ。

© DZT_Günter Standl

見どころ

- リンダウ～フュッセン（130km）。ボーデン湖では遊覧船で、古都リンダウから花の島マイナウや世界遺産のライヒェナウ島への島巡りが楽しめる。ボーデン湖からフュッセンに向かう街道沿いには美しいパノラマが広がり、ヒンデラングなど休暇地が点在する。このあたりで、欧州一カーブの多い（106ヶ所）オーバーヨッホ・パスを通る。
- フュッセン～ガルミッシュ・パルテンキルヒェン（70km）。このルートはアルペン街道のハイライトで見どころが多い。中世に交易で栄えたフュッセンや近郊に聳えるルートヴィッヒ王の城ノイシュヴァンシュタイン、ホーエンシュヴァンガウ。世界遺産ヴィース教会、フレスコ壁画の家並みが美しいオーバーアマガウとリンダーホフ宮殿。エッタール僧院を経由し、世界的に知られるアルペンリゾートのガルミッシュ・パルテンキルヒェンに入ると、ドイツ最高峰ツークシュピッツェ山は目の前だ。登山鉄道とケーブルカーで名峰を楽しもう。ここからミュンヘンまで85km。ミュンヘンからの小旅行でもこのエリアのスポットは全て押さえたい。
- ガルミッシュ～バート・テルツ～ベルヒテスガーデン（270km）。ヴェルヒェン湖やコッヘル湖を経由し、保養地で有名なバート・テルツへ。歴史的な旧市街は見ごたえがある。さらに、テーゲルン湖畔の町ロータッハ・エーゲルン、シュリーア湖、キーム湖に近いアーシャウを進むと、そこはガルミッシュと並ぶアルペンリゾートであるベルヒテスガーデンだ。透明な水を湛えるヴァッツマン山が迫るケーニッヒ湖と聖バートロメー教会が創り出す景観は最高のフォトスポット。ケールシュタイン山（1834m）の頂に立つヒトラーの山荘ケールシュタインハウス（現在はレストラン）からの絶景もこのルートのハイライトで、近郊では岩塩坑見学も楽しめる。ミュンヘンからベルヒテスガーデンまでアウトバーンを使うと150km（約2時間）。

ドイツ・アルペン街道 Web
ドイツアルペン街道協会 Web

自然と伝統風習

黒い森高原街道と黒い森パノラマ街道

Black Forest High Road & Black Forest Panorama Road

ドイツ南西部の黒い森シュヴァルツヴァルトは、南北200km/東西30～60kmのドイツ最大の高原地帯であり、休暇地として人気が高い。ドイツトウヒやモミの針葉樹が創り出す黒い森と数多くの渓谷、広大な草原の間に町村が点在し、黒い森地方独特の農家の建築様式が目を引く。古くからの伝統風習も旅行者の興味を引く。果樹栽培が盛んで、グルメの地として知られる。風光明媚ゆえに黒い森温泉街道、黒い森渓谷街道、ドイツ時計街道など多数の街道がある。

黒い森高原街道　北部黒い森のゲートウェイであるバーデン・バーデンからフロイデンシュタットに至る約60kmのパノラマルートは、高原ドライブを楽しめるポイント。アルデ・ゴットのブランドワインで有名な美しい花の村ザスバッハヴァルデンや、ミシュランの星を持つ有名なレストランが集まる美食の村バイアースブロンへの寄り道はおすすめ。保養地フロイデンシュタットには縦横200m余りのドイツ最大のマルクト広場がある。フロイデンシュタットから黒い森中央部を100km南下し、ハウザッハ経由でティティゼー・ノイシュタットに入ると黒い森パノラマ街道と合流する。

黒い森パノラマ街道　この街道はフライブルクの少し南のヴァルトキルヒあるいはグロッターターールからザンクト・ペーター、ザンクト・メルゲン、ブライトナウ、ヒンターツァルテン、ティティゼーといった有名な休暇地を結び、黒い森最高峰フェルトベルク山（1493m）に至る街道。丘と谷と森、黒い森農家が創る典型的な黒い森のパノラマを満喫できるルート。絵のような村ブライトナウに近いラベンナ峡谷にはその昔ゲーテが立ち寄り、マリー・アントワネットがパリに行く途中泊まったホテル・ホーフグート・シュテルネンがある。峡谷には高さ37mの地獄谷高架橋がかかり、その下で幻想的なクリスマスマーケットが開かれる。

黒い森パノラマ街道 Web
黒い森国立公園 Web

© DZT_Leungmo

© Lookphotos_Daniel Schoenen

©Stuttgart-Marketing GmbH

ドイツには13の公認ワイン生産地域があり、それぞれにワイン街道がある。ぶどう作り適した自然に恵まれたドイツワインの産地は、文化や伝統、風習豊かな景勝地だ。

観光街道 Web　ワイン生産地 Web

ドイツ・ワイン街道
German Wine Road

ワイン街道の中で最も古く、ドイツで二番目に大きな栽培地域プファルツにある街道。ライン河畔のヴォルムスに近いボッケンハイムから仏国境に近いシュヴァイゲンのドイツ・ワイン門まで穏やかなブドウ畑の丘陵とワインの村を通る85km。バート・デュルクハイムのドイツ最大ワイン祭り（９月）とノイシュタットのぶどう摘み祭り（９月末）がハイライト。ぶどう摘み祭りではドイツ・ワイン女王が選ばれパレードがある。ノイシュタットの郊外に聳えるハムバッハ城はドイツ民主主義のゆりかごと呼ばれる歴史的に有名な城。街道は３月から４月中旬にかけてアーモンドのピンクの花で染まり、花見が盛んだ。

ドイツ・ワイン街道 Web
ドイツ・ワイン街道 Web

© Rheinland-Pfalz Tourismus_Dominik Ketz

ザクセン・ワイン街道
Saxon Wine Route

エルベ上流のピルナから下流のディースバッハ・ゾイスリッツまでの60km。途中、宮殿で有名なピルニッツ、ドレスデン、ラーデボイル、陶磁器のマイセンといったエルベ河畔の観光地を通る。作付け範囲がドイツで二番目に小さいザクセン・ワイン生産地域は、白ワインを得意とし、珍しいゴルトリースリング種がある。マイセン小旅行の際ラーデボイルを見て、かつワインやゼクト体験ができる美しい州立ワイナリーの宮殿ヴァッカーバルトを訪れるとよい。ラーデボイルからSLで絵になる水城モーリッツブルクを訪ねることもできる。

ザクセン・ワイン街道 Web

© Deutsches Weininstitut

ラインガウ・リースリング街道
Rheingauer Riesling Route

南北を流れるライン川がマインツで直角に西に向きを変え、40kmほど流れるその右岸は、ラインガウとよばれるドイツワイン発祥の地域であり、ここで作られる最高品質のリースリング種はドイツを代表する白ワイン。ツアーでは通常、リューデスハイム観光の後に船でローレライまで下ることが多いが、リースリング街道を組み込むとツアーにより深みが出る。ライン川沿岸の町とリースリング街道の町村をジグザグと繋ぐと全長70kmとなる。その中の２～３のスポットを加えるのがおすすめ。例えば、ワイン醸造で有名なガイゼンハイムでは丘の上に聳えるヨハニスベルク城に立ち寄る。遅摘みと貴腐ワインを発見したメッテルニヒ家の城だ。また、ドイツでもっとも有名なワイナリーの一つで銘醸ワインを試飲し、ライン川の展望を満喫するならヴィンネル村のフォルラーツ城。ライン川畔のバラの町エルトヴィレでは旧市街とバラ園のある選帝侯宮殿を訪ねる。700年に渡りワイン醸造を続け、ライン地方のワインを有名にしたシトー派エーバーバッハ修道院を見学し、州立ワイナリーで試飲する。シュタインベルクの畑は世界的にも有名で抜群のワインができる。

ラインガウ・ワイン Web

© Deutsches Weininstitut

ドイツ
観光の国

ポツダム会談75周年特別展

“ポツダム会談1945 － 世界の再編成”

2020年5月1日～11月1日
場所：ツェツィーリエンホーフ宮殿
主催：ベルリン＝ブランデンブルク・プロイセン宮殿・庭園財団

STIFTUNG
PREUSSISCHE SCHLÖSSER UND GÄRTEN
BERLIN-BRANDENBURG

1945年夏、ポツダムで戦後の世界の新編成が協議された。
特別展はその歴史的現場でマルチメディアを駆使して当時の模様を臨場感たっぷりに再現する。

© U. S. Army Signal Corps, Courtesy of Harry S. Truman Library/SPSG_Cecilienhof Palace_Potsdam

© SPSG, Potsdam, Schloss Cecilienhof, Konferenzraum, Fotograf W. Pfauder

2020年は、第二次世界大戦の戦勝国のアメリカ合衆国、イギリス、ソビエト連邦の首脳が集まって行われた会談から75周年を迎える。トルーマン、チャーチル（1945年7月28日からはアトリー）、スターリンはツェツィーリエンホーフ宮殿の丸テーブルを囲んでドイツの将来、欧州と世界の政治と領土関する再編成について協議した。会談は7月17日に始まり、８月２日に後の「ポツダム協定」として歴史に名を留める「ベルリン三国共同宣言」を採択して終了。これが後のドイツと世界の分割となる冷戦のはじまりです。太平洋戦争終結のために8月6日広島、9日長崎に原爆が投下され、東西強国の核軍備競争が始まった。ポツダム会議の取り決めは今日も世界の政治に大きな影響を与えている。

展示会

財団プロイセン宮殿庭園ベルリン・ブランデンブルク（SPSG）は、ポツダム会談75周年に当たり2020年５月１日より11月１日まで特別展をツェツィーリエンホーフ宮殿という特別な場所で開催する。ポツダム会談の経過や決定内容を展示するほか、すべての展示コーナーでは交渉と決議に参加した当事者とともに関係者の見解も紹介される。そのため首脳会談が世界情勢に与えた影響を中立的な立場から事実に即して確認できるだけでなく、感情的な背景を垣間見ることができる。戦勝国の抽象的な決定とその後の現実が対比されて展示される。チャーチルやスターリン、トルーマンといった有名な歴史的人物だけでなく、「無名の人物」（原爆被災者、追放者、内通者など）の証言も紹介される。同じ出来事を複数の視点から考察していることもこの展示会の特徴である。

4つのテーマゾーンとその重点：

1. ベルリン会談
   －ポツダム会談：「三大連合国」
2. 議題：欧州の再編成
3. 非公式協議：アジアと中東
4. 転換期：1945年以降の世界

マルチメディアを駆使したインパクトの強い展示により当時の雰囲気を生き生きと分かりやすく再現し、1945年にタイムスリップしたような体験となる。実際に会談が行われた宮殿の会議室、三国元首の控室のほかに、籐製アームチェアに腰かけた三元首の写真で有名なテラス庭園が初めて展示エリアの一部として公開される。

入場料：14€／割引10€
チケット：www.spsg.de
（前売り開始2020年3月、JCBカード対応可）

グループ：オーディオガイドによるツアー
団体（最大20名）
グループ料金：大人160€
学生112€
所要時間：1時間半
グループ予約開始：2019年5月

Eメール：gruppenservice@spsg.de
ホームページ：
www.spsg.de
www.potsdam-konferenz.de

© SPSG_Cecilienhof Palace Potsdam_L. Seidel

世界遺産の プロイセンの宮殿群と庭園群

プロイセンの宮殿と庭園は選帝侯、王、皇帝がベルリンとポツダムを居城地としていた栄光の時代へのタイムトラベルとなる。プロイセン宮殿庭園ベルリン・ブランデンブルク（SPSG）はこの遺産を維持管理公開する財団。1990年にサンスーシー宮殿から新庭園、ベルリンの孔雀島とグリニケまでユネスコ世界文化遺産に登録された。一級の芸術品である宮殿群は重要な歴史が創られた場所でもある。たとえばツェツィーリエンホーフ宮殿では1945年夏にポツダム会談が行われ、戦後の再編成が協議された。
プロイセンの宮殿群庭園群は300余りの建造物、約800haの庭園からなり、37の建物が公開されている。ポツダムではサンスーシー宮殿や新宮殿などが博物館として見学でき、新庭園ではツェツィーリエンホーフ宮殿と庭園のほかベルベデーレ宮殿やシュロス庭園のバーベルスベルク宮殿が有名だ。ベルリンにはシャルロッテンブルク宮殿と庭園、シェーンハウゼン宮殿と庭園、グリニケ宮殿、孔雀島、グルーネヴァルトの狩猟館がある。そのほか郊外のラインスベルクの宮殿と庭園等は素晴らしい文化景観への小旅行となる。

B2Bサービス専門のセクションを設けています：
コンタクト先：gruppenservice@spsg.de
URL: www.spsg.de/en/travel-trade/marketplace/

グリム兄弟ゆかりの地を訪ねて
ドイツ・メルヘン街道

© BTZ Bremer Touristik-Zentrale_Jonas Ginter

ドイツ・メルヘン街道は1975年に創設された有名なグリム兄弟のゆかりの地を訪ねるルートです。大小50余りの童話から抜け出したような町や村と選り抜きのホテルがある人気の高い休暇街道です。フランクフルトに近いハーナウからブレーメンまでグリム兄弟が過ごした町やメルヘンの故郷が連なるすばらしい旅行ルートになっています。ドイツの文化景観や自然の中に多くの話を発見し、おとぎ話に出てくるようなご馳走を味えます。童話に登場する人物や動物にも実際に会えます。メルヘン、説話、伝説の世界への旅にご案内します。

ドイツ・メルヘン街道　Deutsche Märchenstrasse Kurfürstenstr.9, 34117 Kassel

info@deutsche-maerchenstrasse.de　Web

ドイツ・メルヘン街道

マールブルク　ホテル・ヴィラヴィータ・ローゼンパーク
Marburg – Hotel Vila Vita Rosenpark

フランクフルトから北にほんの１時間、アクセスのよいマールブルクは豊かな歴史のあるグリム兄弟が大学に通った町です。
観光、休暇、ウェルネスのホテルとして市内のトップアドレスである当ホテルは、町の中心というロケーションでありながら静かで、モダンなチャームをもち、優れたデザインと居心地のよさを誇ります。194ある客室はシックで親しめる内装、広さ1000㎡の素晴しいスパエリア、多彩なダイニングを楽しめるレストラン。サプライズメニューにはグリム兄弟に因んだ「お膳や、食事の支度を」メニューがあります。

Web

© Deutsche Märchenstraße

ヴァルデック
Waldeck

海抜420mの山あいエーダー湖畔にある歴史的な木組みの家の町ヴァルデックは、エーダー湖の真珠と呼ばれる観光と休暇の町です。町と地方の名前は、遠くからも見える騎士の「ヴァルデック城」から付けられました。騎士や小人にまつわる逸話や物語にはこのヴァルデック城が登場します。現在は、美味しい食事が楽しめる４星古城ホテルとして親しまれ、隣接するケラーヴァルト・エーデルゼー国立公園散策への起点となっています。ヴァルデックの郷土料理やビアガーデンを楽しみたい方には、町中や近郊の田舎風のレストランがオススメです。

Web

© H. Kiewitter

ヴォルフハーゲン
Wolfhagen

ハービヒツヴァルト自然公園にあるヴォルフハーゲンは、木組みの家が美しい歴史ある町で、グリム童話の町として知られます。皆様ご存知の「オオカミと七匹の子ヤギ」のふるさととして、ヴォルフハーゲンはメルヘン街道に加盟しています（独語で狼はヴォルフ）。美しい木組みの家の町、グリム童話をモチーフにしたメルヘン噴水、旧市庁舎と旧衛兵所が立つマルクト広場、ゴシック様式の聖アンナ市教会、ロマンチックな小路と小さな広場がみどころです。

Web

© Stadt Wolfhagen

カッセルのホテル・グーデ
Kassel - Hotel Gude

メルヘン街道の中心カッセルにある三世代続く家族経営のホテル･グーデは､従来のチェーンホテルとは対照をなす居心地のよい親しめる雰囲気のホテルです。壁や床などにグリム兄弟を彷彿とさせる格言と名言の装飾があるので、ホテルでグリム発見の旅ができるという具合。地元はもとより地元以外でも評判の当ホテルのレストラン「プフェファーミューレ」では新鮮な素材を使った郷土料理やインターナショナルな料理をお楽しみいただけます。

Web

© Deutsche Märchenstraße

バート・ゾーデン=アレンドルフ
Bad Sooden-Allendorf

バート・ゾーデン・アレンドルフは、のどかな中級山岳風景に懐かれたヘッセン州の塩鉱泉保養地です。北ヘッセン地方の特徴のあるホーアー・マイスナー山地の麓、ゆったりと流れるヴェラ川の畔にありロマンチックな美しい木組みの家が並んでいます。穏やかで明るい風光はメルヘンそのもの。小高い丘陵のホーアー・マイスナーは「ホレおばさん」の故郷、グリム兄弟ゆかりの地です。
シューベルト作曲の「菩提樹」の門前の泉は、菩提樹とともにこの町の入り口にあります。

Web

© Ingo Wandmacher

ヴィッツェンハウゼン
Witzenhausen

ドイツで最も小さい大学町ヴィッツェンハウゼンは、ドイツ最大かつ最古のサクランボ栽培の中心地。ロマンチックなヴェラ川渓谷がある町です。150年前から町のシンボルはサクランボ。4月末から5月初めにかけて約15万本の桜が白い花を付けるとき、「サクランボの町」という呼ばれるこの町は最も美しい姿を魅せてくれます。

Web

© Deutsche Märchenstraße

ドイツ・メルヘン街道

ハン・ミュンデン
Hann.Münden

６世紀の期間をかけて建てられた700軒余りの木組みの家が創る中世の景観は印象的です。フルダ川とヴェラ川が合流しヴェーザー川となる３本の川の町と呼ばれ、塔、ヴェルフェン城、ヴェーザールネッサンス様式の市庁舎が昔を偲ばせます。

1727年にハン・ミュンデンで没した伝説的なバロック時代の医者ドクトル・アイゼンバルト「鉄ひげ博士」の足跡をあちこちで目にします。水に囲まれた旧市街で、ミュンデン自然公園で、ゆったりと旅を満喫できます。

Web

© Hann. Münden Marketing GmbH_Peter Heitmann

ゲッティンゲン
Göttingen

町の中心部には１千年余りの歴史の跡が刻まれ、教会や大学建物、木組み家屋などの名所旧跡があります。
1829年から1837年までグリム兄弟はゲッティンゲン大学で教鞭をとりました。教授の務めと図書館員としての仕事のほかに、兄弟はここで数多くの重要な出版物を完成させました。「ドイツ語文法」、「キツネのライネケ」、「ドイツ神話学」、「子供と家庭のメルヘン集」第３版などです。

Web

© Göttingen Tourismus e.V._ Lars Gerhardts-

フュルステンベルク宮殿博物館
Museum Schloss Fürstenberg

風光明媚なヴェーザーベルクラント地方にあるメルヘンのようなフュルステンベルク宮殿。ここでは３世紀にわたる陶磁器の歴史のタイムトラベルを体験でき、大人も子供も楽しめます。工房は、グリム童話「お膳や、ご飯の支度」からアイデアを得た工夫がなされていて、身近にまた気楽に陶磁器の魅力を感じることができます。展示や実演工房のほか、直売所とカフェ・レストランもあり、誰でも満足できる小旅行デスティネーションです。

Web

© Deutsche Märchenstraße

ハーメルンのシュロスホテル・ミュンヒハウゼン
Hameln-Schlosshotel Münchhausen

プリンセスや男爵になって昔の世界を見てみたいと思いませんか。それならシュロスホテル・ミュンヒハウゼンがぴったりです。ネズミ捕り笛吹男の町ハーメルン手前に、有名なほら吹き男爵ミュンヒハウゼンの祖先が1570年に建てた華麗なルネッサンス様式の宮殿です。450年前に建てられた城壁の裏に立つチャーミングな五つ星の上級ホテルは、上品な客室68室、3つのレストラン、800㎡のスパ設備を備え、18ホールのゴルフ2コースが隣接しています。ハーメルンで笛吹男の伝説を探ったり、ヴェーザーベルクラント地方の７つの城を観光したり、近くの町ボーデンヴェルダーでほら吹き男爵についてもっと詳しく調べたり、いろいろな小旅行ができます。

Web

© Deutsche Märchenstraße

ネズミ捕り笛吹男の町ハーメルン
Rattenfängerstadt Hameln

人口６万人のハーメルンはヴェーザーベルクラント地方の経済と観光の中心地。ネズミ捕り笛吹男の伝説を通じてヴェーザー川の畔のハーメルンは世界的に有名になりました。16世紀から18世紀に建てられた立派な砂岩造りや木骨組みの家が並ぶ旧市街では、至る所でこの伝説に出会います。まだら服を着た笛吹男に出会えるかもしれません。

Web

© Deutsche Märchenstraße

自由ハンザ都市ブレーメン
Freie Hansestadt Bremen

メルヘン街道の旅のフィナーレを飾る町はブレーメンです。世界文化遺産の市庁舎とブレーメンの音楽隊で有名な歴史ある町です。４月から９月までの毎日曜日に大聖堂中庭で野外劇が上演されます。ブレーメンはメルヘンの町である一方、ドイツで11番目の都会として世界に向かって開かれた町でもありません。航空宇宙分野でヨーロッパの中心であることは意外と知られておらず旅行者を驚かせています。皆さま是非ブレーメンへお越しください。

Web

© wfb-Jens Hagens

美味しいドイツ

ドイツの旅の面白さのひとつは地方文化の多様性。それは食にも表れ、郷土料理と旬をとても大切にする。
世界を飛び回るドイツ人の舌は肥え、ドイツは星付きレストランの多さで欧州で２番目となっている。
ワインの生産地域、地方料理、グルメ料理、そしてビールからドイツ旅行の食の楽しみに迫る。

食べものと飲み物 Web

© DZT_Günter Standl

© Deutsches Weininstitut_Thomas Hartmann

ワイン産地は観光地

13あるドイツの公認ワイン生産地域は例外なく観光・休暇に適した自然と文化が調和した景勝地である。本章では各栽培地域を紹介し、秘めたおすすめのデスティネーションに光を当てる。テロワールやブドウの種類などの詳細は、ドイツ観光局URLで得ることができる。 **ワイン生産地域** Web **ドイツ・ワイン** Web

世界遺産ロマンチック・ライン

ミッテルライン Middle Rhine

ボンのライン上流からコブレンツやローレライを経てビンゲン手前まで長さ100㎞の両岸の地域に当たり、ライン川観光のハイライトである世界遺産のライン渓谷中流上部と一致する。

バッハラッハ　町の名はワインの神バッカスに由来。ヴィクトル・ユーゴーが世界一美しい町のひとつと称えたバッハラッハは、ラインロマン主義の中心地。中世のシュターレック城（現在ユースホステル）が聳え、昔のままの市城壁と塔が町を囲み、絵のような旧市街の石畳小路や広場にはスレート屋根瓦と白壁に赤茶の木組みのロマンチックな家が並ぶ。中世には欧州各地へライン川流域産のワインを輸出する交易地として栄えた。城へは聖ペーター教会から階段状の道を上り、途中のゴシック様式のヴェルナー礼拝堂廃墟は、多くのロマン主義者が称えたスポット。城からの眺望は素晴らしい。

ミッテルライン Web

© Lookphotos_Günther Bayerl

高級リースリング種白ワイン

ラインガウ Rheingau

© DZT_Deutschland abgelichtet Medienproduktion

ライン下りの起点で、世界からの観光客でにぎわうツグミ横丁で有名なリューデスハイムがあるライン川右岸の40㎞の地域。エーベルバッハ僧院、ヨハニスベルク城、フォルラーツ城などワインにまつわるストーリー豊富なこの地域については、街道の章の「ラインガウ・リースリング街道」を参照のこと。

ラインガウ Web
ラインガウのワインの町 Web

赤ワインのパラダイス

アール Ahr

ボンのライン上流20㎞左岸でアール川が合流する。蛇行するアール川渓谷ではドイツでは珍しく赤ワイン、とくにピノ・ノワールの生産が７割を占める。

バート・ノイエンアール＝アールヴァイラー：アールヴァイラーは木組みの家やローマ遺跡がある昔の雰囲気漂うロマンチックな地区、一方バート・ノイエンアールはクアハウス、温泉療養施設、かつての都市貴族の館やカジノがある優雅な高級感あるガーデンシティ温泉地区。ボンやケルンに近いため高級レストランやホテルも多い。

アール Web
バート・ノイエンアール＝アールヴァイラー Web

多種多様なワイン

ナーエ Nahe

リューデスハイム対岸の町ビンゲンでライン川に合流するナーエ川の流域にある栽培地域。土壌が変化に富むため多種多様なワインを生産する。

バート・クロイツナッハ：ナーエ・ワインの集散地で有名な温泉保養地。見どころは温泉施設や公園のあるクア界隈と旧市街。隣接するバート・ミュンスターも赤い岩壁の景色が印象的な温泉町。かつての濃縮製塩装置は長さ1.1㎞あり、現在も塩水をかけて、ミストによるインハレーション効果絶大の空気を流している。マインツより40㎞。

ナーエ Web
バート・クロイツナッハ Web

急斜面ブドウ畑

モーゼル Moselle

© Deutsches Weininstitut GmbH (DWI)

蛇行繰り返しながらコブレンツでライン川に合流するまでドイツ国内を243㎞流れ、急勾配の斜面にブドウ畑があり伝統的にリースリング種白ワインの生産が多い。流域にはローマ時代から近世まで名所旧跡が多く、人気のある休暇地となっている。世界遺産の遺跡のあるドイツ最古の町のひとつトリアーが有名。名城エルツ、および帝国城聳えるワインの町コッヘムについては「絶景」の章を参照のこと。

ベルンカステル・クース：モーゼル中流の屈指のワイン名産地。市庁舎と見事な木組みの建物が囲む石畳のマルクト広場は絵の様に美しい。ワイン試飲、ロマンチックな旧市街散策や城址からの眺望、そしてクース地区にあるワイン博物館見学がおすすめ。

モーゼル Web
ベルンカステル・クース Web

ドイツ最大のワイン生産地

ラインヘッセン Rheinhessen

ライン川畔の町ビンゲン、マインツ、ヴォルムスが囲む三角地。白ワインが主で、輸出が多い。ラインテラスと呼ばれるライン川沿いのオッペンハイムやニーアシュタイン村のワインは日本にもお馴染み。

マインツ：知名度の割にはラインラント・プファルツ州首都でラインヘッセン・ワインの中心地マインツの良さは知られていない。世界的ロマネスク様式大聖堂、必見のグーテンベルク博物館、シャガール作のステンドグラスのシュテファン教会、ライン川下り…そして木組み家屋の多いロマンチックな旧市街でワインを味わいたい。４月～11月中旬毎土曜日にリープフラウエン広場に立つ週市にはワイン屋台が多く並ぶ。

ラインヘッセン Web
マインツ Web

ドイツ・ワイン街道にそって

プファルツ Palatinate

© Rheinland-Pfalz Tourismus GmbH_Dominik Ketz

ドイツで２番目に大きい生産地域。街道は仏アルザスの国境までの長さ80㎞。詳細は「街道の国ドイツ テーマのある旅」の「ドイツ・ワイン街道」を参照。リースリング種白の生産が多いが、赤も３割を占め、なかでもドルンフェルダー種が多い。

ノイシュタット：ロマンチックな木組みの家や古いワインレストランが多い情緒ある旧市街、バロック様式の市庁舎がある歴史的マルクト広場が見どころ。有名なドイツぶどう収穫祭は10月の2週間行われ、醸造業者パレードはドイツ最大。またドイツ・ワイン女王選出のイベントも９月にここで催される。山の頂に聳える“ドイツの民主主義のゆりかご”と呼ばれるハムバッハ城は、ドイツ史の重要スポット。1832年５月末、ハムバッハ祭りは統一と自由を求める反絶対王政反ウィーン体制の大集会となり、現国旗の原型となる黒赤金の三色旗が振られた。年中見学可、展示あり、有料。眺望最高、レストランあり。

プファルツ Web
ノイシュタット Web

男性的なワイン

フランケン Franconia

© Getty Images_Tomekbudujedomek

フランクフルトの東、蛇行するマイン川に沿って生産地が続く。ロマンチック街道のヴュルツブルクは世界遺産のレジデンツ宮殿のホーフケラー（宮殿セラー）、伝統の慈善団体が造るワイン、ゲーテが愛飲したシュタインの畑のワインなど知られている。丸い平べったいボトルも独特。味は男性的でコクがあり、とくに白のシルヴァーナ種と赤のシュペートブルグンダー種が好まれている。

ミルテンベルク：イプホーフェンやフォルクアハなど著名なワイン村が多いが、マイン川の真珠と呼ばれるミルテンベルクは、ドイツで最も美しい小さな町のひとつとしてインスタグラムのホットスポットともなっている。マルクト広場を囲む見事な木組みの家並みのアンサンブル、歩行者天国に立つ旧市庁舎やドイツ最古のホテル・レストラン「ツーム・リーゼン」（巨人亭、現在は地ビール・レストラン）は絵になる。中世の町は市城壁と城門で囲まれ、町を見下ろすミルテンベルク城にはイコン博物館がある。隣接するビュルクシュタットはフランケン赤ワインの産地として特に有名で、著名なワイナリーが複数ある。

フランケン Web
ミルテンベルク Web

赤ワイン生産量はドイツ一

ヴュルテンベルク Württemberg

ネッカー川とその支流流域の生産地で、中心はシュトゥットガルトとハイルブロン。赤ワイン生産が7割を越え、その生産量はドイツ一。トロリンガー種やランベルガー種という日本に馴染みの薄い赤がある。赤と白を混醸造したロゼのシラーワインは特産品。この地域のワインは日本であまり見かけないので、現地では試飲を組み込みたい。
エスリンゲン：シュトゥットガルトから15㎞にぶどう山に囲まれ、かつて帝国自由都市として栄えた中世景観が美しいエスリンゲンの町ある。多数の文化財指定の歴史的建造物や200軒の木組みの家屋は見応えがある。クリスマス市と中世市も全国的に評判。現存するドイツ最古の1826年創業のゼクト醸造所ケスラーも訪れてみたい。

ヴュルテンベルク Web
エスリンゲンのクリスマス市 Web
エスリンゲン Web

もっとも早く春が来る街道

ヘシッシェ・ベルクシュトラーセ（山の道）
Hessische Bergstrasse

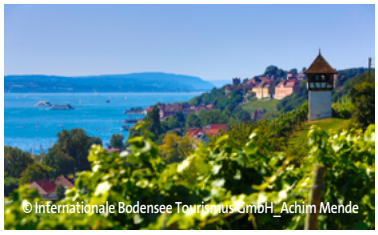
© Deutsches Weininstitut

大学町ダルムシュタットの南からハイデルベルク郊外まで80㎞、オーデンの森山地の麓を通るローマ時代からの街道沿いの地域で、最も小さなワイン生産地域。山の頂には古城、麓には点々とワインの村が散在する。フランクフルトからハイデルベルクへの100㎞は高速道路を急がず、少しの寄り道で絵のようなワインの村や古城を観光できる。世界遺産のロルシュ修道院の王の門もこの街道上にある。
ヘッペンハイム：見事な木組みの家屋が旧市街の中心のマルクト広場を囲む。ぶどうの丘の頂には17世紀の古城シュタルケンブルク聳え（現在ユースホステル）、塔やレストランのテラスからの眺望がすばらしい。

ヘッシッシェ・ベルクシュトラーセ Web
ヘッペンハイム Web
ロルシュ修道院 Web

グルメの土地のワイン

バーデン Baden


© Internationale Bodensee Tourismus GmbH_Achim Mende

ドイツでもっとも南に位置する生産地域で南北400㎞に細長くライン川に平行して伸び、バーデン・バーデンやフライブルク、黒い森の西麓、ボーデン湖といったよく知られた地名が見られる。９つの栽培地区があり、それぞれに特色あるワインが生産されている。
メーアスブルク：オーストリア、スイスに接する休暇地域ボーデン湖の景勝地。絵本から抜け出たようなカラフルな中世の木骨組家並みがぶどうの丘に広がる。ドイツ木組みの家街道の起点。中腹にはバロック新宮殿、上にはドイツ最古に属する騎士の旧城が聳える。自慢の味は名産のバーデン・ワインとボーデン湖鱒。花の島マイナウや中世の出島の港町リンダウ、コンスタンツ市、世界遺産のライヒェナウ島など世界的見どころが近くに多数ある。

バーデン Web
メーアスブルク Web
マイナウ島 Web
ライヒェナウ島 Web

エルベ川の高級白ワイン

ザクセン Saxony

© Deutsches Weininstitut GmbH (DWI)

ドレスデンから下流30㎞にある陶磁器の古都マイセン、上流30㎞にある絶景バスタイ岩の観光起点ピルナまでのエルベ川南斜面にブドウ畑が連なる。栽培面積は小さく生産量も少ないが優れた高級白ワインが造られる。
ラーデボイルを起点に：ドレスデンの門と言われるワインの町ラーデボイルを起点に面白いツアーが企画できる。白眉はザクセン州立ワイナリーのシュロス・ヴァッカーバルト。バロック宮殿とテラス風ブドウ畑、庭園、近代的なワインとゼクト醸造所が素晴らしいアンサンブルを創る有名な体験ワイナリー。ラーデボイルには多数のワイナリーがあるが、愛好家には1401年創業のホーフレスニッツ・ワイナリーがおすすめ。公認のザクセン唯一のエコワインを作る。歴史的な建物にはワイン博物館も入り、ザクセン・ワイン街道の中央情報センターとなっている。醸造所見学、試飲可能。
ラーデボイル郊外10㎞にはザクセン選帝侯の絵のような水城モーリッツブルクがあり、ドレスデンからの小旅行スポットだ。ラーデボイルとモーリッツブルク間には1884年創業の蒸気機関車狭軌鉄道レスニッツ・グルントバーンが毎日数便運行し、所要時間は片道30分弱。ドレスデン／マイセン旅行は上記要素をひとつ加えれば一味違うツアーとなる。

ザクセン Web
ヴァッカーバルト Web
モーリッツブルク宮殿 Web
レスニッツ・グルントバーン Web

ザーレ・ウンストルート Saale-Unstrut

ザーレ川とウンストルート川の狭い峡谷にあるクオリティ・ワインができる最北端栽培地。伝統的に辛口のワインを生産されている。ナウムブルクやフライブルク、バート・ケーゼンがワインの中心。テラス階段状のブドウ畑と番小屋の景観が特徴的。ちょうどゲーテ街道のライプツィヒとワイマールの中間に当たるので、ゲーテ街道の旅では必ず味わいたい。
ナウムブルク：欧州中世の重要大聖堂建築として18年に世界遺産に登録された千年の古都ナウムブルクの大聖堂。西内陣の後援者像は貴重な中世芸術作品で、なかでも辺境伯妃ウタの像は中世一の美人と評判。12㎞離れたフライブルクには東独のスパークリングワインとして有名なゼクト醸造所ロート・ケップヒェン（赤ずきんちゃん）が健在。見学試飲が可能。

ザーレ・ウンストルート Web
ナウムブルク大聖堂 Web
ナウムブルク Web

© DZT e.V._Francesco Carovillano

ラントヴェーア醸造所レストラン

アルトミュール自然公園

フランケン地方

フランケン地方といえばチャーミングな町、歴史ある都市、広大な自然公園、鉱泉保養地、ヘルスリゾートとなりますが、加えて多様な食の楽しみがあります。歴史愛好家や活動的な休暇を過ごしたい方が必ず満足できるところです。

フランケン地方はとてもバラエティ豊かなのでドイツのミニチュアと言われます。フランクフルトとミュンヘンの間、バイエルン州の北部にあり、それぞれに特徴のある多くの異なる景色が見られます。立派な建造物と尽きない楽しみがあるフランケンの都市は、他とは比べものになりません。

フランケン地方には４つのユネスコ世界文化遺産があります：ヴュルツブルクのレジデンツ宮殿、ローマ帝国の国境線長城リーメス、バイロイトの辺境伯オペラハウス、バンベルク市街です。ロマンチック街道と古城街道ではローテンブルクやニュルンベルクといった興味深い古都を発見できます。無数の名所旧跡、自然、博物館美術館があり、土地の風習伝統に触れられます。

フランケン地方の発見にはマイン川とマイン・ドナウ運河のリバークルーズという旅の方法もあります。フランケン地方の旅の喜びは食にあり。醸造所の密度がドイツ一のフランケン地方の地ビールと有名なフランケン・ワインはぜひ味わいましょう。

旅行業向けサービス

- ファムトリップ
- フランケン地方フォトギャラリー（ダウンロード用）：https://medienservice.frankentourismus.com/subjects/pictures/
- 資料（プリントおよびオンライン）
- パッケージの開発およびツアー相談

インフォメーション：

フランケン観光局 Franconian Tourist Board
担当: Jörg Hentschel
E-Mail: joerg.hentschel@frankentourismus.de
Website: www.frankentourismus.com

バンベルク

Photography Credits: FrankenTourismus, Holger Leue (top left); Naturpark Altmühltal, Dietmar Denger (top right); FrankenTourismus, Holger Leue (bottom)

© Getty Images_Frank Gaertner

ビールの国

ドイツには1500の醸造所があり、6000種類のビールが造られている。ドイツは2016年にドイツ・ビール純粋令500周年を大々的に祝わった。1516年に定められたビール純粋令の伝統は今も守られ、ドイツのビールの特色となっている。

ビール Web

ゲーテが愛した黒ビール

ワイマールに住む文豪ゲーテは、晩年ワイマールの東65kmのバート・ケストリッツで醸造されるケストリッツァー・シュヴァルツビーア（黒ビール）を愛飲した。1543年創業のドイツ最古の黒ビール醸造所である。宰相ビスマルクもこのビールのファンであった。艶やかな黒色と麦芽ローストのアロマが特色。ゲーテ街道やテューリンゲン州でよく目にする。

バート・ケストリッツ Web
ワイマール Web

ルターの活力 ボックビール

2017年にドイツは宗教改革500周年ルターイヤーを祝った。アインベックの町で造られるビールをルターは好んで飲み、1521年のウォルムス帝国会議のときに「最高の飲み物はアインベッカー・ビールと呼ばれる」と述べた記録がある。結婚式にはヴィッテンベルク市から一樽を贈られた。アインベックはハノーファーの南75kmにある有名なビールの町。度数の高い高品質のビールを13世紀に醸造、輸出し、ハンザ同盟都市として繁栄した。17世紀には、バイエルン王がボックビールとして発展させた。元祖ボックビールは1378年創業のアインベッカー醸造所で生まれ、今も世界中に輸出されている。なおアインベックは150軒余りの木組みの家の美しい中世的都市である。

ルター Web
アインベック Web

ルートヴィヒ王ビール

ノイシュヴァンシュタイン城を築いたルートヴィヒ二世のヴィッテルスバッハ家はバイエルン地方に800年も君臨した家系でビールとは縁が深い。バイエルン王は1516年にビール純粋令を発布し、1810年の皇太子結婚祝いの祭りが後のオクトーバーフェストになった。1260年創業のケーニッヒ・ルートヴィヒ醸造所は現在、騎士の祭りで有名なカルテンベルクの城内にあり、最後のバイエルン王のひ孫のルイトポルト王子が経営者。フュッセンやミュンヘンを訪ねたら一度は王家の紋章ラベルの付いたビールを試したい。

カルテンベルク騎士の祭り Web
ヴィッテルスバッハ博物館 Web

人気1位 黒い森のピルス

230年の伝統ある黒い森南部にあるロートハウス州立醸造所で造られるピルスビールは、大手を抑えて人気ランキングトップ。黒い森民俗衣装の少女とモミの木の松かさの可愛いいラベルで、黒い森の軟水とハラータウ産アロマホップを使うバランスの取れたピルスと苦みのあるタネンツェプフレ・ピルス（モミの木松かさ）が好評。黒い森パノラマ街道の景勝地ティティゼー・ノイシュタットから南に25km。醸造所見学可、ホテルレストランあり。

黒い森パノラマ街道 Web

ドイツのグルメシーン Culinary Germany

世界を飛び回るビジネスマン、世界一旅行好きなドイツ人、複合文化によりドイツのグルメシーンは変わり、ダイニングを楽しめる旅行地となった。ドイツにはフランスに次いでミシュランの星付きレストランが多いのもその証。三ツ星10、二ツ星38、一ツ星261の総計309のグルメレストランがある。地域別にみると昔から料理に定評のあるバーデン・ヴュルテンベルク州（州都シュトゥットガルト、黒い森、バーデン・バーデンなどのある州）が群を抜き、バイエルン州とケルンやデュッセルドルフのノルトライン・ヴェストファーレン州が続く。料理の方向は仏と伊、中欧をベースにしたトラディショナルやクラシック、モダンな創作料理、自然志向、アジア料理とのフュージョンなど多様化し、ベジタリアン星付きレストランも出てきた。気楽にカジュアルに行ける高級レストランも増えつつある。ドイツ観光局のホームページは40軒余りのグルメレストランを紹介している。

グルメ料理 Web

© Traube Tonbach_René Riis

バイアースブロン村はグルメの首都 Baiersbronn

黒い森国立公園にある人口２万に満たないバイアースブロンにはミシュランの三ツ星レストランが２軒、一ツ星が２軒と計８つの星が輝き、世界にその名を轟かしている。スターシェフのハラルト・ヴォールファールトは、この村のトラウベ・トーンバッハホテルの

© Ulrike Klumpp

シュヴァルツヴァルト・シュトゥーベを三ツ星レストランに押し上げ、25年間三ツ星を守り続け、30人以上のスターシェフを育て上げた伝説的人物。現在はシェフのトルステン・ミヒェルが三ツ星を維持している。同ホテルのケーラー・シュトゥーベは一つ星。有名なクラウス＝ペーター・ルンプ率いるホテル・バライスのグルメレストラン・バライス（三ツ星）、ホテル･ザックマンのレストラン･シュロスベルク（一ツ星）も国内外で高い名声を得ている。黒い森の地方色豊かな雰囲気と郷土料理であればホテル・トラウベ・トーンバッハのバウエルン・シュトゥーベやホテル･バライスのドルフ･シュトゥーベがよい。同ホテルのカミーン・シュトゥーベはバーデン料理。バイアースブロンは黒い森高原街道（街道の国ドイツ参照のこと）に近い休暇地で、すべてのカテゴリーの宿泊施設、レストランがあり、ハイキングやサイクリングの天国である。近郊に見どころが多く、フロイデンシュタット（8㎞）、天空の城ホーエンツォレルン（66㎞）、ヘッセの町で木組みの家並みが美しいカルフ（55㎞）、バーデン・バーデン（46㎞）、ドイツ観光トップ100の1位にランクされるテーマパークのオイローパ・パルク（95㎞）、シュトゥットガルト（95㎞）がある。

シュヴァルツヴァルト・シュトゥーベ Web
バライス Web
シュロスベルク Web

© Hotel Traube Tonbach_René Riis

© Traube Tonbach_René Riis

© Traube Tonbach_René Riis

フランクフルトでグルメ Frankfurt

国際金融都市フランクフルトには９軒の星付きグルメレストランがある（二ツ星１軒、一ツ星８軒）。植物園パルメンガルテンに隣接する魚料理を得意とする二ツ星ラフルーフ。外交官邸地区にある優雅なヴィラ･メルトン、野菜料理のセブン・スワンズ、カルメル・グレコなど。市中心部にあるミシュランプレートが付いている地中海･欧州料理のメディチ、近くのハイマート、水圧ポンプ場建物にあるドルックヴァッサー･ヴェルケは評判がよい。

レストラン・ラフルール Web
フランクフルトのグルメレストラン Web

© Getty Westend61_Westend61

ラインの古城で二ツ星

ラインワイン名産地ラインガウのガイゼンハイムにあるブドウ畑に囲まれた古城ホテル・シュヴァルツェンシュタインのグルメレストランでは有名なスターシェフのニルス・ヘンケルが創作料理に腕を振るう。メニューはフローラとファウナの二種。ホテルには別に洗練された郷土料理のブルク・レストランとワイン・グリル・レストランがある。客室数51。フランクフルトから60㎞。近くに銘醸ヨハニスベルクやエーベルバッハ僧院、ワイン産地で有名な町、リューデスハイムがある。

古城ホテル・シュヴァルツェンシュタイン Web

©Burg Hohenzollern_Roland Beck

天空の城 ホーエンツォレルン城

荘厳な絶景

南西ドイツにはドイツで最も知られている城のひとつであるホーエンツォレルン城が荘厳な姿を見せています。円錐形の山頂に城が雲海に浮かぶ景色はまさに絶景です。城からの眺めは素晴らしく、文化と芸術とドイツの歴史が肌で感じられ、自家醸造のプロイセン皇子ビールが飲める楽しみもあります。

ホーエンツォレルン城の歴史

ホーエンツォレルン城はホーエンツォレルン伯、プロイセン国王、そしてドイツ皇帝の代々の城です。王家は約1000年前に興り、ツォラーベルク山の上に城がありました。15世紀に最初のホーエンツォレルン城は戦争で壊されましたが、すぐに再建されました。18世紀には砦は見捨てられ廃墟となりました。19世紀にプロイセン国王フリードリッヒ・ヴィルヘルム四世は、王家の出身城を以前にもまして大きく美しくロマン派の理想にならって新ゴシック様式で今日見られる形で再建しました。城は現在もホーエンツォレルン家の個人所有です。

城内見学では歴史、逸話、芸術、建築、王家の生活などを知ることができます。絢爛豪華な伯爵の間、青の間と並んで騎士の甲冑武具、プロイセン王の王冠、フリードリッヒ大王の命を救った有名なたばこ入れを展示する宝物殿は、とくに興味を引きます。

フリードリッヒ大王は皇太子の時に父王の命でビール醸造を習得しました。大王の子孫、例えば皇帝ヴィルヘルム二世もビールを重要視しましたが、王家はそれまで自分のビールは持っていませんでした。本家の長の役職を務めるプロイセン皇子ゲオルク・フリードリッヒは2017年にプロイセン・ピルスナー・ビールの醸造に着手し、自身も醸造開発に係わりました。ホーエンツォレルンのビールは個性的で、味は風味があり心地よい苦味があります。ホーエンツォレルン城のレストランで樽からタップした新鮮なビールをご賞味いただけます。このビールに合った美味しい郷土料理はシェフが腕を振るいます。夏には城のビアガーデンがオープンし、王家の菩提樹の木陰で飲むプロイセン・ピルスナーの味は格別です。この味を旅行中にも、と言う方には売店で６本入りをお求めいただけます。

©Burg Hohenzollern_Roland Beck

©Burg Hohenzollern_Roland Beck

開館：通年
11月1日～3月15日　10時～16時30分
3月16日～10月31日　10時～17時30分

www.burg-hohenzollern.com
Tel: +49(0)7471-2428

旅情報

アクセス
車：シュトゥットガルトから65㎞、1時間。フランクフルトから265㎞。
鉄道：シュトゥットガルトからテュービンゲン経由ヘヒンゲンまで1時間強。ヘヒンゲン駅からバス便あり。タクシー利用おすすめ。城下駐車場から城門まで徒歩30分。シャトルサービスあり。
（入場料、シャトルバス、ガイドツアー、クリスマスマーケット等行事などの情報は上記ホームページ参照、英独）

祭り
伝統、風習、ふれあい

お祭りやイベントは旅の大きな楽しみ！伝統と風習が引き継がれるお祭りは、旅行者にとって、その土地の文化や生活が感じられる文化体験であり、人々との触れ合いが生まれる旅の忘れがたい思い出となる。

© Touristik Service Dinkelsbühl_Ingrid_Wenzel

© NRW - Tourismus Nordrhein-Westfalen e.V._Oliver Franke

第五の季節カーニバル Carnival

三大カーニバル
Köln, Düsseldorf, Mainz

カーニバルはドイツ全土で盛んだが、なかでもライン川流域のケルン、デュッセルドルフ、マインツはカーニバルの牙城と呼ばれ、ケルンの規模は最大である。「女たちのカーニバル」に始まり、「バラの月曜日」をはさんで「スミレの火曜日」までがストリートカーニバル。この間は仮装をした市民で溢れ、街中がパーティ会場と化す。ハイライトはバラの月曜日のパレード。最大規模のケルンでは、このパレードに12000人が参加し、馬の数は300頭、パレード行列は長さ７㎞に及ぶ。観客に投げられるスイーツ300トン、花束30万本、チョコレート70万枚、沿道観客は100万人！このパレードが3時間半続く。ケルンでは有料の屋根付き観覧席も用意される。

バラの月曜日：2020/2/24、2021/2/15、2022/2/28

ケルンのカーニバル Web
デュッセルドルフのカーニバル Web
マインツのカーニバル Web

ドイツ最大の春祭りゾマーゲヴィン
Eisenach

イースター前の３週間に開かれるドイツ最大の春祭りゾマーゲヴィン。ドイツ無形文化財に指定されるこのお祭りのハイライトはパレードで、1200人の楽隊やフリート、馬車、100頭の馬が町を練り歩く。市内三ヶ所ではファンフェアが開かれ、マルクト広場では夏の女神ズンナと冬の王ヴィンターが口論し、ズンナが勝利し藁人形が燃やされる劇がある。
ゲーテ街道にあるアイゼナッハは世界遺産のヴァルトブルク城、バッハ生家、ルターの家など世界的名所旧跡が多い。

パレード：2020/3/21

ゾマーゲヴィン Web

ミュンヘンのファッシング
München

バラの月曜日を挟んで日曜から火曜まで、町の中心マリーエン広場と歩行者天国はさながら屋外の仮装パーティ。ビール醸造所やビアホール、劇場は人々で賑わう。ハイライトは火曜11時にヴィクトゥアーリエン市場で催される伝統の市場女性のダンス。

ミュンヘンのファッシング Web

幻想的なカーニバル体験
Rottweil

古来の地方民俗風習を受けつぐ南西ドイツのカーニバル（ファスネット）の特色は、全身を覆う風変わりな衣装と不思議な木の仮面。美しい中世の町ロットヴァイルでは、バラの月曜日８時～と翌火曜日８時～、14時～パレートが始まる。道化などの仮装をした4000人の市民が旧市街を練り歩き、他の地方で見られる派手なカーニバルとは全く異なる世界が出現する。ドイツ無形文化財。シュトゥットガルトより南西95㎞に位置する。

ファスネットについて Web

© DZT_Greg Snell

© DZT_Francesco Carovillano

ローテンブルクの時代祭り
Rothenburg

マイスタートゥルンク
Master Draught

三十年戦争当時の1631年、旧教軍に包囲され降伏した自由都市ローテンブルクを市長がフランケンワインの一気飲みで救った伝説に基づく祭り。ドイツ無形文化財。歴史劇、中世職人市、羊飼いのダンス、野営など全市街で中世の時代が再現される。ハイライトは日曜日の大パレード。

聖霊降臨祭日曜を挟んで金曜から月曜までの４日間開催。

2020/5/29～6/1、2021/5/21～24

ローテンブルク Web
マイスタートゥルンク Web

帝国自由都市祭り
Imperial City Festival

ローテンブルクは1274年に自由都市権を得て繁栄した。その栄光の時代を再現して祝う祭り。マイスタートゥルンク歴史劇も市庁舎で上演される。

各年９月第一週末の金・土・日。

2020/9/4～6、2021/9/3～5

ザッツファイ城　騎士の祭り
Burg Satzvey

現在も伯爵が住む美しい中世の水城で、手に汗握る騎士の馬術試合ショーが観戦できる。手工芸品の職人、大道芸人、楽士などによる楽しい中世のマルクト市場や、騎士の野営を体験できる。ケルンの北50㎞。

聖霊降臨祭と9月第一および第二週末の土日開催。

2020/5/30～6/1、2020/9/5～6、9/12～13

ザッツファイ城 Web

キンダーツェヒェ子供祭り
Kinderzeche

ディンケルスビュール

毎年7月に10日間開催される歴史祭。ドイツ無形文化財。町は三十年戦争で新教側スエーデン軍に包囲されて降伏。塔守の娘ローレが子供を連れて敵将に慈悲を乞い、町が救われた逸話に由来する祭り。城壁と水濠で囲まれた中世の町全体が中世時代に戻る。両日曜に大パレードが開かれ、その他にも、軍の野営、ホールでの歴史劇、広場での職人組合ダンス、中世職人手工芸、子供パレード、子供吹奏楽隊、城外の牧場では祭り大テント、移動遊園地など様々なプログラムがある。

2020/7/17～26
2021/7/16～25
2022/7/15～24
2023/7/14～23

子供祭りプログラム（独） Web
ディンケルスビュール Web

© Touristik Service Dinkelsbühl_ Ingrid_Wenzel

フォルクスフェスト

伝統風習の中で育まれた地方色のある大きな祭りはフォルクスフェストと呼ばれ、ドイツ的な陽気な雰囲気は、旅行者にとって楽しい触れ合いの体験行事となる。広大な祭り会場、巨大なビールテント、移動遊園地、屋台、ハート型スイーツのレープクーヘンなどが共通の特徴で、地元の人も旅行者も心から祭りを楽しめる。ここでは夏から秋にかけてのフォルクスフェストに焦点を当てる。

ハノーファー
射手の祭り
Hannover Schützenfest

約500年の伝統ある世界最大の射手の祭りで、120万人のビジターを数える。ハイライトは日曜の射手のパレード。長さは3.5㎞に及び、射手5000人を含む12000人が参加する。

毎年７月の第一金曜日より10日間開催。
2020/7/3〜12
2021/7/2〜11
開催場所：シュッツェン広場

ハノーファー Web
射手の祭り Web

キール
キール・ウィーク
Kieler Woche

バルト海に面したシュレースヴィッヒ・ホルシュタイン州都キールで開かれるキールヨット週間。1886年のヨットレースに起源をもつ世界最大のヨットスポーツの祭典で300万人のビジターを惹きつける。4000人のセイラー、船1500隻、うち200隻の外洋ヨットなどが参加。ハイライトは100隻の大型外洋帆船によるパレード。海の祭りは夏祭りに拡大し、20余りの音楽ステージが出現。市庁舎広場などはお祭り広場となる。

毎年6月下旬の9日間開催。
2020/6/20〜28
2021/6/19〜27

キール Web
キーラー・ヴォッヘ Web

デュッセルドルフ
ライン・キルメス
Düsseldorf Rheinkirmes

ライン川流域最大のフォルクスフェストの起源は教会縁日（キルメス）。景観の良い広大なオーバーカッセル・ラインヴィーゼに立つ祭りには400万人が訪れる。ハイライトは、ユニフォーム姿の3000人の射手や楽隊、馬車などからなる歴史パレードと最終金曜日の花火。

毎年7月第3週目の金曜日から10日間開催。
2020/7/17〜26

デュッセルドルフ Web
ライン・キルメス Web

ミュンヘン
オクトーバーフェスト
München Oktoberfest

1810年、現会場であるテレージエン・ヴィーゼで行われたバイエルン王国皇太子の結婚を祝う競馬が起源。祭りは2020年に187回目を迎える。5000〜10000人を収容する大ビールテントが17棟並ぶ姿は壮観。バイエルンの民族衣装を着た人が多く見られ、テント内の席は予約で満席となる。少し度数の高いオクトーバーフェスト限定ビールが醸造され、ジョッキは「マース」と呼ばれる１リッターサイズで提供される。

10月第一日曜日を最終日とする16日間開催。
2020/9/19〜10/4
2021/9/18〜10/3
2022/9/17〜10/3

© DZT_Saskia Wehler

シュトゥットガルト
カンシュタット・フォルクスフェスト
Stuttgart Cannstatter Volksfest

ネッカー川の畔のカンシュタット地区で催されるドイツで第二番目に大きいビール祭り。ビジター数400万人。オクトーバーフェストの一週間遅れで始まる。1818年のヴュルテンベルク国王誕生日に因む収穫祭が起源。９つの大テントではビール以外に地産のワインも多く飲まれる。最初の日曜日に行われる大歴史パレードは見応えがある。

2020/9/25〜10/11
2021/9/24〜10/10

© Stuttgart-Marketing GmbH_Jean_Claude Winkle

秋のワイン祭り

© Stadt Iphofen_Jens Wegener

バート・デュルクハイム（ドイツ・ワイン街道）Bad Dürkheim

ヴルストマルクト（ソーセージ祭り）
9月第二第三週末　2020/9/11〜15、9/18〜21
600年の伝統ある世界最大のワイン祭り。ビジター70万人。大テントや移動遊園地あり。

マイセン Meissen

ワイン祭り
9月最終週末　2020/9/25〜27
ザクセン最大のワイン祭り。旧市街全体が会場となる。パレードは日曜10時にスタートする。

ベンスハイム（ベルクシュトラーセ）Bensheim an der Bergstrasse

ベルクシュトラーセ・ワイン祭り
9月第一日曜前日の土曜日より9日間　2020/9/5〜13
会場は歴史的旧市街。最初の日曜に醸造業者パレード開催。フランクフルトより南へ65㎞。

コッヘム（モーゼル）Cochem

故郷とワイン祭り
8月最終末の5日間　2020/8/27〜31
モーゼル流域で最も美しいワイン祭りと評判。1000人によるパレードが日曜10時にスタートする。

シュトゥットガルト Stuttgart

ワインヴィレッジ Web
8月末から9月初旬の12日間　2020/8/26〜9/6
中心となるマルクト広場・シラー広場に40のワインブースが出店し、500種のヴュルテンベルクワインが提供される。他にもシュヴァーベン名物あり。市民の出会いの場となるイベント。

マインツ Mainz

ワインマーケット Web
8月最終末と9月第一週末の木曜〜日曜4日間
2020/8/27〜30、9/3〜6
市立公園の緑の中に50余りのワイン小屋が立ち、主にラインヘッセン産ワインを提供。ローズガーデンではゼクトの試飲できる。

オーバーヴェーゼル（中流ライン）Oberwesel

ワインマーケット Web
9月中旬の週末2回　2020/9/11〜14、9/18〜19
マルクト広場で開催され、150のライン産ワインが提供される。パレートは日曜15時にスタート。ラインの火祭り（2020/9/12）には50隻の船団が組まれる。

フランクフルト Frankfurt

ラインガウ・ワインマーケット Web
晩夏の10日間　2020/9/2〜11
食い倒れ通り（フレスガッセ）とオペラ広場に30のラインガウ地方ワイナリーが出店し600種のワインを提供する。

ハイルブロン（古城街道）Heilbronn

ワインヴィレッジ
9月の10日間　2020/9/10〜20
ヴュルテンベルク産ワインの中心地。市庁舎の周りに30の醸造組合とワイナリーが400種のワインを試飲販売。ビジター30万人。郷土料理あり。テント、ライブ音楽あり。

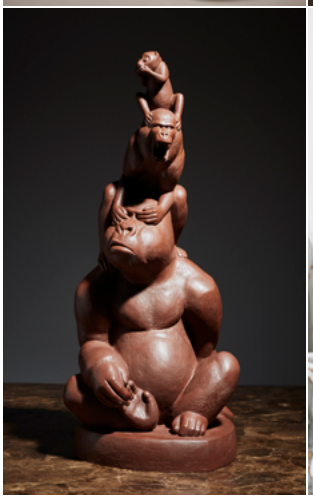
マイセン磁器工房の世界へ

マイセン磁器は、ザクセンのエルベ川流域の丘陵で育まれたこの地方の伝統と深く結び付き、300年余り前にアウグスト強王が力を傾注して作り上げた文化です。カフェレストラン・マイセン®ではエルベ川流域名産のザクセンの上級ワインをお食事やイベントの際にお試しいただけます。大聖堂、そしてドイツで最も古い城建造物のひとつであるアルブレヒツブルク城が聳えるバロック様式のマイセン旧市街には多彩な文化が集まり、マイセン磁器工房のハウス・マイセン®も徒歩圏内です。

ヨーロッパで最初の磁器工房発見の旅に出ましょう。1710年創設以来、マイセン®は繊細で優美な職人技と無比の製品の象徴となっています。実演工房とマイセン磁器財団博物館でそれを身近に体験できます。見学の後は直営店でのショッピング、カフェレストラン・マイセン®でグルメのひとときをお楽しみください。

職人技を観る

マイセン磁器は、伝統の工匠の技に従い今日に至るまで全て手作りです。ろくろ作業場から下絵/上絵付けまでの製作や型作りなどの４工程の実演から、磁器がどのように作られるのか、いくつものパーツを組み合わせて一つの人形ができあがる様子などを見学できます。実演工房は終日見学が可能で、日本語オーディオガイドで説明されます。（グループ：事前予約、日本語ガイドも可） Web



磁器博物館

マイセン磁器財団博物館の常設展では、アウグスト強王時代の大きな作品から白鳥がモチーフの豪華な食器セットまで、今まで未公開のコレクションも展示しています。博物館では毎年テーマを決めて特別展を開催しています。現在は「白い黄金」とも称される白磁を生み出したヨハン・フリードリッヒ・ベドガー特別展が開催中。アウグスト強王のために尽くしたベドガー初期の炻器「赤磁器」に焦点を当てます。特別展は入場料に含まれます。 Web

マイセン磁器で旅グルメ

ハウス・マイセン®の地階にあるカフェレストラン・マイセン®ではモダンな郷土料理を味わえます。月替わりメニューには、地中海風、ザクセン料理、近隣の食材を使った料理などが載ります。食事のお供には地元ワイナリーのワインとマイセン地ビールがおすすめ。コーヒーブレイクやアフターヌーン・ティには、ケーキや焼き菓子、チョコレートなどをお愉しみいただけます。オススメは、マイセン磁器のシンボル「二本の青い剣」をあしらったマイセン・トルテ。料理はすべて最高のマイセン磁器でお出しします。
「マイセン・タイムトラベル」と名付けたコース料理に加えて、マイセン磁器を発明した錬金術師に因んだベトガー・コースが新たに登場しました。ベトガー・コースは団体予約が可能ですが、ただし10名までで価格は39€/人です。 Web

マイセン直営店でお買い物

実演工房と博物館見学を済ませた後は直営ブティックとマイセン・アウトレットへどうぞ。豪華な食器セット、有名なマイセン人形、繊細な宝飾品、プレゼント品、アーチストとコラボした美術品など、マイセン製品をこれほど多く用意しているショップは他にありません。 Web

MEISSEN
est.1710

連絡先

国立マイセン磁器製作所
Staatliche Porzellan-Manufaktur Meissen GmbH
Busucherservice
Tel: +49(0) 3521 468-208　Fax: +49(0) 3521 468-804
museum@meissen.com
www.erlebniswelt-meissen.com/en

オープン
通年　9時～17時
12月24、25、26日休業

入場料（実演工房と博物館）
大人　12€
子供　6€（18歳まで）
家族　23€
団体　8€（20名以上）

クリスマスマーケット

クリスマス前の4週間（11月27日以降の日曜日以降）を待降節アドヴェントと呼ぶが、この時期はドイツ国内に5000ともいわれるクリスマスマーケットが開かれ、ドイツが最も輝く季節だ。日本からもリピーターが増え、新たなデスティネーションが求められている。

ドイツのクリスマスマーケット Web

アーヘンのクリスマス市
Aachen

世界遺産に登録される欧州の父カール大帝ゆかりの大聖堂と市庁舎の周りに立つクリスマス市は、ここ数年、欧州ベスト・クリスマスマーケット10選にランクされている。130の屋台が並び、ホットワインとともに名物の焼き菓子プリンテンの甘い香りが漂う。ライン河畔のケルンまで75㎞、さらにライン川に沿って世界遺産の宮殿のあるブリュールまで18㎞、さらにベートーヴェンの町ボンまで24㎞。

2020/11/20〜12/23
2021/11/19〜12/23

アーヘン Web
アーヘンのクリスマスマーケット Web
焼き菓子プリンテン Web

© Stadt Annaberg-Buchholz_Christian Dageförde

エルツ山地のクリスマス
Erzgebirge

アナベルク・ブッフホルツ　Annaberg-Buchholz

エルツ山地は2019年に鉱山業文化景観が世界遺産に登録された。中でも、アナベルク・ブッフホルツは典型的な鉱山の町の景観を有する町で、クリスマスマーケットと鉱夫パレードで知られている。16世紀建立の聖アンネ教会前の広場で開かれるマーケットの中心には、シンボルとなる大きなクリスマス・ピラミッドが立ち、世界中に愛されるエルツ地方オリジナルのクリスマス装飾品の屋台が軒を連ねる。他にも、ツリー装飾品、人形、木製玩具、キャンドルグッズなどの民芸品や郷土料理、スイーツなど80の屋台が並ぶ。鉱山業や鉱夫をモチーフとするものが多く見られるのが特徴だ。第4待降節の日曜13:30には、クリスマスマーケットのハイライトである鉱夫のパレードが行われる。制服で着飾った鉱夫と楽団1200人余りの行進は圧巻で、パレード後は聖アンネ教会前で楽団のコンサートがある。ドレスデンより西125㎞。ケムニッツより南へ36㎞。

クリスマス市　2020/11/27〜12/23
鉱夫パレード　2020/12/20

アナベルク・ブッフホルツのクリスマス Web
プログラム、鉱夫パレード等 Web

CITY BREAK

滞在型プランで都市を楽しむ

ドイツの大都市は一都市滞在型の旅行商品が造成できるに十分なデスティネーションだ。ミュンヘン、フランクフルト、ベルリン、デュッセルドルフのすぐに使える3〜4日間の具体的モデル滞在プランを紹介する。

© Michael T. Meyers

躍動する金融都市

フランクフルト

Frankfurt am Main

国際的金融の中心地、見本市の町、空の玄関フランクフルト。ライン川やロマンチック街道、ゲーテ街道などのゲートウェイでもある。ドイツでは珍しく高層建築の多い町だが、2019年に新旧市街が修復再建され、旧市街が広がり観光の魅力が増した。

フランクフルト Web
フランクフルト（英・独） Web

© iStock_SeanPavonePhoto

フランクフルトの４日間

1日目：観光名所はショッピング通りが交わるハウプトヴァッヘ周辺に集中している。ドイツ民主主義のゆりかごとよばれるパウルス教会から中世の中心レーマー広場へ。広場を囲んで新皇帝戴冠式後の祝宴が行われたレーマーと呼ばれる旧市庁舎（1階には観光案内所）、向かい側には一連の木組み家屋が並び、その裏手奥の大聖堂では皇帝選挙と戴冠式が行われた。大聖堂から祝賀会場の市庁舎まで延びるこの戴冠式の道が2019年に完成した新旧市街である。旧市庁舎裏近くのヨハン・ヴォルフガンク・ゲーテの生家ゲーテハウスとゲーテ博物館を見学し、ゲーテ広場から高級ブランド店が並ぶゲーテ通り、さらにレストラン、カフェやデリカテッセンが軒を連ねる通称食い倒れ通りのグローセ・ボッケンハイマー通りやショッピング大通りのツァイルを散策。

2日目：旧歌劇場アルテ・オーパーから歴史的建物のフランクフルト証券取引所へ。取引の象徴である牛と熊の像がある。高層建築マインタワーでは、高さ200mからのパノラマが自慢の54階にある展望台（毎日オープン、有料）がおすすめ。53階のレストランとラウンジも人気がある。現在クローズしているビジターセンターは、2020年春以降見学可。周囲には大手銀行の高層ビルが林立し、カイザー通りのユーロタワー前広場には有名なユーロマークのオブジェがある。（欧州中央銀行本店は東駅エリアに移転。午後はショッピングやパルメンガルテン公園散策、あるいは恐竜で人気のゼンケンベルク自然博物館、世界遺産に登録されたローマ帝国の長城リーメスの城砦を復元した郊外のザールブルクへ。

3日目：マイン河畔に沿って歩くと、旧市街対岸の古いヴィラやモダン建築など26の博物館・美術館が連なるミュージアムの岸と呼

Aschaffenburg

マイン河畔の千年の古都

アシャッフェンブルク

フランクフルトから車で30分の近さにあり、ルネッサンス様式の選帝侯のヨハニスブルク宮殿、世界唯一の古代ローマ風ヴィラのポンペイアヌム、ロマンチックな旧市街、美術鑑賞、10余りある公園と庭園、美しいシュペッサルト山地が魅力です。

表現主義の画家エルンスト・キルヒナーを生んだアシャッフェンブルクは、アートファンにはうれしい町。コルクで造った世界最大の古代建築模型、ルカス・クラナッハ父の収集、2019年にオープンしたクリスティアン・シャート博物館は新即物主義画家シャートの世界最大の収集を誇ります。

市街地のシェーンタール公園のモクレンの林はドイツ最大で、マイン川対岸のシェーンブッシュ公園はバイエルン州最古の英国庭園です。

お食事には最も古いレストラン「シュラッペゼッペル」から高級レストランの「エクスレ」まで、飲み物はフランケンワインからビール、アップルワインまで楽しめます。

デイツアーであれ数日間の滞在であれアシャッフェンブルクは四季を通じて忘れがたい体験となります！

Tourist Information Aschaffenburg
Schlossplatz 2, 63739 Aschaffenburg
Tel: +49 (0) 6021 395800　Fax: 395802
tourist@info-aschaffenburg.de
www.info-aschaffenburg.de

ばれる特異な景観が広がる。なかでも世界屈指のシュテーデル美術館は、中世絵画から現代までの傑作を多数展示（デューラー、レンブラント、フェルメール、モネ、ピカソなど）。現代美術のモダンアート美術館MMKも現代建築物とともに人気が高い（休館：月曜）。ミュージアムをじっくり回るなら、34のミュージアムに入場できる2日間有効のMuseumsufer Ticketがオススメ。グローセ・リッターガッセ通り周辺アルト・ザクセンハウゼンは木組みの家や小路の多い古き下町の雰囲気を残す地域で、アップルワインの居酒屋・レストランが多い。地元の人々と肩を並べて名物アップルワインと郷土料理の夕食を楽しもう。

４日目：フランクフルト発着のエクスカーション・バスツアーに参加しよう。世界遺産ライン川、ハイデルベルク、ロマンチック街道、ローテンブルク、ケルン、さらにエルツ城や天空の城ホーエンツォレルンなど様々なバスツアーがある。個人では、鉄道や船を利用してリューデスハイムとライン川下り、あるいはケルン、ハイデルベルク、マインツ、ヴィースバーデン、ヴェッツラーやマールブルクへの小旅行が可能。

旅のヒント

フランクフルト・カード：市内公共交通機関無料（フランクフルト空港含む）、ミュージアム入場料割引（最大50%）、市内ツアー割引、その他割引
料金：1日券10.50€　2日券15.50€

郷土の味

フランクフルター・ソーセージ：
スモークの香りがある細長いポークソーセージ。茹でてマスタード、ホースラディッシュ、あるいはポテトサラダを添えて。

グリーンソース：
7種のハーブのグリーンソースに固ゆで玉子とポテト。ゲーテの大好物と言われる。

フランクフルター・リップヒェン：
塩漬けポークロイン、ザウアークラウトとマッシュポテトを添えて。

アップルワイン：
250年前から飲まれているフランクフルトの地酒。陶製のベンベルから大きなコップに注ぐ。

フランクフルター・クランツ：
バタークリームケーキ。戴冠式の王冠を表す。

ベートメンヒェン：
3片のアーモンドに小さな丸いマジパン。銀行家ベートマン家のビスケットに由来。

地方色豊かな国際都市

ミュンヘン

München

バイエルン州の州都ミュンヘンではこの地方の伝統と風習が色濃く見られ、旅行者にとっても魅力的。ノイシュバンシュタイン城やロマンチック街道、世界遺産の町レーゲンスブルク、バンベルク、アウクスブルクなど魅力ある古都もバイエルンにある。

ミュンヘン Web
ミュンヘン（英・独） Web

© DZT_Francesco Carovillano

ミュンヘンの４日間

１日目：ミュンヘンの名所を巡るバスツアー（約２時間半）で町全体を把握しよう。まずは町の中心、新市庁舎前のマリーエン広場から旧市街を探訪。グロッケンシュピール、フラウエン教会、ヴィクトゥアーリエン・マルクトを散策したらビアガーデンで休憩。歩行者天国、ラグジュアリーなマキシミリアン通りでウィンドウショッピングを楽しんだ後は、レジデンツ宮殿見学。ホーフブロイハウスやアウグスティーナービアホール、あるいはデリカテッセンのダルマイヤーでの休憩もオススメ。夕食はバイエルン料理かグルメ料理、あるいはビールツアーの参加もおもしろい。

２日目：午前中に夏の離宮ニンフェンブルク宮殿見学。午後はサッカーファンならアリアンツアレーナのガイドツアーがおすすめ（1時間強）。科学技術方面に興味のある方はドイツ博物館、車ファンならBMWワールドとBMW博物館、クラシックファンにはバイエルン国立歌劇場のバックステージツアーなど、旅行者の興味を引くあらゆるジャンルのスポットがある。

３日目：デューラーやルーベンスなどの世界的傑作を展示するアルテ・ピナコテーク美術館見学（2時間半）。近くの英国庭園を散策し、ビアガーデンで休憩（中国塔あるいはゼーハウス）。午後はショッピング、あるいはノイエ・ピナコテーク、モダン・ピナコテークなどの美術館へ。

４日目：終日エクスカーション。バスツアーのプログラムは多彩。ノイシュバンシュタイン城とリンダーホーフ宮殿、ベルヒテスガーデンとケーニッヒ湖、ツークシュピツェ山、ロマンチック街道とローテンブルクなど。鉄道でアウクスブルク（乗車時間30分）、ニュルンベルク（1時間強）、レーゲンスブルク（1時間30分）を観光できる。

旅のヒント

音楽の魅力：バイエルン国立管弦楽団、ミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送管弦楽団等、国際的なオーケストラのコンサートを楽しもう。気楽にクラシックを味わうなら、クヴィリエ劇場、ニンフェンブルク宮殿でのコンサートがおすすめ。 Web

ミュンヘンカード：市内公共交通機関無料、ミュージアム・市内ガイドツアー・名所等の割引。レストラン・ショッピングでの特典。
料金：大人9.9€より。

ミュンヘン・シティ・パス：市内公共交通機関無料、ミュージアム・市内ガイドツアー・名所・展示館無料（ドイツ博物館を除く）。レストラン・ショッピングでの特典。
料金：大人39.90€より。
＊上記カードとパス料金は大人1日用（公共交通は市中心域内有効）。料金は通用期間1、2、3、4、5日および公共交通有効範囲（中心域内あるいは空港を含む広域）の選択により異なる。

郷土の味

白ソーセージ（ヴァイスヴルスト）：
茹でた白ソーセージ。昼前に取るスナック。

レバーケース：
ミートローフ。レバーケース・ゼンメル（サンドイッチ）。

シュヴァインス・ブラーテン：
ローストポーク料理。ダンプリング添え。

ケースシュパッツ：
パスタにチーズをかけ玉ネギを入れてオーブンで焼いた料理。

アプフェルキュヒル：アップルパイ。

ツヴェチケンダーチ：プラムケーキ。

ミュンヘンのビール

ドイツの首都はトレンドの発信地

ベルリン

Berlin

2020年に統一30周年を迎えるドイツ。再びドイツの首都となったベルリンは、プロイセン時代の文化遺産、東西ドイツ分断の歴史、多数の世界遺産（宮殿庭園群、モダニズム集合住宅群、博物館島など）、音楽や美術が魅力。そして世界のクリエイターが集まり発信する人口350万のダイナミックな欧州都市である。

ベルリン Web
ベルリン（英・独） Web

© visitBerlin_Dagmar Schwelle

ベルリンの４日間

１日目：ミッテ地区のアレグザンダー広場からブランデンブルク門まで。70年代の東独時代を偲ばせるアレグザンダー広場。まずはテレビ塔に登りパノラマを収める。その後、赤い市庁舎からシュプレー川畔の古い地区のニコライ界隈、対岸に堂々としたベルリン大聖堂、博物館群の世界遺産の博物館島（ペルガモン博物館など）へ。有名なウンター・デン・リンデン大通りからシュロス橋へ向かうと、再建中の宮殿が見える。国立歌劇場からジャンダルメンマルクトへ。コンツェルトハウスを挟んでドイツ大聖堂とフランス大聖堂のアンサンブルはベルリンの美しいスポットの一つ。大通りに戻りコーミッシェ・オーパーからブランデンブルク門へ。冷戦時代は壁があり、門は東ベルリン側にあった。ドイツ統一、東西融和、平和の象徴となったブランデンブルク門周辺は再建が進み、かつての活気を取り戻している。歴史的なスポットである帝国議事堂（連邦議会議事堂）では、議会場を見下ろすガラスドームを見学。近くには連邦首相府がある。分断により無人地帯となったポツダム広場には、統一後ソニーセンターをはじめ国際的建築家による高層建物が立ち、再開発の象徴となる。周辺には絵画館（2点のフェルメール作品やレンブラントなど）やフィルハーモニーが建つ。

２日目：ナチスの非道とベルリン分断の歴史にふれる。外国人用の唯一の東西ベルリン国境検問所チェックポイントチャーリー、ドイツのユダヤ人の歴史を展示するリベスキント設計のユダヤ博物館、欧州のユダヤ人犠牲者を記念するホロコースト記念碑、ニーダーキルヒナー通りのテロのトポグラフィー（秘密警察ゲシュタポ、親衛隊、親衛隊情報部の本部があったナチス恐怖政治の本拠地）など。テロのトポグラフィーには、ドキュメントセンター展示館と壁の一部がある。
その後は気分を新たに、西ベルリン観光へ。シャルロッテンブルク宮殿に向かい、かつてのプロイセン王国の華麗なロココ様式の宮殿と庭園を観光。有名な長いショッピング大通りクーアフュルステンダムの中央となるアデナウアー広場で買い物散策と観光。いずれも地下鉄でアクセス可。このエリアのおすすめは、カイザー・ヴィルヘルム記念教会、タウエンツィエン通り。老舗デパートのカー・デー・ヴェーでは特に食品部門が有名で、イートイン可。世界的に有名な動物園も近く、園内には水族館もある。

３日目：Ｓバーンのオスト駅下車。もっとも長いベルリンの壁が残るイーストサイド・ギャラリー見物。世界の画家による1.3㎞の壁絵ではブレジネフとホーネッカーの「兄弟のキス」は有名。オーバーバウム橋を渡ると新旧ベルリンが混在するクロイツベルク地区。雑貨屋さんやカフェ、多国籍レストランなどが集まるベルクマン通りと市場マルクト・ノインがおすすめ。ミッテ地区のハッケシェ・ヘーフェはサブカルチャー発信スポットの一つ。古い美しい建物中庭をつなぎ、小さい店舗やカフェ、レストラン、劇場などがあり人気がある。

© PMSG_André Stiebitz

４日目：終日ポツダム観光。ベルリン中心からプロイセン王家の居城の町、フリードリッヒ大王ゆかりの地のポツダムの中央駅まで30分弱。駅からアルター・マルクト広場、旧市庁舎、ニコライ教会、映画博物館を過ぎオランダ街へ。メインストリートのブランデンブルク通りをブランデンブルク門へ。ベルリンの同名の門より20年古い。ハイライトのひとつ世界遺産のサンスーシー宮殿と庭園、大きな新宮殿や中国館を観光。旧市街に戻り603番のバスで必見の世界遺産のツェツィーリエンホーフ宮殿へ。2020年5月1日～11月1日はポツダム会談75周年特別展開催（詳細はP9参照のこと）。

旅のヒント

ベルリン観光にはホップオン・ホップオフの「シティ・サークル市内観光バス」が便利。日本語オーディオガイド付。
ベルリン発着ポツダム市内観光＋サンスーシー宮殿入場の半日観光バスあり。
ベルリン・ウェルカムカード：市内公共交通機関無料、200の割引特典、地図付きガイドブックが基本で、有効期間48時間から6日間までの種類あり。ポツダムを含むカード、ペルガモン博物館など30件の入場が無料となるなど、様々なバリエーションがある。

郷土の味

飲み物：
ベルリナーヴァイセと呼ばれるラズベリーまたはクルマバソウのシロップ入り白ビール。
カリーヴルスト（カレーソーセージ）：
焼きソーセージにケチャップとカレー粉を掛けた簡単な立ち食いスナック。
プファンクーヘン：
ジャム入り揚げパン。ベルリーナーとも呼ばれる。
ブレッテ：
小型のハンバーグ。他の地域ではフリカデレとも呼ばれる。
ケーニヒスベルガー・クロプセ：
茹でた合挽肉団子のケーパー入りホワイトソースをかけ。
カルプスレーバー：子牛レバーとリンゴ、玉ネギのソテー、マッシュポテト添え。

ファッションの町、ライン地方の陽気さ

デュッセルドルフ

Düsseldorf

州都デュッセルドルフはファッションとショッピングの町、日本企業の欧州拠点として知られている。ライン河川港の再開発地区メディアハーフェンはさながらスター建築家の作品展で、トレンディなホットスポットとなっている。旧市街で、エレガントなアベニューで、ライン川のプロムナードで、ライン地方の陽気な人々に触れられる躍動する町だ。ANAは日本とデュッセルドルフを毎日結んでいる。

デュッセルドルフ Web
デュッセルドルフ(英・独) Web

デュッセルドルフの３日間

１日目：ケーニッヒスアレーと旧市街
かつての州議会建物（現、K21州立美術館）から出発し、ファッショナブルなショッピング大通りケーニッヒスアレーに入ると、中央に堀がある19世紀に造られた美しい並木道が広がる。ダニエル・リベスキント設計のショッピングセンターのケー・ボーゲンは、斬新で独特なファサードで目を引く。K20州立美術館から「世界一長いバーカウンター」と呼ばれる飲食店多いアルトシュタット旧市街に入る。ボルカー通り53はハインリッヒ・ハイネの生家（現在は書店）。ライン川に向かい、かつての城の塔シュロストゥルム（現在ライン航行博物館）が立つブルク広場へ。河畔のプロムナードを散策でき、市民が集まる憩いの広場だ。下流300mに聖ランベルトゥス教会。曲がっている屋根は街の象徴の一つ。ブルク広場から上流に向かいフィルム博物館を過ぎるとカールス広場。平日に市が立ち、ブティックが多いビルカー通りとホーエ通りとともに賑やか。

２日目：メディアハーフェン
ライン塔から出発。高さ234mの展望台から全市を一望。新たな人気スポットのメディアハーフェンは、特異な景観が印象的。ガラス張りの州議会建物から始まり、もっとも目立つ建物はフランク・ゲーリー設計のねじれたような建物群で、デュッセルドルフの象徴のひとつ。さらにポート・イベント・センターや槇文彦設計のマキ・ソリテール、多色のコロリウムなどが多数の現代建築の傑作が建築ファンや若者を引き寄せ、一味違った雰囲気の中で最新のトレンドや飲食を楽しむ人々でにぎわう。
メディアハーフェンで現代建築を楽しんだ後は、バロックの世界へ。地下鉄、あるいは郊外電車で南にある有名なベンラート宮殿へ。18世紀に選帝侯カール・テオドルが建てた欧州有数のバロック様式の宮殿と庭園は、市民の自慢であり憩いの場所である。宮殿内見学あり（休館：月曜）。

３日目：カイザースヴェルトへ
町の北10kmにある最も古い伝統ある地区カイザースヴェルトへは旧市街から地下鉄もあるが往路は船がよい。河畔に残る12世紀の王宮跡やロマンチックな木組みの家並みが美しいカイザースヴェルトは、市民の行楽や外食スポットである。クレメンス広場やマルクト周辺には17,18世紀のバロック様式の家が多い。赤レンガ造りのイム・シフヒェンはミシュラン一つ星の有名なレストラン。
市内に戻りデパートやショッピングアーケードやオフィスの多い歩行者天国シャドウ通りへ。リチャード・マイヤー設計の建物が際立つ。インマーマン通りには日本の企業が多い。

旅のヒント

デュッセルドルフ・カード：市内公共交通機関無料、ミュージアム・市内ガイドツアー等50の施設で割引や無料の特典。24時間、48時間、72時間、96時間の種類がある。

郷土の味

アルト・ビール：デュッセルドルフ元祖の上面発酵ビールで、デュッセルドルフの代表的飲み物。色は赤銅色、味はフルーティでホップの苦みがある。旧市街には老舗醸造元ビアホールが多く、ユーリゲ、シュリュッセル、フュクスヒェンなどで気軽に試せる。200mLのグラスは伝統的な円筒型。

世界へのゲート、スマートハブ

デュッセルドルフ空港

Düsseldorf Airport DUS

デュッセルドルフ空港はドイツで三番目に大きな空港で、人口密度が最も高いノルトライン・ヴェストファーレン州の世界へのゲートです。周辺100㎞の範囲内に1800万人が住む欧州でも最も経済の強い地域にある国際ハブ空港です。約70のエアラインが世界190のデスティネーションを結び、空港利用旅客者数は年間2,430万人で、1日平均6万6600人が出発あるいは到着します。

ヨーロッパのゲートウェイ

デュッセルドルフ空港は地理的に欧州の中心というロケーションの良さから欧州域内への移動はもとより、ドイツの一大経済地域の中心にあり近隣への移動にも便利です。デュッセルドルフ空港と市内は、電話またはタクシーでわずか10分の近さ。ターミナルから近郊の町への直通列車も出ています。また、レンタカー各社の窓口があるレンタカーセンターへは徒歩５分。ルール地方は近く、ケルン（57㎞）、ボン（85㎞）、アーヘン（98㎞）といった魅力ある都市や、アムステルダム（222㎞）やブリュッセル（205㎞）といった欧州の都市にも容易に行けます。

経済拠点を結ぶ

デュッセルドルフから半径500kmに1億5千万人が暮らすライン・ルール地方は、欧州で３番目に強い経済圏です。これはEU全消費者の3分の1、購買力の45%にあたります。ノルトライン・ヴェストファーレン州では、世界をリードする60余りの見本市が毎年開催され、来訪者は600万人にのぼります。デュッセルドルフ見本市が開催する50の見本市のうちの24はドルッパやメディカといった各産業分野専門見本市のトップクラスのメッセです。同州には売上高上位の16企業が本社を置き、大企業だけでなく76万5000の中小企業が集まっています。さらに1万5000の外国企業がここからドイツと欧州の活動を管轄しています。

デュッセルドルフ空港は世界の経済圏を密に結び、例えば東京、ニューヨーク、アトランタ、シカゴ、ドゥバイ、アブダビへは毎日ノンストップ便が飛んでいます。東京成田へはANAが毎日ドリームライナー787-9を運航しています。

多彩なサービス

デュッセルドルフ空港には60の店舗と40のレストランやバーがあり、ほぼすべてのニーズを満たします。多様な飲食やショッピングの他にタックス・リファンドサービス、ラウンジ、VIPサービスがあります。ターミナル中央の便利な場所にあるモダンなDUSコンフェレンス・プラスには、会議・会合ルーム、ボードルーム、ウェブ・コーナー、プラグイン・ワークステーション、３つのフォアイエ、フレキシブルに借りることができるワークエリアがあります。ターミナルそばにシェラトン・デュッセルドルフ・エアポートとマリティムの２つのホテルがあります。

デュッセルドルフ空港
Flughafen Düsseldorf GmbH
Tel: +49 (0) 211 421-0
incoming@dus.com
www.dus.com

デュッセルドルフと日本を毎日結ぶ

ANA

ANAはデイリーでデュッセルドルフと成田をノンストップで最新のドリームライナーボーイング787-9で結んでいます。日本で唯一７年連続「５スター」を獲得しているサービスをご体験ください。

今や日本最大の航空会社に成長したANAは、現在世界81路線、国内120路線へと拡大し成長を続けています。1999年に9番目のメンバーとしてスターアライアンスに加盟し、国際線事業の飛躍的な成長をとげ、その後、ユナイテッド航空、ルフトハンザドイツ航空、その傘下のスイスインターナショナルエアラインズとオーストリア航空とジョイントベンチャー・パートナー提携を結んでいます。

ANAグループは2004年に世界で初めて最新鋭機ボーイング787を発注して大きなニュースとなりました。ANAグループのグローバルプレゼンスは向上し、ローンチカスタマーとして開発をけん引してきました。2016年1月には世界で初めて10万便を突破。787の燃費効率の飛躍的改善が従来の中型機では実現できなかった長距離路線への運航を可能にし、国際線ネットワークの拡充に貢献しています。

現在ANAグループは260機の航空機を保有、2018年度においては5400万人旅客数を記録しました。

ANAは“Inspiration of Japan”のサービスブランドのもと一貫した高品質なサービスを提供しています。2019年も英国SKYTRAX社

が運営するエアライン・スター・ランキングにおいて世界最高評価となる「5スター」を日本で唯一7年連続して獲得しました。また米国のAir Transport World誌より2007、2013、2018年と3度にわたりエアライン・オブ・ザ・イヤーに選ばれ、これはアジアのエアラインでは初めてとなります。

www.ana.co.jp

人とつながっている自由な都会

デュッセルドルフ

Düsseldorf

デュッセルドルフにいるといつも世界や人々とつながっているように感じます。親近感と地域社会が都会の雰囲気と一体となりユニークな都市感覚を生み、それが旅行者を驚嘆させわくわくさせるのです。もっとも人口が多いノルトライン・ヴェストファーレン州の首都であるデュッセルドルフの強みは、優れた交通の便、最高のインフラと感動的な建築にあります。生活環境の面においても、長年に渡り、世界で高位にランクされてきました(2018年マーサー社調査6位)。
デュッセルドルフのショッピングの魅力は世界に知られています。欧州で最もラグジュアリーなショッピング大通りに数えられるケーニッヒスアレーもその一つです。ホーフガルテン庭園に接する有名なダニエル・リベスキント設計のケー・ボーゲンのモールではここだけのショッピング体験が得られます。旧市街アルトシュタットに入ると都会の活気を肌で感じます。レストラン、ホテル、バー、クラブ、居酒屋が密集するこの界隈は、デュッセルドルフ名物である本場のアルト・ビールや文化・歴史を体験できる最適のスペースです。メディアハーフェンはゲーリー設計の建物群など斬新な建築と人気レストランやカフェが集まるおしゃれスポットになっています。
デュッセルドルフほど緑の多い都市は他にありません。都市空間の3分の1が景観保護指定され、緑もとても多いデュッセルドルフは、生活水準が高く、豊かな生活を送れる町しても人気があります。
18世紀に夏の離宮として立てられたベンラート宮殿は、建築と庭園が一体となった美しい景観で、デュッセルドルフの観光の宝石とされる特別な文化財です。
デュッセルドルフ観光局は、旅行業の皆様のパートナーです。観光デスティネーションとしてのデュッセルドルフのポジションや認知度を上げ、ビジター数と宿泊数を増やすことを目標に活動しています。

デュッセルドルフ観光局
Düsseldorf Tourismus GmbH
Benrather Str. 9, 40213 Düsseldorf
info@duesseldorf-tourismus.de
www.duesseldorf-tourismus.de/en/home/

© Düsseldorf Tourismus GmbH

世界遺産のロマンチック・ラインへ

KD　ドイツ・ライン汽船

Köln-Düsseldorfer Deutsche Rheinschiffahrt GmbH

© KD_MS_Loreley_Pfalz

“出航！”　ＫＤドイツ・ライン汽船の船から険しい岩山に聳える古城に驚嘆し、伝説に包まれたロマンチックなローレライ渓谷の美しさに浸り、世界遺産の卓越した文化景観の魅力を存分に味わいましょう。ＫＤドイツ・ライン汽船は、リューデスハイムからザンクト・ゴアを経由してコブレンツへ毎日運航する唯一の船会社です。すべての船で無料のWi-Fiをご利用いただけ、ファーストクラスの快適さ、新鮮な素材の食事、ライン特産のワインを体験できます。またデュッセルドルフやケルン、フランクフルト、コッヘムから多数のイベント・クルーズを組んでいます。たとえば楽しいパノラマ遊覧、ロマンチックな花火大会を観るエクスカーション、ライン川沿岸のクリスマスマーケットを訪れるクルーズなどです。
ウェルカム・オン・ボード！

KD ドイツ・ライン汽船
Köln-Düsseldorfer Deutsche Rheinschiffahrt GmbH
Frankenwerft 35, 50667 Köln
Emely.Camaggio@k-d.com
www.k-d.com

おもてなしのアート

リビングホテルズ

LIVING HOTELS

デュッセルドルフ、ミュンヘン、ボン、ニュルンベルク、フランクフルト、ワイマール、ウィーンに計17のホテルを展開するドイツ系ホテルチェーンです。特徴は短期滞在向けホテルタイプの部屋と中長期滞在も可能なアパートメントタイプの部屋の双方を備え、直営でホテル運営を一貫して行う点です。アパートメントタイプの部屋はキッチン等すぐに生活できる設備が揃っています。館内は朝食ルーム、会議室、ランドリールーム、フィットネス、サウナなど快適に滞在できる環境が整えられています。

リビングホテル・デ・メディチは、客室170部屋を持つホテルとして2015年、デュッセルドルフ旧市街に開業しました。当館は、17世紀の修道院を改装した5階建てで、内装はクラシカルな欧州調、館内には絵画や彫刻を陳列し、ホテル全体が美術館のような落ち着いた雰囲気のホテルです。デュッセルドルフの中心のベストロケーションにあり、空港から車で20分、観光もショッピングも徒歩圏内です。日本人向けサービスはとくに充実し、日本人ベテラン職員がVIP、グループ、MICEなどすべてのご要望に対応いたします。デュッセルドルフの中心部にさらにモダンな160部屋のリビングホテル・デュッセルドルフがあります。市庁舎やラインタワーへ徒歩12分という好ロケーションにあります。

リビングホテルグループはお客様がくつろいでご自分の時間を堪能できるホテルをモットーに、未来のあるべきホテルをスタッフ一同一丸となって目指しております。

Living Hotel De Medici
Mühlenstrasse 31, 40213 Düsseldorf
demedici@living-hotels.com

Living Hotel Düsseldorf
Kirchfeldstrasse 59-61, 40217 Düsseldorf
duesseldorf@living-hotels.com

www.living-hotels.com/en/（英語）
www.living-hotels.com/（独語）

リビングホテルズ
日本マーケット担当　栗原
Tel: +49 (0) 211 16092-842
Masanao.Kurihara@living-hotels.com

ようこそ！

エクセルシオール・ホテル・エルンスト

Excelsior Hotel Ernst

ケルン大聖堂の正面に構えるエクセルシオール・ホテル・エルンスト。時代を超えたエレガンスと洗練された雰囲気を味わいに世界からお客様が来泊されます。1863年、宮廷専属の建築修復士カール・エルンストによって建てられたエクセルシオール・ホテル・エルンストは、今日でもラインラント地方における社交の中心で、伝統を重視しつつ時代のニーズに合った革新を進めています。137の客室とスイートルームは、高貴な家具調度と貴重な骨董品により、個性的な魅力ある色調となっています。インターネットおよびミニバーは無料でご利用いただけます。その他、サウナやスチームバス、フィットネスエリアでのトレーニングなども快適にご利用いただけます。

グルメの楽しみ

グルメレストランとして度々表彰されているホテルレストラン「ハンザ・シュトゥーベ」は、郷土の味をアレンジした斬新なフレンチ創作料理でケルン市外にも知られています。また、おもてなしの家を意味するミシュラン一つ星の「タク」を率いるのはミルコ・ガウルのチーム。日本、中国、タイ、ベトナムなど東アジアの厳選された料理が集結するタクでは、食のアジア旅行を楽しめます。「ピアノ・バー」は、昼は自家製ケーキとコーヒー・紅茶が楽しめるカフェとして、夜は最高級カクテルを愉しめます。ウィンターガルテンとホテルロビーは静かな雰囲気のラウンジ。こちらではスターパティシエのピエール・エルメによるアフタヌーンティーを楽しめます。甘いお菓子と共に英国伝統のクラシックなアフタヌーンティーでお寛ぎください。

エクセルシオール・ホテル・エルンストで宴会

200人までを収容するエレガントな13の宴会場とビジネススイートは、パーティーやプライベートなイベントに最適です。熟練のスタッフが準備から全て担当いたします。また、ご自宅やオフィス向けにはホテルのケータリングサービスもございます。

理想的なロケーション

ケルンの中心、大聖堂の向かいという絶好のホテルロケーション。中央駅は目の前、オペラ、フィルハーモニー、有名な美術館・博物館はちょっとした散歩の距離で、ショッピング通りもすぐそばです。ホテルには国際的に有名な前衛的ハイコ・カリトヴィッチのフラワーアートがあります。徒歩数分の距離には伝統あるケルシュビールの醸造元ビアホール、バー、カフェが並びます。

Excelsior Hotel Ernst
Domplatz / Trankgasse 1-5, 50667 Köln
Tel: +49 (0) 221 / 270-1
Fax: +49 (0) 221 / 270-3333
info@excelsior-hotel-ernst.de
www.excelsior-hotel-ernst.de

ドイツの絶景

ドイツの絶景は自然と人間が一緒になって創り上げた傑作。険しい岩山に立つ古城、木組みの家のロマン、数百年前の世界にワープできる中世都市、蛇行する大河の畔にブドウ山に囲まれたワインの村、荒々しいアルプスの山々に囲まれた澄んだ湖のほとりにあるチャペル…。フォトジェニックなドイツの文化景観は、旅行者をうならせてくれるはずだ。

© DZT_Florian Trykowski

© DZT e.V._Michael Neumann

水面に映るアーチ橋はまるでおとぎの国の橋

幻想的 ラコッツ橋

① Rakotz Bridge

© Getty_rusm

ポーランド国境に近いクロムラウにあるザクセン州で二番目に大きな公園（ロドデンドロン・パルク）にあるラコッツ湖にかかる橋。玄武岩で造られたラコッツ橋は、水鏡に映ると完全な円形をなし、周囲の自然とともに様々な場所からインスタ映えのする絵が撮れる。公園は小宮殿、騎士館などが立つ19世紀の流行であった英国式庭園。クロムラウから7㎞先のポーランドとの国境をなすナイセ川を挟んで、欧州最大の英国式庭園、景観デザインの傑作である世界遺産のムスカウ公園は見逃せない。

注意：ラコッツ橋は現在修復中。2020年夏頃までに終了予定。

アクセス：ドレスデンから古都バウツェン経由クロムラウまで122㎞。クロムラウからムスカウ公園まで7㎞。帰途、映画の舞台として使われる美しい都市ゲルリッツを観光し滞在するとよい。

クロムラウ・ツツジ公園 Web
ムスカウ公園 Web
ゲルリッツ Web
バウツェン Web

© DZT e.V._Francesco Carovillano

古城がそびえるロマンチックな
モーゼル・ワインの町

コッヘム

❷ Cochem

円錐形の山頂に絵にかいたような中世の古城が聳え、急峻な斜面にブドウ畑が広がり、河畔にはモーゼル・スレート瓦屋根の木組みの家が並ぶ。旧市街の中心は、18世紀のバロック様式の立派な市庁舎と4、5階建てのカラフルな木組みの家並み、マルティン噴水が創る明るいアンサンブルのマルクト広場。広場から曲がりくねった坂は文化センターとなっている僧院跡に至る。帝国城へはトゥメルヒェン呼ばれる見晴らし台を経て坂を上る。千年の歴史を持つ帝国城は19世紀に再建され、城内ガイドツアーがある。コッヘムの楽しみは、旧市街と河畔プロムナード散策、モーゼル川遊覧船、白ブドウ酒の王、リースリング種が特産のモーゼル・ワインの試飲。蛇行するモーゼル川と城の絶景はいくつもある展望台から収めることができる。

アクセス：コブレンツから55㎞、エルツ城から20㎞。

コッヘム Web
コッヘム城 Web
モーゼル・ワイン Web
モーゼル・スレート Web

白と黒のモノトーンの木組みの家の町

フロイデンベルク

❸ Freudenberg

黒い木組み柱に白壁、屋根は破風切妻で黒いスレート葺き。このような木組みの家が歴史的旧市街に行儀よく整列し、他では見られないモノトーンの全景を近くのクア公園からカメラで収めることができる。町の中心から階段状の道をクア公園に登ると、足下に17世紀に建てられた約80軒の木組みの家の景観が広がる。旧市街に下りて木組みの家が立ち並ぶ石畳の小路にも多数の発見がある。食事や休憩のレストランやカフェも十分揃っている。

アクセス：アウトバーンA45号線の出入り口から5㎞と便利で、ケルンから85㎞、フランクフルトから145㎞。

フロイデンベルク Web

中世ロマンへのオマージュ、これぞメルヘンの城

リヒテンシュタイン城

❹ Schloss Lichtenstein

シュベービッシュ・アルプ山地の海抜817mの断崖絶壁の岩山に聳えるメルヘンの城と呼ばれるリヒテンシュタイン城は、ロマン主義の時代にヴィルヘルム・ハウフの小説リヒテンシュタインに感銘を受けたヴュルテンベルク伯により1842年にネオゴシック様式でかつての騎士城跡に築かれた。中世のロマンを具現化した城である。1、2月とクリスマスを除き毎日オープン。唯一、狭い木のつり橋を渡って城に入る。城内ガイドツアーで華麗な騎士の間、王の部屋など見学できる（所要30分、8€）。

アクセス：シュトウットガルトの真南60㎞。城の駐車場から徒歩10分。天空の城ホーエンツォーレルンはここより西42㎞にあり、二つの名城を巡ることができる。

リヒテンシュタイン城 Web
ホーエンツォーレルン城 Web

© Schwäbischen Alb Tourismus_Ralph Lueger

850年余り一族により守り続けられてきた美城

エルツ城

⑤ Burg Eltz

モーゼル川支流のエルツバッハ渓谷の森の中に三方を川に囲まれ、突出する自然要塞の岩山の上に美しい雄姿を見せるエルツ城。ユーロ導入前の500マルク紙幣の図柄になったことことからも有数の美城であることが分かる。12世紀にエルツ家により築城され、今まで33代にわたり同族が所有管理し、外敵による戦禍を一切受けていない珍しい城だ。建物はロマネスク以後の異なる様式が見られ、高いものでは40mにもなる異なる高さの住居塔が聳え、出窓、屋根、木組み壁、尖塔のアンサンブルが見事である。城内見学は中庭から見る建物群、騎士の間、武具展示、財宝展示、ルカス・クラナッハ絵画など見応えがある。

見学：開館：夏季毎日9：30〜17：30
ガイドツアー（2020年4月1日、再オープン）：所要40分／10〜15分間隔／英、仏、蘭語ツアー（日本語小冊子あり）
入場料：10€。

アクセス：コブレンツから35km、コッヘムから30km。城はモーゼル川沿いに立っているのではなく、河畔の村モーゼルケルンやハッツェンポルトから道路距離12km入った渓谷にある。公共交通／バス駐車場／ハイキング／レストラン等詳細はエルツ城URL参照。

エルツ城 Web
エルツ城 Web

© DZT_Florian Trykowski

木組みの家並み、石畳の狭い小路…谷間の中世の町

モンシャウ

⑥ Monschau

アイフェル山地国立公園に囲まれベルギーとの国境に広がるホーエス・フェン・アイフェル自然公園（高原湿地の意味）に懐かれた谷間にある静かな中世の町。曲がりくねった狭い石畳の小路に立ち並ぶロマンチックな木組みの家並みが特色。なかでもルール川沿いの家並みは情緒がある。13世紀の堅固な中世の古城と城壁が歴史の古さを語るが、モンシャウは18世紀の後半に織物業で栄え、モンシャウ産は欧州のブランド商品として取引された。裕福な織物業者の住居兼本社であったローテス・ハウスが名所となっている。100年の歴史ある地方名産のマスタード・ミルも見どころ。クリスマスマーケットは各地から人を引き付けている。城（見学なし）は現在ユースホステルとして利用されている。

アクセス：ケルンからアーヘン経由115km。

ホーエス・フェン・アイフェル自然公園 Web
クリスマスマーケット Web
モンシャウ城ユースホステル Web
モンシャウ Web

© DZT e.V._Stijn Van Hulle

低湿地帯自然とスラブ系民族の伝統風習が織りなす
珍しい文化景観

水郷シュプレーヴァルト

⑦ Spreewald

ベルリンから真南へ100kmのところに全長1000kmに及ぶ網の目のような川の水郷が広がり、ユネスコ生物圏保護地区に登録されている。豊かな自然に加えて、ソルブ人が入植していたため独特の伝統風習が色濃く残っていることが魅力である。とくに民族衣装やカラフルな刺繍は有名。地産のキュウリをハーブやワインなどで漬けたピクルスは有名な特産品だ。体験すべきは平底竿船による水郷巡り。いくつも港があるが旧市街を持つアクセスのよいリュッベナウと保養地としても有名なブルクが便利。水郷巡りは２〜３時間あるいは４〜５時間が一般的で、途中で中洲の村に寄り昼食と見学の自由時間がある。ベルリンから多くのエクスカーションバスが出ており、所要時間は７〜８時間。ベルリンとドレスデンの中間に位置し、旅程に組み込むことは容易。

シュプレーヴァルト Web
シュプレーヴァルトのキュウリ Web

© Fotolia_Klaus Heidemann

世界遺産の千年の古都、ドイツ発祥の地

クヴェートリンブルク

⑧ Quedlinburg

2019年に1100年祭を祝ったクヴェートリンブルクには、木組み家屋が立ち並ぶ旧市街と、町を見下ろす城山に聳えるロマネスク様式の教会の2つの世界文化遺産があり、絵になる風景を醸し出している。旧市街には600年間に建てられた1300軒の木組みの家が立ち、木組みの家がもっとも多い町と言われ美しさも際立つ。砂岩の城山から堂々たる城郭建物群が町を見下ろす。1129年に落成した司教座教会聖セヴァルティウスでは内陣、宝物殿、ハインリッヒ一世と妃の墓がある地下聖堂を見学できる（休館：月曜）。向かいのかつて城であった建物は、後に女子養老院として使用された。この地に君臨していたハインリッヒ一世は919年に初代ドイツ皇帝となり、息子のオットー１世は初代神聖ローマ帝国皇帝に選ばれ、クヴェートリンブルクは10〜11世紀に帝国の中心的役を担った。城山向かいのミュンンツベルクからの展望もよい。同じハルツ山地にあるヴェルニゲローデもカラフルな木組みの家並みと城で人気があり、魔女伝説のブロッケン山に登るSL旅行の起点となる。

アクセス：ゴスラーからヴェルニゲローデ経由92㎞、ライプツィヒから128㎞。

クヴェートリンブルク Web
クヴェートリンブルク（日本語） Web

町全体が世界遺産
川中島に立つ市庁舎

バンベルク

⑩ Bamberg

約2400もの文化財建造物がある歴史的都市景観により、旧市街全体が世界遺産に登録されている。戦災を受けておらず、過去の遺産を最もよく残す美しい人口７万5000の活気ある町である。ドナウの支流レグニッツ川の川中島に立つ木組み建築の旧市庁舎は、よくカレンダーにも使用される町のシンボル。神聖ローマ皇帝ハインリッヒ二世は、11世紀にバンベルクに王宮を置き、大聖堂を建立し、司教座都市として繁栄した。内陣では謎の中世の騎士像は中世の傑作とされる彫像、およびティルマン・リーメンシュナイダー作の皇帝ハインリッヒ二世と妃の石棺が見られる。町には領主司教の豪華な新宮殿、テラスからの眺望がよい新宮殿中庭のローズガーデン、司教の住居群、旧市街を眺望できる聖ミヒャエル僧院などが見どころ。小ベニスと異名をとる町は遊覧船からのアングルもよい。この地方には約60の醸造所があり600種のビールを造り、市内には11のビール醸造所があるビールの牙城だ。フランケン料理も美味、世界的バンベルク交響楽団の本拠地でもあり、五感を満足させるデスティネーションである。

アクセス：フランクフルトから215㎞、ミュンヘンからニュルンベルク経由230㎞。

バンベルク Web
バンベルク（英・独） Web

“幸福の城”ドイツ最大の水城

グリュックスブルク

⑨ Glücksburg

森の湖に絵本から抜け出たように立つ白亜のグリュックスブルク“幸福の城”。四隅に八角の塔が立つ一辺30mの正方形のドイツ最大級の水城は、16世紀にルネサンス様式で建てられ、シュレースヴィッヒ・ホルシュタイン伯爵家と一時政庁を置いたデンマーク王家の居城であった。城の名称グリュック“幸福”は公爵家モットーである「神よ、幸福と安寧を与えたまえ」に由来し、門や紋章に刻まれている。北欧の歴史に重要な役割を果たしたこの城は、現在も公爵家財団が維持管理し、見学可能（入場料、開館時間等詳細はWeb参照）。城の名前と優雅な水城の宮殿は結婚式にふさわしく人気があり、映画撮影にも使用される。
海浜保養地の同名の町はデンマークを対岸に見るフィヨルドの湾に面し、ホテルのアルター・マイアーホーファーは、星付きグルメレストランとして知られる。

アクセス：ハンブルク北へ170㎞、フレンスブルクから15㎞。

グリュクスブルク宮殿 Web
スターシェフのグルメレストラン Web

湖と巡礼教会と山のアンサンブル

ベルヒテスガーデンのケーニッヒ湖

Königsee / Berchtesgaden

ドイツ一美しく澄んでいる湖ケーニッヒ湖のほとりに立つ赤い玉ネギ形の塔をもつロマンチックな巡礼教会聖バルトロメー。アルプスの岩山を背景に忘れがたいアンサンブルを創る。ドイツアルプス有数のリゾートのベルヒテスガーデン街中から5㎞郊外のシェーナウがドイツ最古のベルヒテスガーデン国立公園のケーニッヒ湖遊覧船着き場だ。ここから聖バルトロメー巡礼教会まで電動遊覧船でエメラルドグリーンの湖を静寂の中、約40分。途中、停船しトランペットが吹かれ、ヴァッツマン山（2713m）の垂直に切り立つ岩壁にこだまするエコーを聴く。巡礼教会のそばには王の狩の館があり、バイエルン料理のビアレストランとなっている。船は湖奥の終点ザレートまでさらに20分。ここから遊歩道を小さな湖オーバーゼーまで歩くこと20分。風景写真家のメッカである。また、東山魁夷画伯が緑深き湖を描いたところと言われる。
街中から13㎞郊外にある登山家の村ラムザウは、アルプス文化景観が色濃く残る小村。連山を背景に川の畔に立つ聖セバスティアン教会の絵は、だれもがどこかで見たことがある景色である。

ベルヒテスガーデン国立公園 Web
ベルヒテスガーデン Web
ケーニッヒ湖定期船 Web

© Berchtesgadener Land Tourismus_Marika Hildebrandt

2018年＆2019年上半期ツイッターランキング ★ TOP10

ドイツ観光局Twitterのフォロワー数は、在日政府観光局の中で一番を誇ります。
毎日のツイートより2018年と2019年上半期までの最もインプレッション数の多かったTOP10をランキングにしました。
どの投稿が一般消費者の興味を引いたのか、どの投稿記事も旅行企画の際に参考にしていただける統計です。

		インプレッション	リツイート	いいね
1	世界で最も美しい牛乳屋さん twitter	627872	3348	10029
2	ザクセンのイースターエッグ twitter	551748	3559	8081
3	「進撃の巨人」舞台ネルトリンゲン twitter	339552	1990	3847
4	ドイツ風餃子マウルタッシェンの秘密 twitter	288559	1316	2833
5	雪化粧に映えるドイツ観光スポット twitter	250975	1084	3369
6	神秘の泉「ブラウトプフ」 twitter	238174	1089	3633
7	ピクルス産地 水郷シュプレーヴァルト twitter	197363	846	2804
8	10年に一度のイベント「キリスト受難劇」 twitter	192323	944	1549
9	「世界で最も素晴らしい橋12選」ラコッツ橋 twitter	187313	1234	3329
10	モーゼル河畔のメルヘン城ライヒスブルク twitter	168570	542	2097

© Getty Images_RomoloTavani

環境の国ドイツ
サステイナブルな体験

地球温暖化に対する懸念と関心が高まり、あらゆる面において持続可能性が問われている。ドイツの観光業は環境に優しいツーリズムに取り組み、ドイツ観光局は持続可能性を体験できるプログラムを紹介している。本号ではとくにエネルギー効率と再生可能エネルギー分野で持続可能性を追求実践する地方自治体の視察可能な事例を紹介する。サステイナブルな宿泊や交通インフラ、自然環境などホームページを参照。 Web

サステイナブルな学園都市

ハイデルベルク Heidelberg

環境の分野で世界の先端を走るハイデルベルクはすでに２度欧州サステイナビリティ賞を受賞し、2015年には国連本部でグローバル・グリーンシティ・アワードに輝いた。なかでも新市街地バーンシュタット計画は、住居・学術研究・商工業・仕事・レジャーを統合して116haのサステイナブルシティを構築するもので、この再開発地区は世界最大のパッシブハウス居住地として知られている。電気と熱供給は100%再生可能エネルギーで賄うゼロ・エミッション居住地である。本プロジェクトは2022年まで続く。
ハイデルベルク観光局は、企業、大学、研究所、市と連携し様々な視察と専門レクチャーをアレンジする。
視察テーマ：気候とエネルギー（再生可能エネルギー、エネルギーと環境クラスターマネジメント、エネルギー効率）、環境マネジメント（環境マネジメントシステムの構築と実施、大企業サステイナビリティ）、環境政策（環境気候保全サイエンス・リサーチセンターとしてのハイデルベルク、国際ネットワークにおける環境気候保全政策、青少年と子供の環境意識促進）、サステイナビリティ（ハイデルベルクの持続可能経済、ハイデルベルクのエネルギー効率建築とパッシブハウス）。その他の問い合わせも歓迎。
連絡先
EMAIL sekretariat@heidelberg-marketing.de

バーンシュタット動画 Web
ハイデルベルク Web
ハイデルベルクTV視察 Web

グリーン・インダストリー・パーク

フライブルク Freiburg

© DZT_Francesco Carovillano

2050年までに気候ニュートラル達成を目標に掲げる環境都市フライブルクは、その鍵となる商工業と相互協力して2014年から革新的プロジェクトのグリーン・インダストリー・パークを北部工業地区で推進している。12の企業と組織がエネルギーと資源の効率化を目指しグリーンパイロット・プロジェクトに取り組む。
企業例：フラウンホーファー研究所（ソーラー研究）、レテラ（バイオガスプラント）、TDKミクロナス（コージェネプラント効率）、ファイザー（エネルギーマネジメント）、ローディア・アセトウ（廃熱利用）、メッセ・フライブルク（ソーラー設備）、イケア（電気自動車無料利用）など。
レクチャーとガイド付TV可能。
フライブルク市観光局のホームページにあるグリーンシティの章では、上記工業団地を含む28の事例を紹介している。
グリーン・インダストリー・パーク連絡先：
Wirtschaft Touristik und Messe GmbH & Co.KG
EMAIL greencity-cluster@fwtm.de

グリーンシティ・フライブルク Web
フライブルク Web
グリーン・インダストリー・パーク Web

持続可能な町、大都市部門で一位

ミュンスター Münster

ミュンスター市はQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の満足度が高い町であるだけではなく、持続可能な地方自治体のパイオニアとしても非常に高い評価を得ている。自転車政策が浸透している町として知られ、人口31万2000人に対し自転車は50万台以上あり、2019年度ドイツ・サステイナビリティ・コンテストの大都市部門で１位に選ばれた。“孫の代まで持続可能”をスローガンに、市の政策は未来の持続性に配慮して決定されるプロセスが評価された。環境に優しい自転車の普及とそのインフラをはじめ、環境政策ではすでに欧州エネルギー金賞を何度も受賞している環境都市である。
観光においてドイツ歴史古都に属すミュンスターは、美しい都市景観、とくに旧市街のハンザ同盟時代の建物が並ぶプリンツィパルマルクト、ウェストファリア条約が結ばれた市庁舎、郊外の水城、さらに10年毎に開催されるミュンスター彫刻プロジェクト（次回2027年）などにおいて、観光価値の高いデスティネーションである。

ミュンスター Web
自転車の町ミュンスター Web
もっとも住みやすい町ミュンスター Web
ドイツ・サステイナビリティ賞 Web

黒い森のバイオエネルギー村

ブライトナウ Breitnau

黒い森の観光と農業が主産業の人口1800人弱／750世帯のブライトナウは、バイオエネルギーの村のひとつである。バイオエネルギー村とは、村の電力と熱の需要の５割以上を再生可能エネルギーで自給し、かつ地元の燃料を使用し、設備の一部を熱利用者や農家が所有する。ブライトナウは2011年にエネルギー組合を創設し、現在、電力は需要の270%、熱は68%を生産している模範的なバイオエネルギー村である。中央設備はバイオメタンを燃料とする熱電併給プラント1基とバイオマスのボイラーから成る。環境首都として有名なフライブルクからは31㎞の距離で、黒い森の景勝地ティティゼーに通じる連邦道路の途中、ヘレンタール(通称地獄谷)にある。最近話題を呼んでいるロマンチックなラヴェンナ峡谷のクリスマスマーケット、そのすぐそばにはマリー・アントワネットがパリに行く途中宿泊した由緒ある黒い森スタイルのホテル「ホーフグート・シュテルネン」がある。このホテルは地球温暖化対策に力を入れ、自前のエネルギー設備を有し、電気と熱エネルギーをすべて再生可能エネルギーで賄うなど、環境に配慮した取り組みを行っている。こうした宿泊施設はドイツでも例は少なく、ホテルは見学に応じている。

ブライトナウ Web
ホテル・ホーフグート・シュテルネン Web

バイオエネルギーの村

エッフェルター Effelter

バンベルクの北東77㎞にある人口280人の小村エッフェルターは、バイオエネルギーの村として知られる。バイオガス設備と屋根ソーラーシステムで電気と熱をすべて再生可能エネルギーで自給することを目指し、2002年から取り組んでいる。現在は需要の300%のエネルギーを得ている。こうした経験とノウハウを公開し、見学受け入れを積極的に行っている。所要時間3時間で、パワーポイント解説、バイオマス設備と熱ボイラー設備見学が可能。(150€/グループ)
近くには欧州王室のゆりかごと呼ばれたコーブルクやルカス・クラナッハ、美しい街並みの小都市クローナッハがあり、視察に加える観光地としておすすめ。
EMAIL info@bioenergiedorf-effelter.de

エッフェルター Web

エネルギー自立の村

フェルトハイム Feldheim

ブランデンブルク州にある人口約150人の小村フェルトハイムは、エネルギー完全自立の村として知られている。約１万枚のソーラーモジュールと55基の風車、バイオマス設備と木材チップボイラーで、村と村民出資の企業が電力と熱を生産。制御用蓄電設備を配し、自前の送電と熱グリッドを通じて直接に家庭、農家、企業に供給。
視察プログラム：約30分のプレゼンとレクチャー。問い合わせは下記URLを参照。
アクセス：ベルリンの南西78㎞。
EMAIL info@neue-energien-forum-feldheim.de

フェルトハイム Web

自家用車のない島

ユイスト島 Juist

北海に浮かぶ東フリージアン諸島の休暇の島ユイスト島は、車のない気候ニュートラルな島として知られる。本土沖合7㎞、島の長さ17㎞、幅最高1km、人口1700人の島での移動手段は馬車や自転車。自動車は消防と救急車だけである。2030年に向け温室効果ガス排出ゼロを目標に対策を進め、2014年と2017年に持続可能観光地域連邦賞に輝いた。実施されている気候変動対策は多岐にわたり参考になる。島はニーダーザクセン州ワッデン海国立公園、ユネスコ世界遺産の中にあり、ワッデン干潟ハイキングは忘れがたい自然体験となる（ガイド付き）。ここは毎年200万羽の渡り鳥が訪れるバードアイランドでもある。休暇で訪れる子供向けに環境大学が開催される。また、カーボンニュートラルなドイツ初の観光案内所があり、プラスチック対策等様々な取り組みを実施している。

アクセス：ノルトダイヒ・モーレ駅（ブレーメンより鉄道2時間20分、道路距離167㎞）に隣接する桟橋からフェリーで60分。1日1～2本。

ユイスト島 Web
世界遺産ワッデン海 Web
ユイスト島URL Web

ファッション発信の町

ベルリン Berlin

世界の若者を魅了するベルリンは、ファッションとデザインにおいて世界のトレンドを発信する町。とくにカジュアルなストリートファッション、オリジナルなデザイン、アップサイクリング、循環型ファッションの店が多数ある。
グリーン・ファッション・ツアーズはサステイナブル・ファッションに関するツアーをオーガナイズする。アップサイクリング、フェアプロダクション、新素材などのイノベーション、サステイナブルな消費行動等をレギュラーツアーで、あるいは要望に沿ったテーマのグループパッケージで組織している。たとえばアップサイクリングではテキスタイルの分別センター、アップサイクリング・デザイナーとアトリエ、コンセプトストア、スタートアップ店などをガイドとともにめぐる。

ベルリン Web
グリーン・ファッション・ツアーズ Web
ベルリンのファッションとデザイン Web
ベルリンのショッピング街 Web

ドイツ旅行のご計画は ルフトハンザ ドイツ航空で！

ルフトハンザは東京（羽田）、大阪、名古屋からフランクフルトとミュンヘンの２つの拠点空港を経由してドイツ国内の各都市へフライトを運航しています。日本国内の多くの空港からもANAが運航する共同運航便がご利用いただけます。

ファーストクラス

羽田発着路線では贅を尽くした空の旅をご体験されたいお客さまにファーストクラスをご提供しています。お客様ひとりひとりのご要望に最大限に沿ったサービスをご提供します。

ビジネスクラス

全長２mの完全に水平なベッドになるシートで、長いフライト時間も快適にお過ごしいただけます。お客様の個別のご要望にお応えできるよう、飛行中は、専属で担当する客室乗務員がサービスをします。

プレミアムエコノミークラス

エコノミークラスに比べて、シート周りのスペースが最大で50%アップ。ウェルカムドリンクやアメニティキットなど、プラスアルファを求めるお客さまのご要望にお応えします。

エコノミークラス

全席にオンディマンドの個人用エンターテイメントを装備し、機内食やアルコールを含むドリンク類もすべて無料でご提供します。

FlyNet®

インターネットサービス、FlyNet®のご利用で、長距離フライトでの時間を最大限活用することができます。インターネット接続のご利用にはドイツテレコムから３種類の料金プランをご用意しています。お仕事でもプライベートでも、機内のインターネットを是非ご利用ください。

ラウンジ

フランクフルトとミュンヘンおよびドイツ国内の各空港ではご利用のクラスとお持ちのマイレージカードのステータスに応じて、ご出発時やお乗り継ぎ時にラウンジをご利用いただけます。

受託手荷物

日本路線ではファーストクラスは32kg以内のお荷物を3個、ビジネスクラスでは32kg以内のお荷物を2個、プレミアムエコノミークラスとエコノミークラスでは23kg以内のお荷物を2個まで無料でお預かりします。

lufthansa.com

A STAR ALLIANCE MEMBER ™ | Lufthansa

【ヨーロッパの鉄道商品取り扱いNo.1！】

レイルヨーロッパは、フランス国鉄とスイス国鉄の資本により設立された公的法人です。本社以外にも日本を含む世界の主要９カ国に事務所を設置し、各国言語や通貨に対応。日本でのビジネス展開は20年以上にも及びます。また、取扱商品数は業界トップで世界最大の販売流通網を有しています。

ドイツを自由気ままに旅したい方におすすめ
【ジャーマンレイルパス】

高速列車ICEなどドイツ鉄道(DB)で利用できる鉄道パス。ICEは座席指定が任意の高速列車なので、パスのみで乗車可能です。

＜種類＞

- ３日、４日、５日、７日、10日、15日（連続タイプ、フレキシータイプ（有効期間1ヶ月））
- １等、２等／大人、ツイン（2名用）、ユース（12～27歳）
- 大人１人につき子供２人が無料に

＜特典＞＊次ページ地図参照

- ドイツ以外の近隣国（イタリア、ベルギー、チェコ、ポーランド、ルクセンブルク、オーストリア、オランダなど）の25都市以上へも列車やバスでアクセス可能

①ライン川、モーゼル川クルーズが20%割引
②コンスタンツ湖の汽船が50%割引
③バイエルン・ツークシュピッツェ鉄道が10%割引
④ロマンチック街道を走るバスが20%割引
⑤～⑧アウトレットで10%割引や送迎バスが無料
⑨ベルリンのホップオン・ホップオフバスが20%割引、定期運航船が25%割引
⑩ハンブルクのホップオン・ホップオフバスが割引料金（16€に）

- A&Oホテル・ホステルの宿泊代も割引に
- Historic Highlights of Germany（地図上の塔のマーク）の都市でシティカードが無料（または割引）、ガイドブックプレゼントやガイドツアーの割引

ドイツを含めたヨーロッパ周遊旅には
【ユーレイルグローバルパス】

ヨーロッパ32カ国で自由に乗り降りできる鉄道の旅とボーナス特典を提供

＜種類＞

- 連続タイプ：15日、22日、１ヶ月、２ヶ月、３ヶ月／フレキシータイプ：４日、５日、７日（有効期間１ヶ月）または10日、15日（有効期間２ヶ月）
- １等、２等／大人、ユース（12～28歳）、シニア（60歳以上）
- 大人１人につき子供２人が無料に

＜特典＞

- ベルギー、ルクセンブルク、チェコ、スイスなどへアクセス可能なICバスの利用（別途座席指定が必要）
- ドイツ国内50以上の街で使えるレンタル自転車が20%割引で利用可能
- ロマンチック街道を走るバスが20%割引
- フランクフルトとミュンヘン郊外にあるアウトレットまでのエクスプレスバスが無料で乗車可能
- ドイツとスウェーデン、フィンランドを結ぶフェリー（Finnlines）が50%割引、さらにラトビア、スウェーデンを結ぶフェリー（Stena Line）は30%割引
- 各種アパート型ホテルやユースホステルも割引
- ベルリン、ニュルンベルク、デュッセルドルフ、フランクフルト、シュトゥットガルトのシティカード購入が割引
- その他、ショッピングやアクティビティが各種割引に

【ICEのアクセス網】

最高時速320kmで走行するICEはドイツを旅するうえで、最速かつ快適な選択肢です。

ICEはドイツ国内の主要都市のほとんどを１～２時間間隔で結んでおり、一部の列車はフランス、スイス、オーストリア、ベルギー、オランダ、デンマークにも乗り入れています。

- 食堂車またはバー車両を連結
- １等フレキシーチケット所持者は主要駅に併設されたDBラウンジを利用可能
- 一部ルートでは最新車両ICE4を導入。さらに快適で安全な旅を実現

【ICの車内設備リニューアル】

ドイツ鉄道はドイツの都市間を結ぶIC（InterCity：インターシティ）で2021年末までに全車内Wi-fiの無料化、座席とトイレのリニューアルを行います。また車椅子スペースなどの拡充、子供向け・家族向けのスペースのデザインも新装する予定です。

【新線情報】

＜ベルリン－ウィーンの直通ICE＞

2019年よりベルリンとウィーンを直通するICEが運行開始

- ICE93　ベルリン（10:05）発 → ウィーン（17:45）着
- ICE92　ウィーン（10:15）発 → ベルリン（17:58）着

＜ナイトジェットの新ルート＞

ドイツを含めた国際夜行列車ナイトジェットでドイツ～ポーランド～オーストリア、ハンガリーを結ぶルートが2019年から加わりました。

- ベルリン～ヴロツワフ～ウィーン
- ベルリン～ヴロツワフ～ブダペスト
- ベルリン～クラクフ～プジェミシル

＜フランクフルト～チューリヒ～ミラノ線＞

2020年に開通予定。推定所要時間は３時間40分。

【エクストラネット】

ドイツを含めた各国の鉄道商品の情報を日本語で掲載。
オンラインでいつでも閲覧可能
http://raileurope.jp/agent/travel-agents/application-form/（登録無料）

【レイルエキスパート】

ヨーロッパ鉄道旅行商品販売のプロを育成ためのインターネットを活用したEラーニングプログラム（全12週）
合格特典（一部）：認定証＆資格証カードを授与、欧州研修旅行に優先招待、合格者交流イベントに招待
http://raileurope.jp/expert/

※情報は2019年7月時点のものです。予告なく変更になる可能性があります。

RAIL EUROPE
Inspiring connections

ジャーマンレイルパスやその他の乗車券などのご購入はこちら　https://raileurope.jp/agent/travel-agents/

ジェネラル インフォメーション

国の概要
16の州区分（州と都市州を含む）から構成されている。

総面積
35万7340km²

隣接国
ドイツはヨーロッパの中央に位置し、隣接国はフランス、スイス、オーストリア、チェコ、ポーランド、デンマーク、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクの９カ国。

最高峰
ツークシュピッツェ（標高：2962m）

主要河川
ライン川（865km）、エルベ川（700km）、ドナウ川（686km）

総人口
8110万人。EU加盟国で最も人口が多い。そのうち、1640万人が移住を背景とした人々。2019年現在、米国に次いでドイツは世界２位の人気移民受け入れ国。

大都市
ベルリン（人口:350万人）、ハンブルク（180万人）、ミュンヘン（143万人）、ケルン（105万人）、フランクフルト・アム・マイン（72万人）

地勢
北海やバルト海から南のアルプスまで南北に広がるドイツの地勢は、北部低地、中部山地、上部ライン低地を囲むように広がる南西ドイツの中部山地の梯形地帯、南ドイツのアルプス山麓地帯、バイエルンのアルプス山脈に分けられる。北部には延べ約2400kmの海岸線がある。南北最長距離は876km、東西は640km。

宗教
約4700万人がキリスト教を信仰し、その割合はカトリックとプロテスタントがほぼ半数ずつ。イスラム教徒は推定約400万人、基本法は思想と良心と信仰の自由を保障している。国教会はない。

国の体制
1949年より議会制民主主義の連邦国家

首都
ベルリン（人口：350万人）

国旗
黒・赤・金の横三色旗

国の紋章
様式化された鷲

公用語
ドイツ語。１億人がドイツ語を母語とし、EUで最も多くの人が母語とする言語である。戦後世代には英語もよく通用する。

気候
ドイツの気候は温和。5〜10月は比較的よい天気に恵まれる。平均気温は夏場は20〜30℃。冬は0℃前後。朝夕に気温が下がるので、夏でもセーターを1枚持参するのがよい。梅雨はなく6月はカラッと快晴が続く隠れたベストシーズン。

時差
日本との時差はサマータイム（3月最終日曜〜10月最終日曜）期間中７時間。ウインタータイム中（10月最終日曜〜翌年3月最終日曜）は８時間差。

通貨・付加価値税・キャッシング・免税払い戻し
ドイツはユーロ圏に属する。１ユーロ＝100セント。
両替は主要国際空港や国際列車発着駅にある両替専用銀行Reisebankにて可能。大都市では時折、市内に両替商を見かけるが、一般的でない。市内の一般銀行では、ユーロ導入以降、外国通貨の両替をしなくなったので注意。クレジットカードが広く普及しているので、便利。ただキオスク・Aldiなどの格安スーパー・屋台など小口現金が必要なことも多いので、多少現金は必要。クレジットカードによるキャッシングは、すべての銀行ATMにて24時間可能。ちょっとした現金が必要な時に便利。付加価値税は、19%（ただし食品は７%）。ドイツでは値段の表示は、基本的に内税表記。付加価値税還付は、対象品を購入するお店で所定の還付用の用紙を作成してもらい、ドイツ出発時に利用する国際空港にある特別窓口（Tax Refundの文字が目印）で換金できる。

ビザ（査証）
90日以内の滞在にはビザ不要。パスポートの残存期間は、シェンゲン条約により最終的に出国する日より3カ月以上必要。
ワーキングホリデーやその他のビザに関する問い合わせはドイツ大使館領事部（TEL 03-5791-7700）または大阪神戸・ドイツ総領事館（TEL 06-6440-5070）へ。

商店の営業時間
日曜・祝祭日を除く毎日、９〜20時（営業可能な時間）。店によって営業時間は変わる。

学校休暇
ドイツは連邦州ごとに学校休暇が定められている。夏休み、秋休み、クリスマス休暇、冬休み、復活祭休暇、聖霊降臨祭休暇などがあり、州ごとに異なる日程になっていることが多い。詳しくは以下のサイトを参照。Web https://www.holidays-info.com/germany/school-holidays/

バリアフリー
ドイツは、体の不自由な人でも旅行が楽しめるインフラが整い、多くの観光地がバリアフリー旅行情報を提供している。詳しくは以下のサイトを参照。
Web www.germany.travel/tourismforall

メトラッハ ザーレ川の絶景

ETIAS（欧州渡航情報認証制度）
2021年1月よりETIAS（欧州渡航情報認証制度）導入が予定されており、日本人も渡航前の認証手続きが必要となります。欧州渡航情報認証制度ETIAS（エティアス）とは、日本を含むビザが免除されている国籍者が、シェンゲン協定国（ドイツ、イタリア、フランスなど）ヨーロッパ内26ヶ国にビザを取得せず訪問する際に必須となる事前電子認証システムです。
Web http://etias-euvisa.com/

祝祭日

祝日名（地域限定祝祭日の適応州）	2020年	2021年	2022年
新年 Neujahr	1/1	1/1	1/1
三王来朝 Heilige drei Könige (BW、BY、STのみ)	1/6	1/6	1/6
聖金曜日 Karfreitag	4/10	4/2	4/15
復活祭 Ostern（日曜日）	4/12	4/4	4/17
復活祭月曜日 Osternmontag	4/13	4/5	4/18
メーデー Tag der Arbeit	5/1	5/1	5/1
キリスト昇天祭 Christi Himmelfahrt	5/21	5/13	5/26
聖霊降臨祭 Pfingsten（日曜日）	5/31	5/23	6/5
聖霊降臨祭 Pfingstenmontag（月曜日）	6/1	5/24	6/6
聖体節 Fronleichnam (BW、BY、HE、NRW、RP、SL各州)	6/11	6/3	6/16
マリア昇天祭 Maria Himmelfahrt (BY、SL州のみ)	8/15	8/15	8/15
ドイツ統一の日 Tag der Deutschen Einheit	10/3	10/3	10/3
宗教改革記念日 Reformationstag (BB、HB、HH、MV、NI、SN、ST、SH、TH)	10/31	10/31	10/31
万聖節 Allerheiligen (BW、BY、NRW、RP、SL州のみ)	11/1	11/1	11/1
贖罪の日 Bus-und Bettag (SN州のみ)	11/18	11/17	11/16
クリスマス 1.&2.Weihnachtstag	12/25	12/25	12/25
	12/26	12/26	12/26

ドイツに関する情報収集に役立つホームページ

ドイツ観光局
Web www.germany.travel

ドイツ大使館
Web www.japan.diplo.de

ドイツの実情
Web www.tatsachen-ueber-deutschland.de/ja
ドイツ政府がまとめたドイツの政治から文化に至るまであらゆる分野のハンドブック

YOUNG GERMANY
Web www.young-germany.jp
ドイツ大使館監修、ドイツ発ライフスタイルガイド

ドイツ文化センター（Goethe Institut）
Web www.goethe.de
ドイツ語学習や日本国内でのドイツ文化行事の紹介

ドイツ商工会議所
Web japan.ahk.de/jp/

日独協会
Web www.jdg.or.jp

Wines of Germany
Web www.winesofgermany.jp/

BW：バーデン・ヴュルテンベルク州
NRW：ノルトライン・ヴェストファーレン州
RP：ラインラント・プファルツ州
BB：ブランデンブルク州
HB：ブレーメン州
HH：ハンブルク州
SH：シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン州
MV：メクレンブルク・フォアポメルン州
NI：ニーダーザクセン州
BY：バイエルン州
BE：ベルリン州
SL：ザールラント州
SN：ザクセン州
ST：ザクセン・アンハルト州
HE：ヘッセン州
TH：テューリンゲン州

旅行業界・メディア向けオンラインサービス

ドイツ観光局日本語ホームページ
Web www.germany.travel

ドイツ観光局公式ツイッター
Web @GermanyTravelJP

ドイツ観光局日本事務所の公式アカウントです。まるでグリム童話の世界のような美しい城や街、花咲く風景などの心安らぐ観光風景だけを毎日紹介していきます。旅行券が当たるキャンペーンも随時実施中。

月刊メールニュース「German Travel News」

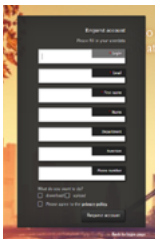
旅行業メディア向けに毎月無料で配信しているメールニュース。即効性のある旅の素材情報から、セミナー＆ワークショップのお知らせなどを配信。ご希望の方は、ドイツ観光局までメールで問い合わせを。
EMAIL office-japan@germany.travel
消費者向けの月刊メルマガ「ドイツ旅メール」も自動的に配信。こちらのメルマガでは、素敵なプレゼントの抽選も頻繁にあるので、要チェック。

ドイツ観光局 オンライン画像データバンク

ドイツ観光局では、旅行業界、メディア関係者に無料で写真および動画を提供するオンライン画像データバンクをご用意しております。
2018年1月よりデータバンクが新しくなり、今までご登録いただいていた方々も、再度ご登録が必要となりました。
ここでは、登録方法と利用方法をご案内いたします。

＜登録方法＞ https://dam.germany.travel/ にアクセス

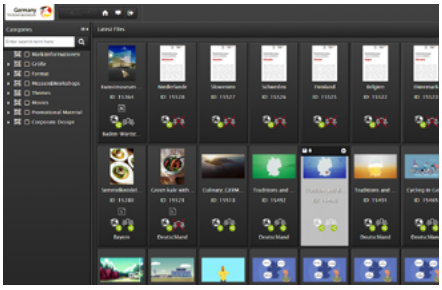
1. Request accountをクリック。
2. IDを決め、メールアドレス、氏名、会社名、部署、電話番号を入力し、下部にある利用したいサービスを選んで、利用条件を確認し承認したうえでリクエストを送信。



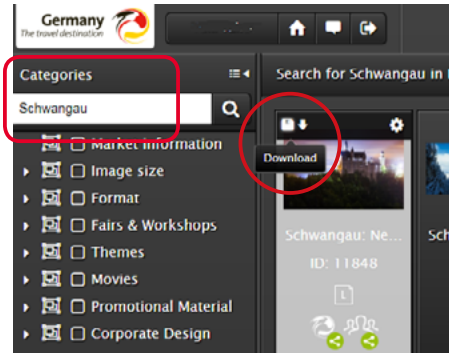
3. 後日登録したメールアドレスに、パスワード設定のメールが届くので、そこにあるリンクをクリックし、パスワード設定。

＜ダウンロード方法＞ https://dam.germany.travel/ にアクセス

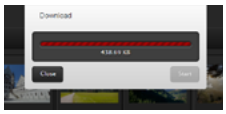
1. 登録したIDとパスワードでログイン。
2. 最新の画像が出てきます。



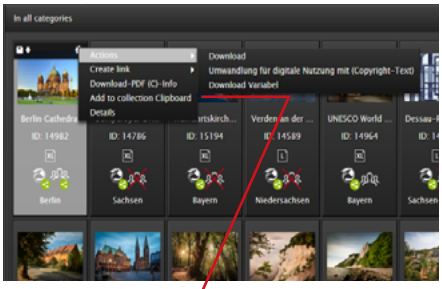
3. 左上のCategorieより、探している画像の名前（都市名など）を入力。使用目的に合う希望の写真を選び、その写真に付属する「フロッピー」のアイコンをクリックし、スタートをクリック。



ZIPファイルがダウンロードされ、そのファイルを開くと、写真、使用条件(英、独、仏)、写真のデータ(英、独)が入っています。この場合は、写真下に書かれている大きさ(例の場合はＬ)でダウンロードされます。

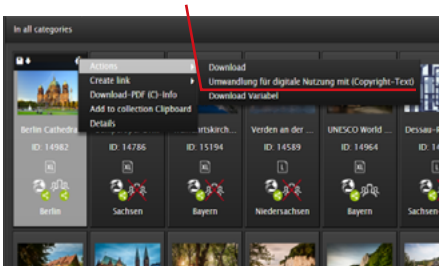


4. 画像の大きさを選択したい場合は、右の設定マークをクリック。



Actionより
Download Variable
をクリック。
解像度や画像のフォーマットなどを選択してダウンロードが可能。

また、Umwandlung für digitale Nutzung mit（Copyright-Text）を選ぶと、コピーライト入りの画像のダウンロードが可。



ドイツ観光局のみ利用可能。旅行会社、マスコミなどは使用できません。

旅行会社、マスコミなどの利用可能。ただしソーシャルメディアでの利用は不可。

DZT（ドイツ観光局）は、画像データを会員やパートナーや旅行業界の行為者に提供することができます。会員やパートナーや旅行業界の行為者は、画像データを自前のオフラインおよびオンラインメディアや自らの広報活動やDZTに関する報道記事、あるいは「観光の国ドイツ」にちなんだ報道内容や観光関連の目録に使用することができます。ただし、DZTと無関係のソーシャルメディアプラットフォームは、除外されます。画像データをポスターやマーケティングツールや観光関連書籍やカレンダーに使用することは一切認められておらず、こういう用途に対してはその都度、問い合わせが必要となります。

旅行会社、マスコミなどの利用可能。ソーシャルメディアでの利用も可能。

DZT(ドイツ観光局)およびDZTの会員やパートナーは、画像データをマーケティング活動の範囲内でソーシャルメディアプラットフォームでも使用することができます。

画像利用の注意：

データバングの画像は、常に更新されます。一度ご利用いただいた画像が次に利用する際には、版権期限が過ぎていることがあり、２次使用は不可といたします。ご面倒をおかけしますが、画像はたとえ以前使用したことのあるモチーフを再利用する場合にも、その都度データバンクよりダウンロードいただきますようお願い申し上げます。

コピーライト表記の注意：

以下の優先順位でコピーライトを明記すること。
© GNTB / photographer's name
フォトグラファー名が不明の場合、
© GNTB / owner'nameとしてください。
印刷物ではコピーライトを巻末にまとめて紹介するスタイルも可能。ただしウェブやDVD映像などでは、写真と同じ場所にコピーライトの明記が必要になります。写真データのみがダウンロードされます。Photographerないしは Ownerの名称は、データバンクにて再確認してください。300dpiの場合のみ版権情報を含んでデータがダウンロードされます。

主要都市間の距離とドライビングタイム

Markttrend / Salesguide 2020/21

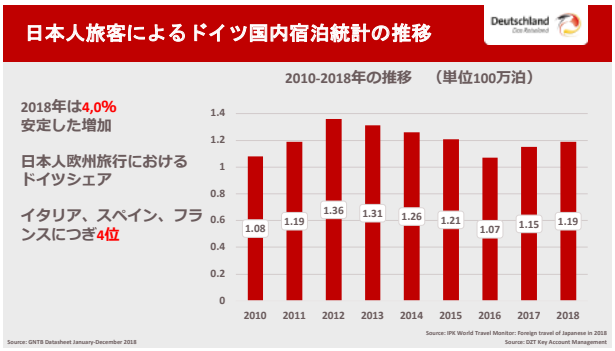
ドイツ旅行商品のトレンド

ドイツ観光局は、長年ドイツ観光のマーケットリサーチを行っているドイツIPK International社が2018年に実施した最新の市場分析や日本国内で別途実施したオンライン市場調査を基に、日本市場における今後のドイツ観光プロモーションの方針を発表した。このページでは、日本におけるドイツ旅行商品の現状分析と今後の戦略について簡単に触れる。

1. ドイツ観光統計

欧州の政府観光局の最も重要なKPIは、外国人旅客によるホテル宿泊数(overnight)であり、入国人数はカウントしていない。したがって観光プロモーションにおいて、ドイツ各地の観光サプライヤー、特に都市や地方のDMOがセールスを行う場合、宿泊を伴うようなツアー造成を唯一の目標にしていることが多い。せっかくPRをしても、日帰りデスティネーションとして扱われたり、ホテル料金が安いという理由で隣町や同じ地域の違う町に宿泊地が設定されることは、彼らにとっては一番避けなければならない事態である。

過去10年間の日本人旅客によるドイツ国内の年間宿泊数の推移



UNWTOによると国境を越える旅客数は、世界各地で散発する紛争、テロ、疫病、天災等の障害が頻発しているにもかかわらず、常に増え続けており、観光業は世界経済を牽引する成長産業のひとつになっている。ドイツの外国人インバウンドも、2010年以降毎年歴代記録を更新し続けており、2018年は2010年比で45%増加している。その間、日本は若干の増減を繰り返しているものの、110万から120万泊程度の水準で停滞しており、マーケットシェアも2010年が1.8%、2018年は1.5%と低水準に留まっている。

なお、ドイツインカミングの75%は欧州域内で、アメリカ大陸とアジアがそれぞれ10〜11%程度になっている。

2018年ホテル宿泊数による上位20カ国

順位	町	宿泊数
1	オランダ	11,382,838
2	スイス	6,929,205
3	アメリカ	6,688,571
4	イギリス	5,851,648
5	オーストリア	4,203,592
6	イタリア	3,958,594
7	フランス	3,678,492
8	デンマーク	3,312,905
9	ポーランド	3,289,250
10	ベルギー	3,123,657
11	スペイン	3,028,808
12	中国	3,019,857
13	ロシア	1,895,688
14	アラブ諸国	1,769,560
15	スウェーデン	1,743,735
16	その他、アジア	1,739,286
17	チェコ	1,324,315
18	日本	1,192,119
19	ルーマニア	1,132,020
20	その他、ヨーロッパ	1,087,924

日本人旅客が好んで宿泊する都市は、上位20都市を見渡すと一部例外を除き大都市に集中している。日本から直行便が就航するミュンヘン、フランクフルトは突出して高い。一方で、ローテンブルクやフュッセン、リューデスハイムといった田舎町も上位にランクインしている。ドイツを訪ねる日本人旅客の内訳は、72〜73%は観光目的、22〜23%がビジネス渡航となっている。欧州全体と比較すると観光目的が5〜10%低く、ビジネス渡航が5〜10%程度高くなっている。ハノーファー、フランクフルト、ケルン、デュッセルドルフといった世界最大の国際産業見本市会場を複数抱えるドイツは、ほかの欧州各国と比較して必然的にビジネス渡航の割合が多くなる。

2. 旅行手配のデジタル化がもたらす ドイツ旅行商品の現在地

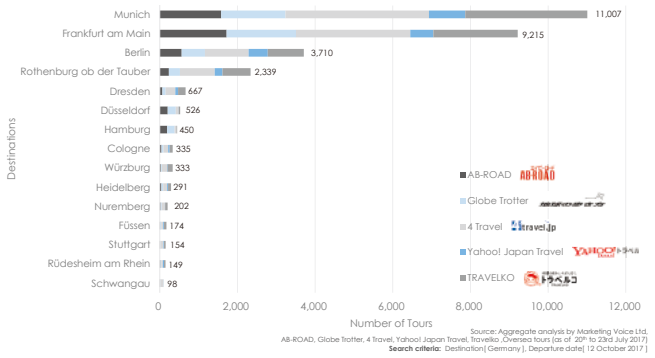
IPK調査によれば、2018年実績にて日本人によるドイツ旅行の40%が従来型の旅行会社経由による手配(予約)で行われた。また旅行会社、航空会社やホテル等の直売を含むすべてのドイツ旅行手配のうち、ネット予約のシェアは80%となった。この結果が示唆するのは、旅行手配のオンライン化が主流となり、日本人によるドイツ旅行手配の60%が従来型の旅行会社を経由しないルートで行われているという事実である。欧州旅行全体を対象にした場合でも、42%が旅行会社手配、ネット予約のシェアは82%となっている。

グローバルOTAが日本市場で市民権を得るようになり、また日本の既存の旅行会社がオンライン事業を拡充している中で従来型旅行商品のシェアが減少傾向になることが、日本の旅行業界で広く認識されるようになった。2017年にドイツ観光局が日本独自に実施をしたOTA調査の結果、従来型の募集型企画商品とOTAにおいて、ドイツ商品の内容や傾向がまったく異なることがはっきりした。

日本を代表するローカルOTA5社で提供されているドイツツアーは主にFIT向けの Air & Hotel パッケージで、その行き先は80%以上が日本からの直行便が就航するフランクフルトないしはミュンヘン、そして首都ベルリンに集中している。この上位3都市の日本人旅客による宿泊総数は、ドイツ全体の宿泊総数の50%程度にしか

日本人旅客による宿泊数の都市別統計ランキング

順位	町	宿泊数
1	フランクフルト	176,490
2	ミュンヘン	173,709
3	ベルリン	115.864
4	デュッセルドルフ	85,152
5	ケルン	38,152
6	ハンブルク	33,913
7	ローテンブルク	29,298
8	シュトゥットガルト	27,476
9	ドレスデン	27,281
10	ニュルンベルク	21,127
11	フュッセン	16,356
12	ハノーファー	15,879
13	ハイデルベルク	11,724
14	ライプツィヒ	9,022
15	フライブルク	8,749
16	ボン	8,696
17	フライジング	6,934
18	ブレーメン	6,817
19	アーヘン	6,116
20	レーゲンスブルク	5,810
21	リューデスハイム	5,791
22	ヴュルツブルク	5,291
23	ラインフェルンデン・エヒタ―ディンゲン	5,176



ならず、OTA上のドイツツアーが複雑なコンサルティングを必要としないFIT用の手軽な商品が全体の需要以上のシェアを持つといういびつな状況を生んでいる。

一方でローテンブルクやフュッセン、リューデスハイムといった日本人旅客による宿泊数上位の田舎町は、OTAでのツアー提供数が上位3都市には比較にならないほど少ない。田舎町は、空港からの移動が単純ではなく、コンサルを提供しないオンライン商品との親和性が低いことがうかがえる。

3. 従来型の募集型企画商品の現状

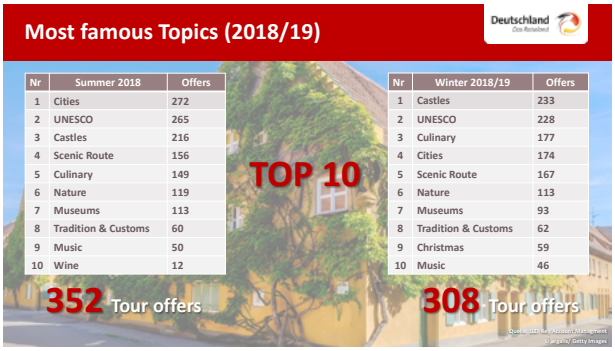
ドイツ観光局では、ドイツへの募集型企画商品を提供する旅行会社とドイツツアー商品を2012年以来常にモニターし、上期･下期ごとにトレンドを分析している。旅行会社数は2019年現在17社となっている。パッケージツアーカタログ等で販売されているグループツアーのみを分析の対象にしており、FIT用のスケルトンタイプの商品は対象外としている。従来型の旅行会社チャンネルでのドイツ旅行手配が全体の40%程度の水準にとどまるものの、カタログ等で販売されるドイツ旅行商品で好まれる宿泊都市や旅行テーマを詳しく分析することは、レジャーセグメント全体のトレンドを知る重要な手がかりになると思われる。

2018/19下期および2019年上期主要旅行会社17社によるドイツツアーで宿泊地となっている都市ランキング（ツアー商品数-催行の可否は考慮しない、ほとんどのツアーが1つのツアーで複数の都市に宿泊）

Nr	Summer 2018	Offers
1	Rothenburg	119
2	München	118
3	Frankfurt am Main	110
4	Berlin	96
5	Füssen	86
6	Dresden	67
7	Köln	45
8	Heidelberg	30
9	Rüdesheim	30
10	Stuttgart	27

Nr	Winter 2018/19	Offers
1	Rothenburg	127
2	München	109
3	Berlin	105
4	Frankfurt am Main	102
5	Füssen	87
6	Dresden	82
7	Heidelberg	36
8	Köln	33
9	Nürnberg	27
10	Schwangau	24

2018/19下期および2019年上期主要旅行会社17社によるドイツツアーで取り上げられた観光テーマ（ツアー商品数-催行の可否は考慮しない、ほとんどのツアーが1つのツアーで複数のテーマを提供）



Nr	Summer 2018	Offers
1	Cities	272
2	UNESCO	265
3	Castles	216
4	Scenic Route	156
5	Culinary	149
6	Nature	119
7	Museums	113
8	Tradition & Customs	60
9	Music	50
10	Wine	12

Nr	Winter 2018/19	Offers
1	Castles	233
2	UNESCO	228
3	Culinary	177
4	Cities	174
5	Scenic Route	167
6	Nature	113
7	Museums	93
8	Tradition & Customs	62
9	Christmas	59
10	Music	46

17社の旅行会社のドイツ商品の中で1度でも宿泊地として提供されている町の数は、2018/19年下期が70、2019年上期が80となっている。

片道12時間以上かけて訪問するロングホールデスティネーションにおいて、1カ国でこれほど多くの町が日本の消費者にむけて宿泊するべき町として旅行会社が商品化していることは、特筆に価する。

宿泊統計上位の大都市と肩を並べて、ローテンブルク、フュッセン、シュヴァンガウ、リューデスハイムといった田舎町がTOP10入りしている。これらは、ライン川クルーズ、ロマンチック街道というドイツを代表する人気観光ルート上の小都市であり、**従来型の募集型企画商品では、OTAが苦手とする田舎町が市民権を得ている。**添乗員が同行し、グループバスで手軽に田舎町を観光することができることが、このタイプの商品の一番の強みであることがわかる。

ドイツは、独自の文化発展をした地方の寄せ集めである。**地域ごとに違う魅力を周遊させること**が、旅行デスティネーションとしてのドイツの強みであり、その結果「観光街道」に代表される観光テーマが発達し、ドイツの旅行ブランドの代名詞のひとつになっている。

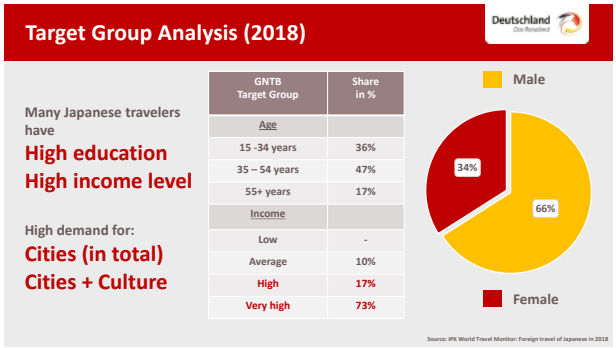
4. ドイツ観光局の今後の日本市場での セールス&マーケティング活動と旅行会社との関係

ドイツ観光局では、2018年に実施した市場調査を基に、以下のテーマおよびセグメントに対して集中してセールス&マーケティング活動を実施していくことになった。

テーマ：都市と文化、宮殿・城・庭園、観光街道、食文化

文化観光には、多くのサブテーマが含まれる。本セールスガイドで取り上げている「音楽の国ドイツ」「伝統と風習」「祭り」などはその一部である。自然を楽しむ、ハイキングといったアクティブツーリズム、温泉保養に代表されるウェルネス等のテーマは、今後メインテーマからトーンダウンしていく。

セグメント



GNTB Target Group	Share in %
Age	
15 -34 years	36%
35 – 54 years	47%
55+ years	17%
Income	
Low	-
Average	10%
High	17%
Very high	73%

ドイツ観光局グローバル戦略に基づき、次の特別テーマはPRテーマとして、前出のセールス&マーケティング活動とは別途継続していく：サステイナブルツーリズム、バリアフリー

日本から欧州方面への飛躍的な宿泊数増が今後はあまり見込めないことから、泊数は低水準ながらも常に増加基調を維持しつつ、訪問する旅客と滞在内容の質を上げていくことに、戦略の重点を移行していく。**富裕層**人口が世界トップレベルの日本市場では、このセグメントへのマーケティングを強化していき、旅行単価や現地消費額をあげることで価格より質を重視する観光プロダクトの展開を強化していく。

グループからFITに旅行トレンドがシフトしていく中、従来型の旅行会社にはFITでは実現困難なデスティネーションや観光プログラムをOTAが苦手とする周遊旅行のスタイルで積極的に導入していただき、OTAとの差別化を図ることをサポートしていくつもりである。

また、FIT商品を強化している旅行会社には、OTAが得意とする都市滞在型のスケルトン商品に、付加価値がつけられるような観光素材の提案を積極的に行っていく。

Goethe-Straße Reiseplaner
ゲーテ街道セールスガイド トリッププランナー

© visitfrankfurt_Holger Ullmann

Frankfurt フランクフルト

© ddpix.de

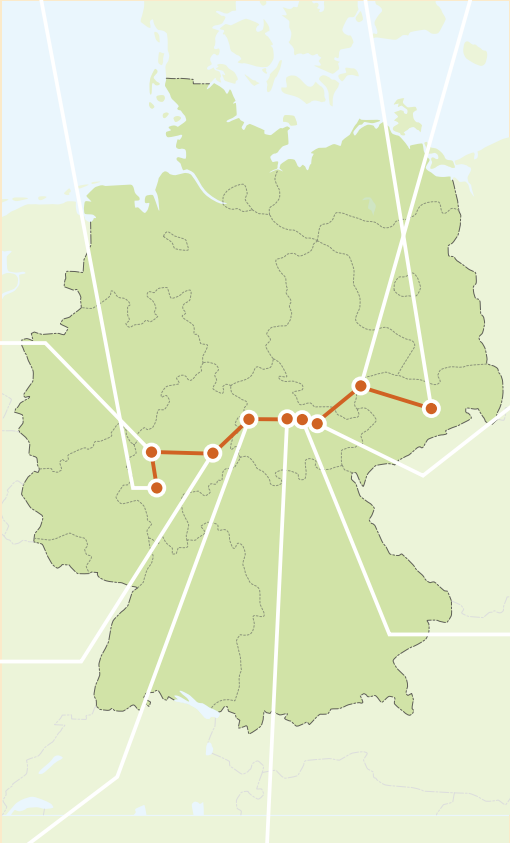
Dresden ドレスデン

© Bao Kuo

Leipzig ライプツィヒ

© Peter Jörg Albrecht/Tourist-Information Wetzlar

Wetzlar ヴェッツラー



© JenaKultur_Andreas Hub

Jena イエナ

© Christian Tech_Tourismus Fulda

Fulda フルダ

© Candy Welz

Weimar ワイマール

© Wartburg-Stiftung

Wartburg ヴァルトブルク城

© ETMG_Barbara Neumann

Erfurt エアフルト

Goethe-Straße
Frankfurt_Wetzlar_Fulda_
Wartburg_Erfurt_Weimar_
Jena_Leipzig_Dresden

www.germany.travel/goethestrasse

Bildnachweise / 写真提供
ゲーテ街道セールスガイドの掲載写真は、すべて街道加盟都市の観光局より提供されています。

ゲーテ街道 文化体験の旅

人気の高い観光ルートであるゲーテ街道は、ドイツ中央部の9つの興味深い都市を結んでいる。ヨハン・セバスティアン・バッハやヨハン・ヴォルフガンク・フォン・ゲーテ、リヒャルト・ワーグナーといった偉人と深く結び付き、豊かな建築、文化遺産、息づく伝統を体験できる。

マイン河畔の**フランクフルト**に1749年、ヨハン・ヴォルフガンク・フォン・ゲーテは生まれた。パウルス教会やレーマーなどの重要な見所とともに、ゲーテハウスを訪れるとゲーテの時代の生活を肌で感じられる。若きゲーテは**ヴェッツラー**で小説『若きウェルテルの悩み』の構想となった出来事を体験する。ラーン川の畔にあるこの町にはゲーテが過ごした日々とヴェッツラーの女性シャルロッテ・ブフとの友情を思い起こさせる博物館が２つあり、18世紀に領主司教は**フルダ**の町をバロック様式に改装した。大聖堂、レジデンツ宮殿、宮殿庭園、オランジェリー、大学、バロック様式の貴族の館が創る都市建築のアンサンブルは実に見事だ。

アイゼナッハのユネスコ世界文化遺産ヴァルトブルク城で宗教改革者マルティン・ルターは新約聖書をドイツ語に翻訳し、リヒャルト・ワーグナーは有名なフレスコ壁画から『タンホイザー』の構想を得た。バッハの展示物を所蔵する世界最大規模のバッハハウスと自動車博物館も見どころだ。

テューリンゲン州の首都**エアフルト**は1275年の長い歴史を誇り、ドイツで最もよく保存された中世の市街地で知られ、多数の教会や木組み家屋、ユニークなクレーマー橋が名所。ゲーテはプライベートで、また建設大臣としての公務で50回以上エアフルトを訪れた。大聖堂前の階段広場で行われる「大聖堂フェスティバル」は印象的で、ドイツの最も大きな公園のひとつに数えられる美しいエガ公園も見るに値する。

ゲーテは亡くなるまで文化都市**ワイマール**で暮らし、当時のまま保存されているゲーテハウスとシラーハウス、市宮殿、公園、アンナ・アマーリア大公妃図書館など16の物件がユネスコ世界文化遺産に登録されている。

ゲーテとシラーは光の町**イエナ**で親交を結び、世界文学上の傑作が生まれた。ドイツで２番目に古い植物園、ゲーテの記念館、シラーの園亭、世界最古のツァイス・プラネタリウムなど光学機器のゆりかごといわれるイエナには面白い見どころが多数ある。

音楽の町**ライプツィヒ**は、バッハやメンデルスゾーン、ワーグナーといった偉大な音楽家のゆかりの町。ゲヴァントハウス管弦楽団やトーマス教会合唱団などの有名なアンサンブルの本拠地であり、バッハ音楽祭や野外クラシック音楽祭等の国際的な音楽祭が毎年多数のファンを惹きつける。

ゲーテは一人の文化愛好家としてよく**ドレスデン**を訪れた。エルベ渓谷に懐かれたドレスデンは当時すでに欧州有数のバロックの麗都として知られていた。ドレスデンの旧市街の歴史的建築は壮麗で、世界的に有名な豊かな美術工芸品の数々はとても魅惑的だ。

フランクフルト
Frankfurt

ゲーテの生まれ故郷
フランクフルトにようこそ！

1200年余りの歴史を持つマイン川の大都会、ヨハン・ヴォルフガンク・フォン・ゲーテの生誕地を楽しもう。活き活きとした多様性を感じさせるヘッセン州最大の都会、伝統と現代が溶け合ったフランクフルト・アム・マインは一度の旅では汲みつくせない町である。ゲーテは生涯生まれ故郷を愛し、『詩と真実』の中で子供時代を過ごしたフランクフルトについて愛情をこめて書いている。町の中心部にある生家をはじめゲーテのゆかりの場所を巡りながら市内観光を楽しもう。

© Hessen Agentur_Florian Trykowski

みどころ

レーマーの丘
Römerberg
歴史を感じる佇まいを見せる中心部には立派な木組み建物が並び、1405年に建てられた市庁舎では今も市長が執務する。大聖堂とレーマーの間には“新しい”旧市街が完成し、新たな名所となっている。

新しい旧市街
Neue Altstadt
再現された歴史的な建物と新しい建物が見事に調和し、フランクフルトの波乱に富む歴史を思い起こさせる新たな人気スポット。

ゲーテハウス
Goethe-Haus
ヨハン・ヴォルフガンク・フォン・ゲーテの生家はドイツでもっとも重要でビジターの多いゲーテの記念館。ここで『若きウェルテルの悩み』をはじめ多くの作品が書かれた。18世紀に建てられたこの家の家具や絵からゲーテの幼年青年期の様子が伝わってくる。隣接するゲーテ博物館はゲーテが生きていた時代の絵画を展示。
開館：毎日
料金：7€、11名以上の団体5€。

皇帝大聖堂聖バルトメウス
Kaiserdom
神聖ローマ帝国皇帝の選挙が行われていた1562～1792年、10人の皇帝が戴冠式を挙げた。

パウルス教会
Paulskirche
1848年に第一回国民会議が開かれ、その時の憲法草案は、現ドイツ連邦共和国基本法の基となった。建物は授賞式や政治的文化的イベントに使用されている。

マイン・タワー Web
Main Tower
全面ガラス張りの丸いマイン・タワーにある高さ200mの展望台からは、フランクフルト全市街のスカイラインを見晴らせる。
開館：毎日
料金：7.5€

文化

博物館岸 Web
Museums embankment
フランクフルトには60の博物館美術館があり、ドイツ、欧州における文化芸術の重要な拠点だ。そのうち26が博物館岸にある。マイン川両岸に博物館が並び、映画、建築、絵画、ユダヤ史から古代彫刻まで全時代の芸術文化が見学可。なかでもフェルメールを含む巨匠の傑作を展示するシュテーデル美術館は世界的に有名。
休館：月曜
料金：14€（土・日 16€）
10名以上の団体 12€（土・日 14€）

食の楽しみ

食も町と同じように国際的な料理から郷土・名物料理まで楽しめる。市内には、計９つのミシュランレストランがある。

アップルワイン
Apfelwein
250年前からフランクフルトの飲み物と言えばアプフェルヴァイン（方言でアッペルヴォイ）。ひし形模様のコップで、ベンベルと呼ばれる陶器のピッチャーから注いで飲むのが定番。青色の模様を施した灰色の陶器はフランクフルトのリンゴ酒文化の象徴。下町のザクセンハウゼン地区には昔ながらのアップルワイン酒場が並ぶ。

フランクフルト郷土料理 Web
前菜：タマネギとオイルにマリネしたサワーミルクチーズまたはフランクフルト・ソーセージ
主菜：煮込み牛肉のグリーンソース（７種のハーブのソース。ゲーテの大好物と伝えられる）、あるいはザウアークラウト添え豚あばら肉リップヒェン
デザート：フランクフルター・クランツ（バタークリームのトルテ、またはベートメンヒェン（焼き菓子）

ショッピング

ツアイル
Zeil
有名なデパート、ショッピングセンター、専門店が集まる歩行者天国。ショッピングモールのマイツァイルに大きな食の「フードトピア」が2019年に開店した。

ゲーテ通り Web
Goethestrasse
世界の名だたるトップブランド、トップデザイナーの店が並ぶ高級ショッピンストリート。

市内観光

様々な定期出発のツアーがある。独自のガイドを付けたテーマのあるガイドツアーも組める。
詳細、問い合わせ Web

イベント

イベントカレンダー Web

フランクフルト観光局
Tourismus+Congress GmbH Frankfurt am Main
Kaiserstrasse 56, 60329 Frankfurt am Main
Tel: +49 (0) 69 / 21 23 88 00
Email: tourismus@infofrankfurt.de
URL: www.frankfurt-tourismus.de

Tourismus+Congress GmbH
Frankfurt am Main

ヴェッツラー
Wetzlar

ゲーテとカメラの町

中世の広場、立派な木組みの家、華麗なバロック建築、町の顔となるラーン川に架かる700年前の石橋、町の中心立つに立つ未完の大聖堂。ショップが並ぶロマンチックな小路。旧市街には穀物市、バター市、鉄市といった中世にできたマルクト広場があり、今はその周りにレストランやカフェが並んでいる。
1772年青年ゲーテは帝国最高法院での実習のためヴェッツラーに住んだ。婚約者のいるシャルロッテ・ブフ、愛称ロッテと知り合い、その時の失恋と苦悩の体験を『若きウェルテルの悩み』に昇華させた。小説は1774年に出版され欧州でベストセラーとなり、ヴェッツラーとロッテは世界的に知られるようになった。

© Tourist-Information/Peter Jörg Albrecht

みどころ

ロッテハウス
Lottehaus
ゲーテがしばしば訪れたシャルロッテ・ブフの家は博物館となり、18世紀の木組みの家屋と家具調度は当時の市民の生活文化をよく伝えている。３つの部屋がウェルテル関連の展示室。ロッテハウスと対をなすイエルザレムハウスは、ウェルテルのモデルとなった友人イエルザレムの住居。
休館：月曜
料金：3€、団体2€（イエルザレムハウス込）
ゲーテとロッテのコスチュームを着けたガイドによる市内観光、ゲーテをテーマとしたツアー、ゲーテの径ハイキングなど手配可能。

光学機器とカメラ
ヴィゼウム（光学精密機器の家）：関連企業14社が連携する光学精密の未来の世界を体験する博物館「ヴィゼウム」。
休館：月曜　有料

光のルート
市内に光学を体験できる展示物が多数置かれ、光学関連スポットや撮影ポイント約20か所を結ぶルート。

ライカ体験ワールド Web
THE WORLD OF LEICA EXPERIENCE
2014年にヴェッツラーのライツパークに拠点を戻したライカカメラは体験ワールドをオープンし、製造工程、フォトギャラリー、歴史的製品の展示など見ることができる。体験ワールドの入場は無料。ガイドツアー参加有料。工場視察は事前申し込み必要。カフェ、レストラン、ホテルあり。
開館：毎日

エルンスト・ライツ博物館
ライツパーク内にある写真芸術と写真技術の博物館。有名写真家の特別展等も実施。
休館：月曜　有料

イベント

伝統的な祭りはガルスマルクト、オクセンフェスト、ラーン川カルチャーデイ、夏の夜のワイン祭り。文化行事ハイライトは夏のヴェッツラー・フェスティバル。名所旧跡で演奏、演劇などが行われる。

食の楽しみ

ゲーテ・メニュー
ホテル・ビュルガーホーフのレストラン“デア・ポストライター”はゲーテのおばあさんのレシピーをヒントに創るゲーテ･メニュー。ゲーテの好物ハーブ･スープ、マスのフィレ、デザートはキャラメリゼしたフルーツ。

© Tourist-Information/Dominik Ketz

© Tourist-Information/Dominik Ketz

© Tourist-Information/Dominik Ketz

ヴェッツラー観光局
Tourist-Information Wetzlar
Domplatz 8, 35578 Wetzlar
Tel: +49 (0) 6441 997755　Fax: +49 (0) 6441 997759
Email: tourist-info@wetzlar.de
URL: www.wetzlar-tourismus.de

Wetzlar
Goethe- und Optik-Stadt

フルダ
Fulda

ゲーテが愛したバロックの都

フランクフルトからワイマールへの旅の途上、ゲーテはよくフルダに宿泊した。ゲーテの『西東詩集』は、友人たちと語りあったフルダの旅で書かれたと言われている。
芸術と華麗さを好んだフルダを治めていた領主司教により、18世紀にフルダの町はバロックの町となった。バロック地区の宮殿、大聖堂、貴族の館と庭園のアンサンブルは見事な華麗さを魅せている。買い物や食事には木組みの家が並び中世の雰囲気が残る旧市街がおすすめ。この町ではゲーテが愛した当時の町の姿を今も体験することができる。

© Tourismus und Kongressmanagement Fulda_Christian Tech

みどころ

大聖堂
Dom
18世紀に建築家ディーツェンホーファーが設計したバロック様式の司教座教会。フルダのシンボル。８世紀にドイツにキリスト教を布教した聖人ボニファチウスの墓所があり、巡礼聖地となっている。宝物殿あり。
オルガンコンサート：5、6、7、9、10月及び待降節期間の毎土曜12:05～12:35

市宮殿
Stadtschloss
ディーツェンホーファーが建てた領主司教のバロック様式の居城。宴会広間や居間など歴史的な豪華な部屋が公開されていて、絶対主義時代の領主司教の生活文化を垣間見ることができる。フルダとテューリンゲン窯の陶磁器展示がある。
開館：火曜～日曜、祝日

宮殿庭園
Schlossgarten
柵と壁で囲まれた18世紀のバロック様式庭園は、宮殿テラス、オランジェリー、大花壇から成る。夏はイベント会場として、冬はレモンやオレンジの温室に使われたオランジェリーのアポロ広間に人々が賑わう。ここは、隣接ホテルの朝食ルーム、カフェとしても使われる。オランジェリー前の階段にはフルダの象徴の一つである高さ6.8mの石彫刻のフローラ像が建つ。

ミヒャエル教会
Michaelskirche
大聖堂のそばに立つミヒャエル教会はドイツ最古の教会のひとつで、建物は11世紀のロマネスク様式。地下聖堂は９世紀初めの建立当時の姿をとどめている。

食の楽しみ

ゲーテ・メニュー
ゲーテの定宿であった郵便馬車宿を継いだロマンチックホテル・ゴルデナー・カルプフェン（金鯉亭）のレストランはグルメレストラン。ゲーテの滞在を示す碑がある。詩人にちなんだ特別料理「ゲーテ・メニュー」がある。

イベント

夏にイベントが多く、広場や街路でのお祭り、国際的なアーチストが出演するフェスティバル、野外コンサートが催される。ハイライトはミュージカルサマー・フルダ。６月中旬から８月下旬にフルダ宮殿劇場でミュージカルが上演される。すでに７本の世界的ミュージカルのプレミアを上演。2020年プレミア演目はロビンフッド。

クリスマスマーケット
11月末から12月23日に旧市街で開催。伝統的市は大学広場、中世市はフォンデラウ博物館中庭、地方名産市は旧市庁舎。

2020年イベントハイライト
2/27　カーニバル、バラの月曜パレード
5/21～24　ロイヤル・ガーデンショー
6/19～8/30　ミュージカルサマー
6/27　大聖堂広場野外コンサート
8月末～9月初旬　ワイン祭り
11/27～12/23　クリスマスマーケット
12/26～30　冬の寄席芸／オランジェリー

2021年
5/21～30　第61回ヘッセン州祭り
4月～10月　州ガーデンショー

日本語ガイドツアー

ゲーテの足跡を訪ねながら2時間の市内観光。最大20名のグループにつき90€。

© Tourismus und Kongressmanagement Fulda_Christian Tech

© Tourismus und Kongressmanagement Fulda_Christian Tech

フルダ観光局
Tourismus und Kongressmanagement Fulda
Bonifatiusplatz 1, 36037 Fulda
Tel: +49 (0) 661 102 1814
Email: tourismus@fulda.de
URL: www.tourismus-fulda.de

FULDA
DIE BAROCKSTADT

ヴァルトブルク城
Wartburg

世界文化遺産の名城

ドイツの中央に位置し、アイゼナッハの町を見下ろすように聳える壮大なヴァルトブルク城。ドイツで知らぬ人のない名城のひとつで、1999年にユネスコ世界遺産に登録された。
城に入ればそこはまさに一千年の歴史書の中。言い伝えによれば築城は1067年で、12世紀に建てられた後期ロマネスク様式の宮殿が昔の栄華を今日に伝えている。王宮は芸術の女神ミューズの宮廷として輝きを放っていた。伝説の歌合戦が伝えるその光景は、リヒャルト・ワーグナーのオペラ『タンホイザー』により世界的に知られている。城は中世の聖人の一人である聖エリーザベトが暮らし、活動した場所でもあった。またマルティン・ルターは城に匿われてた1521～22年の間に新約聖書をドイツ語に訳し、これが統一ドイツ文語の基礎になった。ヴァルトブルク城はドイツの歴史文化を語るとき必ず登場する城で、幾世紀にもわたり、堅固な要塞、華麗な居城、宿、避難場所でとして佇み、そしてまた、旅人には休息を与えた。城は荒廃したこともあったが、現在も生き続ける。19世紀に入り、外観内装の修復が行われた。宴会の間など中世の建造物が修復され、一部は新たに補強された。広間では夏の有名なヴァルトブルク・コンサートや様々なイベントが催される。歌合戦の場面を描いたモーリッツ・フォン・シュヴィントのフレスコ画も印象的。

© Wartburg-Stiftung

© Wartburg-Stiftung

みどころ

ヴァルトブルク城美術品
800年の間に収集されたヴァルトブルク城の美術品を博物館として展示するよう200年前にゲーテは助言した。現在、ルカス・クラナッハの絵画をはじめ9000点が公開されている。
開館：通年毎日
4月～10月：8:30～20:00
最終ガイドツアー：17:00
11月～3月：9:00～17:00
最終ガイドツアー：15:30

ヴァルトブルクのおもてなし
隣接する古城ホテル「ホテル・アウフ・デア・ヴァルトブルク」には、内装の異なる38の客室と、最高の景観を楽しめるレストランがあり、ヴァルトブルク城の伝統で訪れる人を暖かく迎えてくれる。

イベント

4月～9月　宴会広間でコンサート
8月　サマーナイト
12月　待降節コンサート
待降節週末　歴史的クリスマスマーケット
他、年に数回の「タンホイザーとヴァルトブルク城歌合戦」の上演

ヴァルトブルク城のクリスマスマーケット
キャンドル職人、ランタン作り、薬草売り、錫鋳物師などの中世の職人、楽士や大道芸人、それにテューリンゲン名物など、ヴァルトブルク城の歴史的クリスマスマーケットはロマンチックな舞台で開催されるここでしか体験できないイベント。宴会広間では待降節コンサートや人形劇が行われる。
日時：待降節の各土曜と日曜　10時～19時
料金：5€（コンサート、城内見学、ルターの部屋、南塔すべてを含む）

© Wartburg-Stiftung

© Wartburg-Stiftung

ヴァルトブルク財団
Wartburg-Stiftung
Auf der Wartburg 1, 99817 Eisenach
Tel: +49 (0) 36 91 /250-0　Fax: +49 (0) 36 91/20 33 42
Email: info@wartburg.de
URL: www.wartburg.de

WARTBURG
UNESCO WELTERBE

エアフルト
Erfurt

テューリンゲン州の首都

エアフルトはドイツの中央に位置し、高速道路と新幹線の交通インフラに恵まれた活気ある文化都市。大学町でもあり、造園業に伝統がある。町の創設は742年。ヴィア・レギア街道とニュルンベルク街道の二つの交易街道が交差し、中世には裕福な商業都市に発展。その文化はルター、ゲーテ、シラー、ナポレオン、バッハ一族をも引き寄せた。入念に修復されたルネッサンス様式の建物や木組みの家から当時の繁栄を窺い知ることができる。複数の教会や僧院、ペータースベルク要塞とともに建造物は保護維持され、ドイツ最大の中世都市の核をなしている。

© Hans P. Szysska

みどころ

聖マリア大聖堂と聖セヴェリ教会
Dom St.Marien und St.Severikirche
大聖堂の丘にそびえる２つの教会は町の象徴。大聖堂中央塔には世界最大の中世の鐘楼「グロリオーザ」が掛かる。

クレーマー橋
Krämerbrücke
長さ120mのクレーマー橋は人家が立ち並ぶ橋としては欧州最長。エアフルトの町のシンボル。ヴィア・レギア街道が橋を通り、中世には商店が並んだ。今日、小さな店やカフェ、画廊が軒を連ね、往時の賑やかさを偲ばせる。

カイザーザール
Kaisersaal
1715年建築の大学舞踏会ホール。1808年の王侯会議にナポレオンやロシア皇帝アレキサンダー一世が出席。パガニーニ、クララ・シューマン、リストなどがコンサートを行った。ゲーテが臨席してシラーの「ドン・カルロス」が初演された。現在は会議とイベント会場。団体見学可。

マインツ選帝侯国代官官邸
Kurmainzische Statthalterei
18世紀初めのバロック様式宮殿。1808年ゲーテとナポレオンが会見した場所。現在は州首相官邸。

ペータースベルク要塞
Zitadelle Petersberg
17世紀のバロック様式の市要塞。旧市街の下に地下道が張り巡らされている。外は常時開園。地下道見学可能。

市庁舎
Rathaus
19世紀の新ゴシック様式建物。館内にゲーテのファウストやワーグナーのタンホイザー、ルターの生涯、市の歴史を描いた絵画。市内観光中に見学可。

アウグスチノ会修道院
Augustinerkloster
13世紀建立。ルターは修道士として1505年から1511年までこの僧院で暮らした。

エガパーク
egapark
州最大の公園で、観賞用花壇は欧州最大。

イベント

2020年イベントハイライト
4/4～26　テューリンゲン・バッハ週間
州最大のバッハ音楽祭。
6/19～21　クレーマー橋祭り
州最大の旧市街祭り。
7/10～8/2　大聖堂野外オペラ
700年の歴史を誇る大聖堂前に70段の階段がある。ここを舞台に毎年オペラを上演。演目はナブッコ。
5～8月　大聖堂国際オルガンコンサート
土曜日（不定期）に開催。無料。
11/24～12/22　クリスマスマーケット
旧市街の大聖堂広場で開かれる美しい州最大のクリスマスマーケット。サンタと天使がガイドする市内観光手配可。

伝統の一品

タイセイ藍染工房
中世にエアフルトに富をもたらしたタイセイの藍染プリントを再現。シュレッサー通りのデューラーハウス。

辛子ショップと辛子博物館
新鮮な辛子と高級食品店。名物焼きソーセージに欠かせない伝統の辛子を作るボルン・ゼンフ店Born Senf & Feinkost。

食の楽しみ

伝統テューリンゲン料理レストラン

ツム・ギュルデネン・ラーデ（金車亭） Web
Köstritzer Zum Güldenen Rade
古い都市貴族の家にある高級レストラン。現代風にアレンジした伝統郷土料理。

ツム・ゴルデネン・シュヴァン（金の白鳥亭） Web
Zum Goldenen Schwan
市内最古の建物のひとつ。ビール醸造セミナーあり。

フォイヤークーゲル Web
Gasthaus Feuerkugel
クレーマー橋近くの有名レストラン。自家製テューリンゲン団子添え牛肉ロール他、ケーテおばあさんのレシピーで作るテューリンゲン料理。

ピア37 Web
Pier 37
テューリンゲン料理や洗練された創作料理を水辺でゆったり味わえる。

ファウストフード Web
Faustfood
エアフルトで最初の田舎風屋内グリル店。

ゴルトヘルム・チョコレート工房 Web
Goldhelm Schokoladen Manufaktur
スタイリッシュで最高級品質のチョコレートが評判。工房のカフェからクレーマー橋の眺めがよく、橋の上にも小さな店があり、隣には同店のアイスクリーム店がある。

名物料理

テューリンゲン焼きソーセージ
テューリンゲンの町に欠かせない名物。ある僧院の1404年の買物領収書からニュルンベルクのものより古いことが判明した。

テューリンガー・クレーセ（団子）
ジャガイモで作った丸い団子は全国的に有名。肉ロールと赤キャベツや、肉のロースト、キノコなどに付ける。

伝統のマルティンのガチョウ
聖マルティンの日（11月11日）にエアフルトでは昔からガチョウのローストを食べ、11月は多くのレストランで団子とリンゴ入り赤キャベツ煮を添えたこの料理が出る。

エアフルトのシットヒェン
伝統あるクリスマス菓子シュトレン。1329年の文書からドイツで最も古いクリスマス・シュトレンと言われる。

エアフルト観光局
Erfurt Tourismus und Marketing GmbH
Benediktsplatz 1, D-99084 Erfurt
Tel: +49 (0) 361-66 40 240　Fax: +49 (0) 361-66 40 299
Email: pr@erfurt-tourismus.de
URL: www.erfurt-tourismus.de

Erfurt CAPITAL OF THURINGIA Tourism & Marketing Board

ワイマール
Weimar

古典主義、音楽、バウハウス

ゲーテとシラー、バッハとリスト、モダニズムとバウハウス。これがワイマール。輝かしい過去を持ち多数の偉人を輩出した公国の首都。文化の中心、偉大な歴史、国際的な活気があり、しかもゆったりとした魅力ある旧市街は旅人を魅了する。この小さな町に重要な文化のエポックと欧州の歴史がぎっしりと詰まっている。詩人ゲーテとシラーの家、公園と庭園、壮大な城、世界的に有名なアンナ・アマーリア大公妃図書館はユネスコ世界遺産に登録され、また、2019年に100周年を迎えたバウハウスも世界遺産である。毎年多くの旅行者がユネスコ世界遺産の建造物のアンサンブルを観にワイマールを訪れている。

© Maik_Schuck

みどころ

- ゲーテの家とゲーテ国立博物館
- シラーの家
- 国民劇場、ゲーテとシラーの像
- バウハウス博物館（2019年4月落成）とバウハウス最初の建物ハウス・アム・ホルン
- アンナ・アマーリア大公妃図書館とロココホール
- 現代美術の新美術館
- リスト・ハウス
- マルクト広場（市庁舎とクラナッハの家）
- 聖ペテロ・パウル教会（ヘルダー教会）
- 市宮殿と宮殿美術館（修復のため2023年末まで閉館）
- 大公家霊廟（ゲーテとシラーの棺）
- ベルベデーレ宮殿を含む4つの宮殿と庭園

© Maik Schuck

© Klassik Stiftung Weimar

食の楽しみ

テューリンゲンの郷土料理
- ワイマールのオニオンケーキ
- テューリンゲン風ダンプリング（すりおろしたポテトの団子）
- テューリンゲン焼きソーセージ
- テューリンゲン風ブレッヒクーヘン（焼き菓子）

おすすめレストラン、カフェ

ガストハウス・ツム・ヴァイセン・シュヴァン（白鳥亭）
Zum Weissen Schwan
450年余続く欧州でも最も古い伝統を誇るホテル･レストラン。ゲーテは常連客であった。

フラウエントーア・カフェ・レストラン
Frauentor Café und Restaurant
テューリンゲン料理と地中海料理の創作料理。ロケーションは抜群。

グレートヒェンス・レストラン・カフェ
Gretchens Restaurant und Cafe
ゲーテハウス左隣にある小さなレストラン。創作料理。

ヨハンス・ホーフ
joHanns Hof
優雅で洗練された創作料理。ワインと最上級の肉のステーキが評判

レジデンツ・カフェ・レストラン
Residenz Café-Restaurant
ワイマールで現存するカフェでは最古。市宮殿前にあり、160年余り親しまれてきたカフェ。

ヤーゲマンス・レストラン
Jagemanns Restaurant
ヘルダー広場の歴史的な建物にあるスタイリッシュなレストラン。テラスとビアガーデンあり。

イベント

ゲーテワイン祭り
Goethe-Weinfest
毎年ゲーテの誕生日８月28日前後の４日間開催。
場所：ゲーテハウス前フラウエンプラン広場

陶器市
Potter Market
65の陶磁器製作者の屋台スタンドが出る。9月の土・日2日間。
場所：マルクト広場

たまねぎ市
Onion Market
10月の第二週末に3日間に開催されるたまねぎ市。1653年に秋の収穫を祝い始まった伝統あるこの祭りに毎年40万人以上が訪れる。チューリンゲン州最大の移動遊園地が設置され、約600の屋台が立つ。そのうち100あまりがたまねぎやたまねぎ飾りの屋台で、他にも、果物や民芸品なども売られている。
たまねぎ市では、ツヴィーベルクーヘン（オニオンケーキ）とフェダーヴァイザー（この時期にしか飲めない発酵途中のワイン）が一押し！
2020/10/9～11

クリスマスマーケット
Christmas Market
エルツ山地の民芸品やラウシャのガラス装飾品の屋台が魅力。マルクト広場から国民劇場広場で開催。
2019/11/26～2020/1/5

ワイマール観光局
Weimar Tourist Board
UNESCO-Platz 1, 99423 Weimar
Tel: +49 (0) 3643 7450
Email: Tourist-info@weimar.de
URL: www.weimar.de/en/tourism/

B2B担当：Serge Strekotin
Email: strekotin@weimar.de

weimar
Culture City of Europe

イエナ
Jena

光の町

サイエンスセンター、テクノロジー、文化、学生天国･･･これが人口11万人の町イエナ。ザーレ川畔の町イエナの中心にはマルクト広場、14世紀の市庁舎、中世の市城壁とイエンタワーといった過去と現代が併存する。1558年に創設されたイエナ大学は最も古い大学の一つで、18世紀後半にはイエナを欧州の精神的中心へと押し上げた。1778年に訪れて以来イエナに平安を見出したゲーテは、植物園や大学図書館などの設立に寄与。ゲーテがヒトの顎間骨を発見したのもイエナであった。シラーはゲーテの勧めでイエナ大学に招聘され、その後深い友情を築いていく。
1846年、カール・ツァイスはレンズ製作所を開き、数学物理学者アッベ、光学ガラス研究者ショットとのドリームチームで、イエナをレンズと顕微鏡の世界的中心地にした。フリードリッヒ・シラー大学、エルンスト・アッベ単科大学、この町を拠点とするハイテク企業や研究所により、イエナはテクノロジーの町として発展し続けている。

© JenaKultur_Andreas Hub

みどころ

マルクト広場
Marktplatz
大学創始者ハンフリート立像、市庁舎。

シラーのガーデンハウス
Schiller's summer house
シラーが家族とともに10年間住んだ家。ここで戯曲『ワレンシュタン』を書き終え、『マリア・スチュアート』、『オルレアンの少女』など、多数のバラードを執筆した。庭にはゲーテと度々意見を交換した石のテーブルがある。
開館：火～日（冬期は火～土）　有料

植物園とゲーテ記念館
Botanical garden
ドイツで二番目に古い植物園。ゲーテは管理事務所に度々滞在し、建物はゲーテ記念館となっている(改装のため閉館中)。自ら植えた樹齢200年のイチョウの木が立つ。
植物園　開館：毎日　有料

© JenaKultur_Andreas Hub

ロマン派の家
Romanticist house
哲学者フィヒテのかつての住まい。1785～1800年のイエナの初期ロマン派に関する文学博物館。
開館：火～日　有料

イエンタワー
JenTower
イエナの象徴である159mの円筒建物は、東独のスター建築家ヘンゼルマンが人民所有企業カール・ツァイス研究センターとして設計した。現在はホテル、レストラン、展望台として使用されている。

ツァイス・プラネタリウム
Zeiss-Planetarium
1926年開業し、現在稼働しているプラネタリウムでは世界最古。投影機はツァイス社製ウニヴェルザリウム8型。
開館：毎日　有料

ドイツ光学博物館
German Optical Museum
イエナの光学産業の歴史を展示。体験型展示への改装改築のため2023年前期まで閉館。

イベント

クルトゥーア・アレーナ
Kulturarena
1992年より開催されているオープンエア・フェスティバル。演劇と映画音楽の他、ポップやロック、ジャズクラシックまで幅広い分野のコンサートが、イエナの中心アレーナ広場で開かれ、国際的スターやアマチュアまで各ジャンルの出演者が登場する。文化的な出会いを目的とし、市民が楽しみにしている祭り。７月から８月の６週間開催され、東部ドイツ最大のオープンエア・フェスティバルとなっている。

休暇・アクティビティ

ザーレ渓谷ハイキング
Saalehorizontale
ザーレ川の渓谷にある町を囲む丘にはザーレ・ホリツォンターレと呼ばれる72㎞のハイキングコースがあり、町や村、古城宮殿のある景色を楽しめる。1日ハイキングなら、例えば、バラの季節にドルンブルク宮殿のハイキングがおすすめ。ガイドツアー予約可能。

ガイドツアー

２人の偉人、ゲーテとシラーゆかりの場所を巡る市内観光「イエナのシラーとゲーテ」や「相性ぴったりのゲーテとイエナ」がある。いずれも徒歩観光で、イエナ観光局が催行。

イエナ観光局
Jena Tourist-Information
Markt 16, 07743 Jena
Tel: +49 (0) 3641 498050
Email: Tourist-info@jena.de
URL: www.visit-jena.de

JENA LICHTSTADT.

ライプツィヒ

Leipzig

音楽の町

千年余りの歴史と豊かな文化の遺産を誇る町ライプツィヒにようこそ！ライプツィヒ大学に学ぶヨハン・ヴォルフガンク・フォン・ゲーテが足しげく通ったレストラン「アウアーバッハスケラー」。ライプツィヒをとても気に入り、有名な戯曲『ファウスト』の中でこのレストランの場面を描いている。新たな刺激を与え、開放的な商業の町のライフスタイルは、若い世代にも好まれ、今日、約4万人の学生がライプツィヒで学んでいる。

© Huang Liang

音楽の町

多くの偉大な作曲家のおかげでライプツィヒには他の欧州の町では体験できない音楽と歴史がある。ヨハン・セバスティアン・バッハは亡くなるまで27年間ライプツィヒに住み、トーマス教会合唱団を監督し、受難劇やフーガの技巧、口短調ミサ曲といった有名な傑作を作曲した。バッハの墓はトーマス教会の内陣にある。世界のクラシック音楽ファンは、一度はトーマス教会合唱団が歌うバッハの曲を聴いてみたいという。毎週行われるモテットと、毎年6月開催のバッハ音楽祭、あるいは12月のクリスマスオラトリオのコンサートでこうした音楽ファンの夢を実現することができる。 Web

オペラ・ライプツィヒと ゲヴァントハウス管弦楽団

世界的な名声を博しているライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団とオペラ・ライプツィヒ。リヒャルト・ワーグナーの生誕地であるライプツィヒでは、オペラ・ライプツィヒが目下壮大なプロジェクトに向かって進んでいる。2022年までに全てのワーグナーオペラを演奏プログラムに取り入れ、同年6月20日～7月14日開催のフェスティバルで上演するというプロジェクトである。 Web

楽譜の道

音楽の遺産を巡るには「ライプツィヒ楽譜の道」がよい。5㎞に渡るルートには道路に金属サインが埋め込んであり、バッハ博物館など全ての音楽スポットを訪ねることができる。2018年、このプロジェクトは欧州遺産認証を授与された。

みどころ

トーマス教会
Thomaskirche
1212年建立、後期ゴシック様式。トーマス教会合唱団の本拠地。J.S.バッハが眠っている。

バッハ博物館
Bach-Museum
J.S.バッハの生涯、業績、楽器などを体験型展示で紹介。
休館：月曜
料金：8€　10人以上の団体 7€/一人あたり

メンデルスゾーン・ハウス
Mendelssohn-Haus
世界で唯一のメンデルスゾーンの家かつ博物館。日曜11時に音楽サロンでコンサートあり。
開館：毎日

ニコライ教会
Nikolaikirche
市内最古の教会でバッハゆかりの教会。東独時代の月曜に行われた平和の祈りは1989年の平和革命の出発点となった。

旧市庁舎
Altes Rathaus
マルクト広場に立つ16世紀のルネッサンス様式の建物。現在は市歴史博物館。裏のナッシュ広場にゲーテの学生時代を表すゲーテ像。
休館：月曜、有料

シューマン・ハウス
Schumann-Haus
ロベルトとクララ・シューマンの住居。展示場は2階の居間。
休館：火曜

イベント

オペラ・ライプツィヒの ワーグナー・リング・ツィクルス
2020年1月15、16、18、19日および5月20～24日

ライプツィヒ・バッハ音楽祭
2020年6月11～21日

ゲヴァントハウスの マーラー・フェスティバル
2021年5月13～24日

© Huang Liang

© PK Fotografie

© PK Fotografie

ライプツィヒ観光局
Leipzig Tourismus und Marketing GmbH
Augustusplatz 9, 04109 Leipzig
URL: www.leipzig.travel

日本担当：
Susi Wieschollek, Sales Manager Japan
Email: s.wieschollek@ltm-leipzig.de

LEIPZIG REGION
www.leipzig.travel

ドレスデン
Dresden

文化香る麗都

エルベ川にルネサンスやバロックの建物のアンサンブルを映す欧州で最も美しい都のひとつドレスデン。ワーグナーやゼンパーオペラに代表される音楽の町であり、美術、宝飾工芸品、宮殿や教会建築でも世界的の見どころが豊富。2020年はベートーヴェン生誕250年、およびアウグスト強王生誕350年が観光のテーマとなる。

© ddpix.de

見どころ

ツヴィンガー宮殿
Zwinger
18世紀後期バロック様式の重要建築。世界屈指のアルテ・マイスター絵画館（ラファエロ『システィーナのマドンナ』、フェルメール等）、陶磁器と数学物理学の博物館がある。

レジデンツ宮殿（ドレスデン城）
Residenzschloss
緑の丸天井や豪奢なザクセン王家の財宝を展示。修復を終え豪華な客間が見学可能となる。

ゼンパーオペラ
Semperoper
ゴットフリード・ゼンパー設計の世界有数の美しい歌劇場。オペラ、バレエ、コンサートを公演。シュターツカペレ・ドレスデンの本拠地。

フラウエン教会
Frauenkirche
ドレスデンの象徴。1945年の爆撃で廃墟となり、戦争警告の碑として残された後、統一後、市民の手で2005年に再建された。コンサートが頻繁に行われる。

ピルニッツ城
Schloss Pillnitz
アウグスト強王がエルベ川上流に建てた東洋趣味の離宮。船の小旅行に最適。

ノイシュタット新市街
Neustadt
バロック様式建物が美しいケーニッヒ通りと学生や芸術家が多いサブカルチャーの発信地。

新しいアトラクション

ツヴィンガー宮殿
中庭の仮設ドームで強王の結婚式「世紀のウェディング」にVRタイムトラベル。2020年中に宮殿内に移転。ブリュールテラス地下のドレスデン要塞では「要塞の歴史」を上演中。

レジデンツ宮殿
強王は1719年の息子の結婚祝いにステート・アパートメントを豪華に改築。2019年9月に修復工事が完成し一般公開されている。

郷土の味

- ザクセン風ポテトスープ
- ドレスデン風ザウアーブラーテン（マリネ牛肉ローストの煮込み）
- クヴァルクコイルヒェン（クヴァルクチーズ、ポテト、レーズン、小麦粉のバター揚げ）
- ザクセン産ワイン

おすすめレストラン

ゾフィーエンケラー
Sophienkeller
歴史的建築地下で味わうザクセン料理。

プルファートゥルム
Pulverturm
フラウエン教会そば側の石造り地下レストラン。

アルテ マイスター
Alte Meister
絵画館隣りのカフェ。夜は本格レストラン。

ホテルヴィラ・ゾルゲンフライ
Hotel Villa Sorgenfrei
隣町ラーデボイルにあるブドウ畑に囲まれた18世紀の館。レストランはミシュラン一つ星。仏・地中海料理。

おすすめエクスカーション

マイセン
Meissen
中世の面影漂うロマンチックな古都。マイセン磁器工房、大聖堂、アルブレヒツブルク城。

ラーデボイル
Radebeul
伝統ワイナリー、ヴィラ風建物が多いザクセン・ワイン街道の町。

モーリッツブルク城
Schloss Moritzburg
郊外の森で濠に囲まれたバロック様式の宮殿

ベートーヴェン生誕250年

音楽の町ドレスデンでは2020年ベートーヴェン記念年に特別プログラムが組まれる。例えばゼンパーオペラのシュターツカペレは、ティーレマン指揮でベートーヴェンの交響曲1番から5番までを演奏（公演予定はP9を参照）。
ベートーヴェンは1796年にドレスデンに演奏旅行で訪れている。詩人シラーは1786,87年夏にドレスデン郊外に住む友人の家に滞在し、ライプツィヒで書き始めた詩『歓喜に寄す』を完成させた。その37年後、ベートーヴェンは第九の最終合唱にこの自由の詩を入れた。ワーグナーは第九を毎年復活祭前の日曜日に上演し、シュターツカペレはこの伝統を今も引き継いでいる。ザクセン劇団のオーケストラは、ドレスデンの復活教会とラーデボイルのルター教会で第九を大晦日に50年以上も演奏し続けている。

カール・マリア・フォン・ヴェーバー博物館 Web
Carl Maria von Weber Museum
ヴェーバーの夏の別荘。ピアノ演奏とグラス・ワイン付きガイドツアー1時間）

リヒャルト・ワーグナー記念館 Web Web
郊外のグラウパにワーグナーが1846年に滞在しオペラ「ローエングリン」を書いたローエングリンハウスと呼ばれる記念館とワーグナー博物館（かつての狩猟館）がある（休館：月曜）。

ドレスデン観光局

(B2B) Dresden Marketing GmbH
Messering 7, 01067 Dresden
Tel: +49 (0) 351 50173135
Email: tourismus@marketing.dresden.de
URL: www.marketing.dresden.de

(B2C) Dresden Information GmbH
Prager Strasse 2b, 01067 Dresden
Tel: +49 (0) 351 501 501　Fax: +49 (0) 351 501 509
Email: info@dresden.travel
URL: www.dresden.de/tourism

Dresden. Elbland.